HIC-SE852UW

取扱説明書

HYTEC INTER Co., Ltd.

第１.３版

管理番号：TEC-26MA0233-01.3

ご注意

- 本書の中に含まれる情報は、当社（ハイテクインター株式会社）の所有するものであり、当社の同意なしに、全体または一部を複写または転載することは禁止されています。
- 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一、ご不審な点や誤り、記載漏れなどのお気づきの点がありましたらご連絡ください。

改版履歴

第 1 版	2026 年　2 月 10 日	新規作成　バージョン 5.2.3 対応
第 1.1 版	2026 年　6 月 23 日	軽微な修正
第 1.2 版	2026 年　10 月 30 日	バージョン 5.3.1 対応
第 1.3 版	2026 年　11 月 18 日	軽微な修正（仕様）

ご使用上の注意事項

- 本製品及び付属品をご使用の際は、取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

- 本製品は、一般事務用、通常の産業等の一般的用途を想定した製品であり、ハイセイフティ用途*での設備や機器としての使用またはこれらに組込んでの使用は意図されておりません。これらの設備や機器、システムなどに本製品を使用され、本製品の故障等により、人身事故、火災事故、社会的な損害が生じても当社はいかなる責任も負いかねます。お客様が、本製品をハイセイフティ用途に使用される場合は、必要な安全性を確保する措置を施す等十分な配慮をお願いします。

  * ：極めて高度な信頼性や安全性が要求され、機器の故障、誤動作により、信頼性や安全性が確保されない場合、生命、身体や財産等に損害を及ぼす恐れがある用途

- 本製品及び付属品を分解したり改造したりすることは絶対に行わないでください。

- 本製品及び付属品の故障、誤動作、不具合、あるいは天災、停電等の外部要因によって、通信などの機会を逸したために生じた損害等の純粋経済損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

- 本製品及び付属品は、改良のため予告なしに仕様が変更される可能性があります。あらかじめご了承ください。

- 本製品を掃除する時は、柔らかい乾いた布で汚れをふき取ってください。汚れがひどい場合は、中性洗剤をご使用ください。

- 太陽光などの非常に明るい被写体にカメラを向けるのは避けてください。イメージセンサが損傷する可能性があります。

- 本製品を使用する場合、Microsoft、Apple、Googleの関連コンテンツが含まれます。本ユーザマニュアルの写真とスクリーンショットは、当社製品の使用方法を説明するためだけに使用しています。Microsoft、Apple、Googleに関連する商標、ロゴおよびその他知的財産の所有権は、上記の企業に帰属するものとします。

- 本取扱説明書では、当社製品の操作等の説明のために他社製品（オープンソフトウェア含）を使用した例を記載していますが、当社が、特定他社製品（オープンソフトウェア含）の使用を推奨するものではありません。また、当社は、他社製品（オープンソフトウェア含）に関しての問合

せ対応は致しません。他社製品（オープンソフトウェア含）に起因するお客様または第三者での損害・機器への損傷については、当社は一切の責任を負いません。

免責事項

- インターネットにアクセスできる製品に関しては、製品の使用は完全にお客様自身の責任で行われるものとします。当社は、サイバー攻撃、ハッカー攻撃、ウイルス検査、その他のインターネットセキュリティリスクにより生じた異常動作、プライバシー漏えいその他の損害について、一切責任を負わないものとしますが、必要に応じてタイムリーな技術サポートを提供します。
- 監視法は国によって異なります。監視目的で本製品を使用する前に、お住まいの地域のすべての法律を確認してください。私たちは、違法な操作によって生じるいかなる結果についても責任を負いません。

サイバーセキュリティに関する推奨事項

- 強力なパスワードを使用します。パスワードには、少なくとも 8 文字、または文字、数字、大文字と小 文字の組み合わせを使用する必要があります。
- デバイスのパスワードを定期的に変更して、承認されたユーザのみが system にアクセスできるようにします (推奨時間は 90 日です)。
- サービスのデフォルトポート(HTTP-80、HTTPS-443など)を変更して、部外者がアクセスできるリスクを軽減することをお勧めします。
- ルータのファイアウォールを設定することをお勧めします。しかし、いくつかの重要ポート(HTTPポート、HTTPSポート、データポートなど)は閉じることができません。
- デバイスを直接公衆ネットワークに接続することはお勧めしません。公衆ネットワークに接続する必要がある場合は、ルータを介しそれに対応するファイアウォールポリシーを設定してください。
- SNMP の v1 および v2 機能を使用することは推奨されません。
- WEBクライアントアクセスのセキュリティを強化するために、HTTPSを有効にするTLS証明書を作成してください。
- ブラックリストとホワイトリストを使用してIPアドレスをフィルタリングします。これにより、指定された IP アドレスを除くすべての人がシステムにアクセスできなくなります。
- 複数のユーザを追加する場合は、ゲストアカウントの機能を制限してください。
- UPnP（Universal Plug and Play）機能を有効にすると、ルータまたはモデムのポートの転送が自動的に試行されます。ユーザにとっては便利な機能ですが、システムが自動的にポートを転送するためデータ漏洩のリスクが高まります。UPnP（Universal Plug and Play）機能を必要としない場合は、無効に設定することをお勧めします。
- ログを確認してください。権限のないユーザによってデバイスがアクセスされたかどうかを知りたい場合は、ログで確認できます。システムログには、システムのログインに使用された IP アドレスとアクセスされた IP アドレスが表示されます。

規制情報

電波障害自主規制について

この装置は，クラスＡ情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。　VCCI－A

RoHS



製品は、電気および電子機器における特定の有害物質の使用の制限に関する指令 EU RoHS 指令 2011/65/EU および修正指令 EU 2015/863 に従って設計され、製造されています。

2012/19/EU(WEEE 指令):廃電・電子機器に関する指令(WEEE 指令)。WEEE の環境管理を改善するためには、寿命の末に電子機器の回収、処理、リサイクルの改善が不可欠です。したがって、この記号でマークされた製品は、責任ある方法で廃棄する必要があります。

指令 94/62/EC:この指令は、包装および包装廃棄物および環境保護の管理を目的としています。本書に記載されている製品の包装・包装廃棄物は、適切なリサイクルと環境保護のために、指定された収集ポイントで廃棄する必要があります。

REACH(EC1907/2006): REACH は化学物質の固有特性をより適切かつ早期に同定することで、人の健康と環境の高いレベルの保護を確保することを目的とした化学物質の登録、評価、認可、制限に関するものです。本書の製品は、REACH の規則および規則に準拠しています。**REACH** の詳細については、**DG GROWTH** または **ECHA** のウェブサイトをご覧ください。

安全上のご注意

安全に正しくお使いいただくために

ご使用の前にこの「取扱説明書」をよくお読みの上、正しくお使いください。
お読みになった後はいつでも見られる所に保管してください。
尚、本書のメニュー画面は Microsoft Edge でアクセスした HIC-SE852UW の画面を採用しファームウェアバージョンは、5.3.1（36953）で作成しています。

絵表示について
この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。
お買い上げになった機器に当てはまらない注意事項もありますが、ご了承ください。

警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



○記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

使用上の注意　　**⚠警告**



●本機に乗らない！
倒れたり、こわれたりしてけがの原因になることがあります。



●本機の上に重いものを置かない！
バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因になることがあります。



●移動させる場合は、必ず電源スイッチを切り、プラグを抜き、機器間の接続ケーブルをはずす！
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。



●長期間使用しないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く！
火災の原因となることがあります。



●専用 AC アダプタ以外は使用しない！
定格外の AC アダプタを使用すると、火災・感電の原因になることがあります。



●電源コードを傷つけない！ 加工しない！ 無理に曲げない！ ねじらない！ 引っ張らない！ 加熱しない！
コードが破損して火災・感電の原因となります。



●雷が鳴り出したら、同軸コネクタ/ケーブルや電源プラグに触れない！
感電の原因になります。



●指定された消費電力（W）を越える装置は接続しない！
火災の原因となります。本機の AC アウトレットが供給できる電力（W）は AC アウトレット付近または取扱説明書に表示してあります。



●レンズで太陽・照明などをのぞかない！
強い光が目に当たると視力障害を起こすことがあります。



●本機のケース・裏パネル等をはずさない!
内部には高圧の部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店または営業マンにご依頼ください。



●本機の上に水などの入った容器を置かない!
こぼれて中に入ると、火災・感電の原因になります。



●風呂、シャワー室などの水場では使用しない！
火災・感電の原因となります。



●本機の上に小さな金属物を置かない!
中に入ると、火災・感電の原因となります。



●表示された電源電圧以外は使用しない!
火災・感電の原因となります。



●本機に水を入れたり、濡らしたりしない！
火災・感電の原因になります。
雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。



●本機の開口部から金属物や燃えやすいものなどの異物を差し込まない！落とし込まない！
火災・感電の原因となります。



●本機を改造しない！
火災・感電の原因となります。

設置について　　**警告**



●不安定な場所に置かない！
落ちたり、倒れたりして、けがの原因になります。



●電源コードの上に重いものを置かない！　本機の下敷きにしない！
コードが傷ついて、火災・感電の原因になります。コードの上を敷物などで覆うと、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。



●水場に設置しない！
火災・感電の原因となります。



●指定された機器以外とは接続しない！
火災・感電の原因となります。



●本機の固定は工事専門業者に依頼を！
本機を固定する場合は、指定された方法できちんと固定しないと、落ちたり、倒れたりして、火災・感電・けがの原因になります。特に、壁や天井に固定する場合は、必ず工事専門業者にご依頼ください。なお、取付け費用については、販売店または営業マンにご相談ください。



●湿気やほこりの多い場所に置かない！
火災・感電の原因となることがあります。



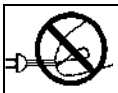
●調理台や加湿器のそばなど油煙や湿気が当たる場所に置かない！
火災・感電の原因となることがあります。



●本機の通風孔をふさがない！
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。次のような使い方はしないでください。
・本機を仰向けや横倒し、逆さまにする。風通しの悪い狭い所に押し込む。
・じゅうたんや布団の上に置く。テーブルやクロスなどを掛ける。



●電源コードを熱器具に近づけない！
コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。



●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない！
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。



●濡れた手で電源プラグを抜き差ししない！
感電の原因となることがあります。

異常時の処理について **警告**



●煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態の場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグを抜く！
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
煙が出なくなるのを確認して、販売店または営業マンに修理をご依頼ください。
お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。



●本機の内部に水などが入った場合は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜く！
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
販売店または営業マンにご連絡ください。



●本機の内部に異物が入った場合は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜く！
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
販売店または営業マンにご連絡ください。



●本機が故障した場合は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜く！
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
販売店または営業マンに修理をご依頼ください。



●本機を落としたり、ケースが破損した場合は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜く！
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
販売店または営業マンにご連絡ください。



●電源コードが傷んだ（芯線の露出・断線など）場合は、交換を依頼する！
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
販売店または営業マンに交換をご依頼ください。

お手入れについて　　**注意**



●お手入れの際は安全のため、スイッチを切り電源プラグを抜く！
感電の原因となることがあります。

●一年に一度くらいは、販売店または営業マンに内部の掃除の相談を！
本機の内部にほこりがたまったまま使用し続けると、火災・故障の原因になることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。
なお、掃除費用については販売店または営業マンにご相談ください。

注意
本パッケージに含まれる内容に損傷、不足、不適当なものがあった場合、お住まいの地域の販売店までご連絡ください。本製品の不正改造を行うと保証の対象外となります。

その他

通知
- 本書に記載された情報は予告なしに変更される場合があります。
- 本書に含まれる情報は、あくまで参考用とみなされます。

通知
- インターネットを経由する機能については、お客様のインターネット環境に合わせた設定が必要です。
- お客様のインターネット環境の変更が必要となる場合もあります。

目次

1. はじめに 17

1.1 製品概要 17
1.2 特徴 17
1.3 監視アプリケーション 18
1.4 梱包物一覧 19
1.5 製品外観 19
1.6 カメラの設置 21

2. ネットワーク接続 25

2.1 LAN 25
2.1.1 IP-Tool によるアクセス 25
2.1.2 ブラウザから直接アクセス 28
2.2 WAN 29

3. ライブ画面 31

3.1 ライブ 31

4. 設定ホーム 34

4.1 システム設定 35
4.1.1 基本情報 35
4.1.2 日付と時間 36
4.1.3 ローカル設定 38
4.1.4 ストレージ 39
4.1.5 ビジネスシナリオ（運用シーンの設定） 46
4.2 画像設定 47
4.2.1 画質調整 47
4.2.2 映像/音声 53
4.2.3 OSD 55
4.2.4 プライバシーマスク 56
4.2.5 ROI 57
4.2.6 スマートサプリメントライト 58
4.2.7 スプライシング 59
4.3 アラーム設定 60

4.3.1 モーション検出 60
4.3.2 異常 67
4.3.3 アラーム入力 71
4.3.4 アラーム接点出力 73
4.3.5 アラームサーバ 77
4.3.6 音声アラーム 78
4.3.7 光アラーム 80
4.3.8 妨害検知 81
4.3.9 音声例外 83
4.3.10 アラーム解除 85
4.4 イベント設定 86
4.4.1 物体検知（物体出現･消失検知） 87
4.4.2 ラインクロス（ライン越え検知） 90
4.4.3 領域に入る（エリア侵入検知） 97
4.4.4 領域を出る（エリア退出検知） 101
4.4.5 ターゲットカウント（ライン通過カウント） 105
4.4.6 地域統計（エリア内滞留カウント） 110
4.4.7 エリア侵入検知（エリア内活動検知） 115
4.4.8 ヒートマップ 119
4.4.9 徘徊検知 121
4.4.10 違法駐車検知 125
4.4.11 ビデオメタデータ 129
4.4.12 顔検出 134
4.5 ネットワーク 139
4.5.1 TCP/IP 140
4.5.2 ポート 143
4.5.3 サーバ 144
4.5.4 ONVIF 146
4.5.5 DDNS 147
4.5.6 SNMP 150
4.5.7 802.1X 153
4.5.8 RTSP 154
4.5.9 RTMP 156
4.5.10 UPnP 157
4.5.11 Email 158
4.5.12 FTP 160

4.5.13 HTTP POST 162
4.5.14 HTTPS 165
4.5.15 NAT 168
4.5.16 QoS 169
4.6 セキュリティ設定 170
4.6.1 ユーザ 170
4.6.2 オンラインユーザ 174
4.6.3 ブロックと許可リスト 175
4.6.4 セキュリティ管理 176
4.7 メンテナンス 179
4.7.1 バックアップと復元 179
4.7.2 再起動 181
4.7.3 アップグレード 182
4.7.4 操作ログ 183
4.7.5 シリアル出力（未サポート） 184
4.7.6 メンテナンス情報 184

6. チャート 185

5.1 ターゲットカウント（ライン通過カウント） 185
5.2 ヒートマップ 187
5.3 地域統計（エリア内滞留カウント） 188

7. 検索 190

6.1 録画検索 191
6.1.1 SD カード録画（動画） 191
6.2 画像検索 193
6.2.1 SD カード画像（静止画） 193

8. 製品仕様 194

9. 困ったときには 197

◆パスワードを忘れたときの対処方法 197
- リセットボタンを操作して初期化する。 197
- IP Tool で初期化する。 198

◆本機から YouTube Live 配信設定手順 199
◆本体の電源が入らない 206

◆RJ-45 ポートでリンクが確立しない 206
◆ブラウザ経由でデバイスを接続できない 206
◆IP-Tool でデバイスを見つけられない 207
◆プラグインをインストールしたが Edge の IE 互換モードで映像を表示できない 207
◆プラグインをアンインストールしたい 207
◆音が聞こえない 208

10.製品保証 209

1. はじめに

1.1 製品概要

本機は、1 / 2.7″ 5 メガピクセル CMOS センサーを 2 個搭載し、2 台のカメラの映像をパノラマ合成することで、最大解像度：4640x1760（8.2 メガピクセル）で水平視野角 180 度の撮影が可能な高解像度ネットワークカメラです。

ディープラーニング推論エンジンによる「顔」「人間」「車両」の認識機能を搭載し、人物・車両検出、顔認識などの機能により、異常な行動や不正な侵入をリアルタイムで検知し、迅速に通知します。進化したアルゴリズムにより、誤検知を最小限に抑え、高い信頼性を実現しています。

人物や車両の属性をリアルタイムで分析する属性分析機能（メタデータ）にも対応。性別識別、年齢推定、衣服の色や種類などの特徴を自動的に抽出し、データとして提供します。

また、光警報装置と電子音警報器の機能も内蔵し、犯罪抑止や危険防止に威力を発揮します。
高度な機能とデータ分析により、セキュリティ用途だけでなく、さまざまな領域での効果的な監視と管理を実現します。

1.2 特徴

- 1 / 2.7″ 5 メガピクセル CMOS センサーを 2 個搭載し、24 対 9 のワイド画角で、最大解像度 8 メガピクセルの高解像度・高画質撮影を実現しています。
- 赤/青で発光する光警報装置の機能を装備しています。
- 白色 LED を実装しており、夜間、照明のない環境においてもカラーで撮影することができます。
- スピーカを内蔵し、電子音警報器の機能を装備しています。警告電子音だけでなく、ユーザが作成した音声ファイルを再生することも可能です。
- PoE 給電に対応しており、PoE 対応 HUB や PoE ポート付きの NVR からイーサネットケーブルを経由して電源供給が可能です。
- 2 タイプのストリーミング（H.264 or H.265 / MJPG）配信機能を装備しています。
- H.264 はもちろん、更に圧縮率を高めた H.265 / H.265+に対応しています。
- ディープラーニング推論エンジンによる「人間」「車両」「顔」の検出が可能です。
- 多彩なスマート検知機能やカウント機能、属性分析機能に対応しています。
- モーション検知、妨害検知、プライバシーマスク機能、メール送信機能、DDNS 等、豊富な機能を有しています。
- WDR 機能、BLC 機能により、逆光等の明暗差が大きな被写体でも、最適な画質に調整します。
- YouTube Live に配信可能な、RTMP プロトコルに対応しています。
- Web ブラウザ、CMS / VMS、モバイルアプリから P2P 接続が可能です。
- ブラウザ接続は、Microsoft Edge、Google Chrome、Mozilla Firefox に対応しています。
- Micro SD カードへの録画が可能です。録画スケジュールの設定も可能です。

- さまざまな外部 I/F を装備しています。（アラーム入力、音声入出力）
- IP66 規格に対応した防塵・防水性能です。

1.3 監視アプリケーション

カメラとコンピュータを LAN で接続



カメラと NVR などの録画装置を接続



カメラと CMS など監視ソフトウェアと接続



1.4 梱包物一覧

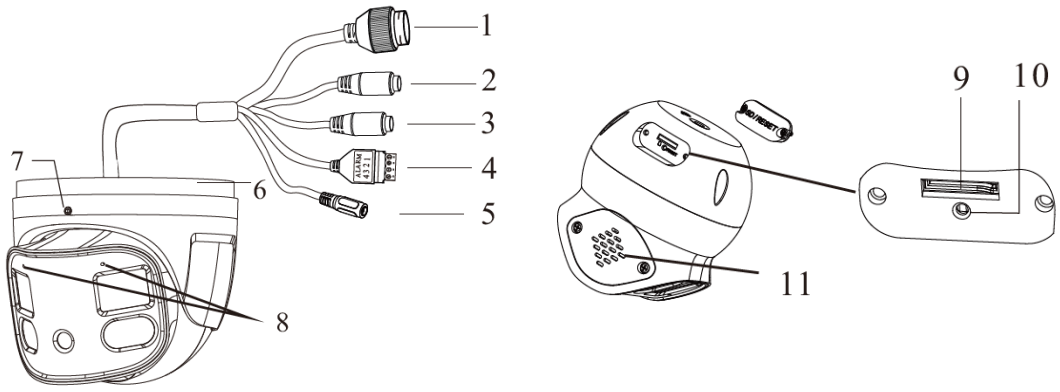
ご使用いただく前に本体と付属品を確認してください。万一、不足の品がありましたら、お手数ですがお買い上げの販売店までご連絡ください。

●HIC-SE852UW

名 称	数 量
本体	1 台
ネジ、アンカー（各 4 本）	1 式
六角レンチ	1 本
ドリルテンプレート	1 枚
クイックスタートガイド（英語）	1 枚
梱包物一覧	1 枚

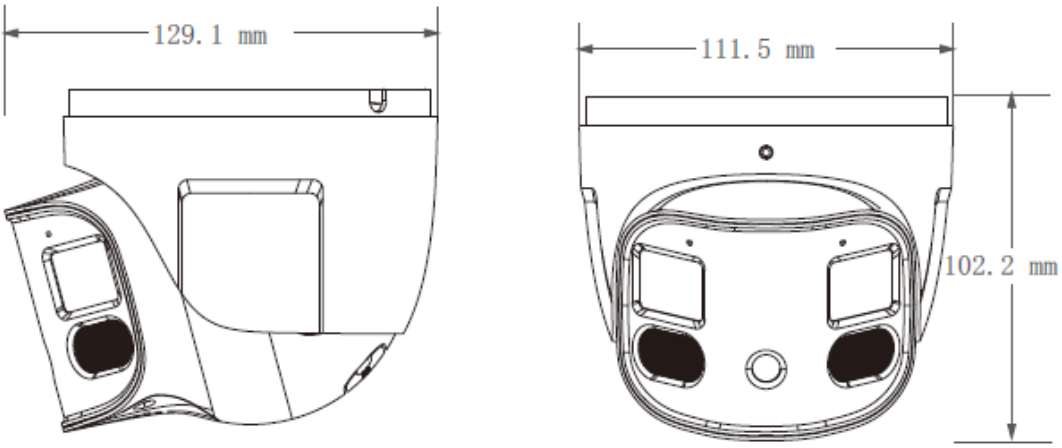
1.5 製品外観

● **バレットカメラ HIC-SE852UW**



#	表 示	説 明
1	Ethernet	LAN ケーブル接続(10Mbps/100Mbps) ※PoE 対応
2	MIC	オーディオ入力（LINE）
3	HP	オーディオ出力
4	ALARM	アラームの入力/出力 1 ：ALARM COM、2 ：ALARM OPEN 3 ：ALARM IN、4 ：ALARM GND
5	POWER	DC12V 入力

6	Mounting base	取付けベース
7	Set screw	取付けベース と カメラユニット枠を固定するネジ
8	マイクロフォン	内蔵マイクロフォン（2 か所）
9	SD カードスロット	メモリカード（Micro SD/SDHC/SDXC）をスロットに挿入 SD カードに録画、スナップショットの保存を行います。
10	リセット	リセットボタン
11	スピーカ	内蔵スピーカ



単位：mm

1.6 カメラの設置

本製品の設置方法について説明します。以下の注意点をご確認の上、設置してください。

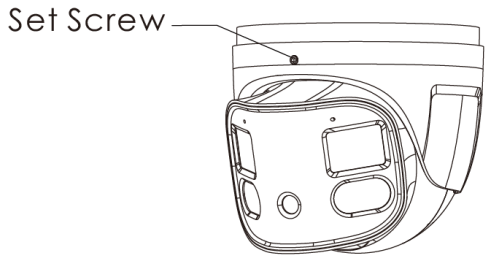
注 1 壁または天井がカメラの 3 倍の重量に耐えられる強度であることを確認してください。

注 2 カメラは乾燥した場所に設置してください。

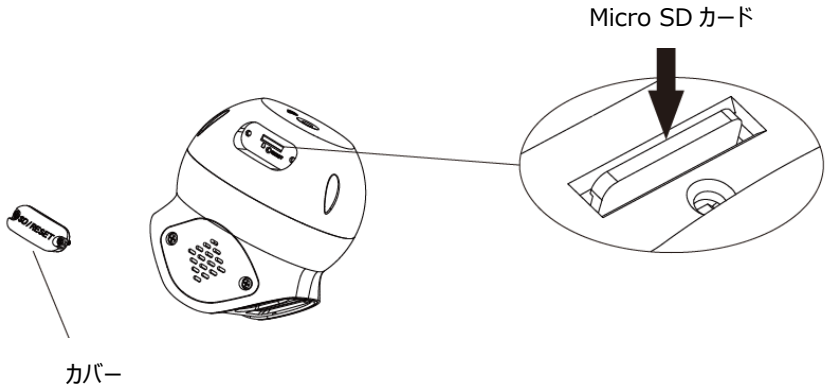
注 3 取り付けが完了するまで保護フィルムを剥がさないでください。

- **タレット型カメラ HIC-SE852UW**

① カメラを分解するには、Set screw を緩めてください。

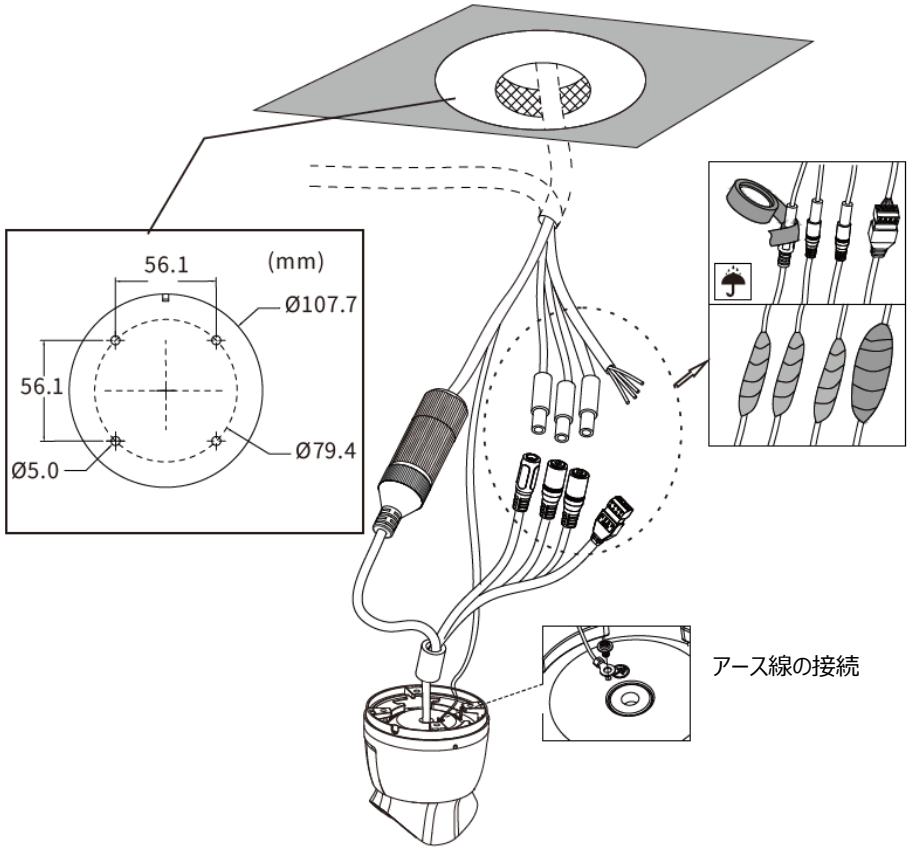


② SD カードを使用するときは、カメラユニットのカバーを外して、micro SD カードを挿入します。挿入後、カバーがしっかりと取付けられていることを確認します。

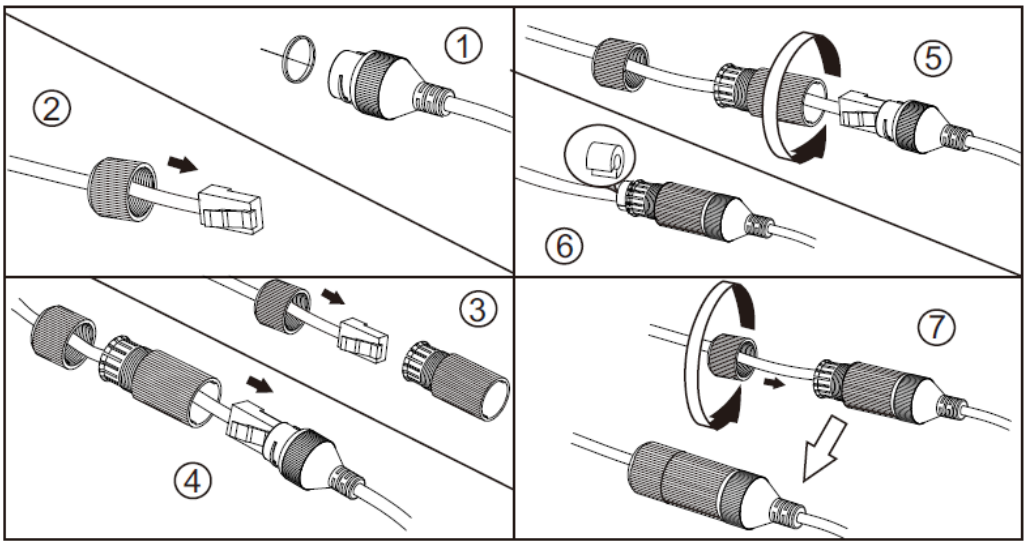


③　カメラを設置する場所に、付属品の「ドリル用テンプレート」を貼りつけます。

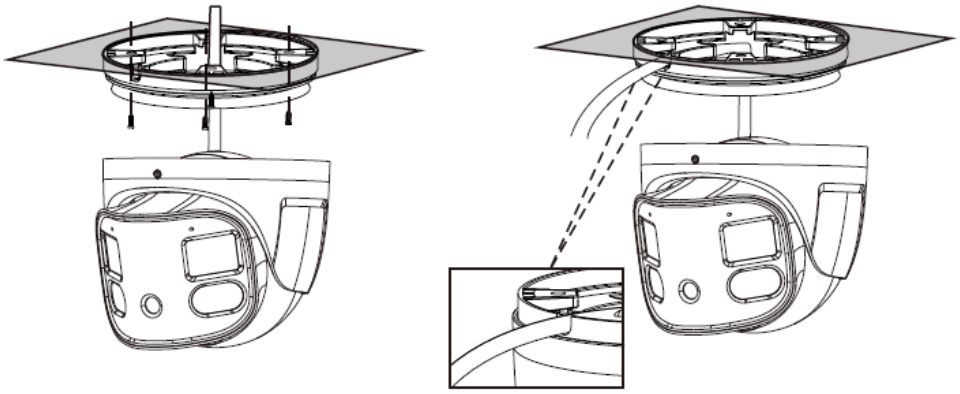
テンプレートに従ってねじ穴 4 つと、ケーブル穴 1 つ(ケーブルを天井に通す場合)を開けます。



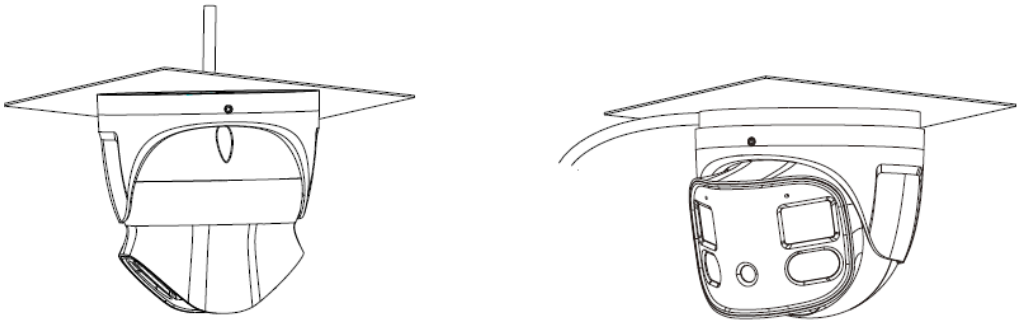
RJ45 防水キャップを使用するときは以下を参照してください。



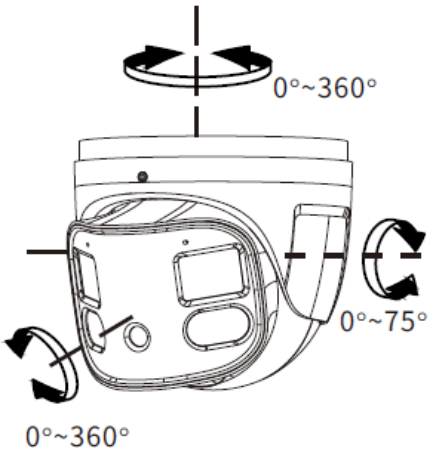
④　付属品の取り付けねじで、取り付けベースを天井または壁に固定します。



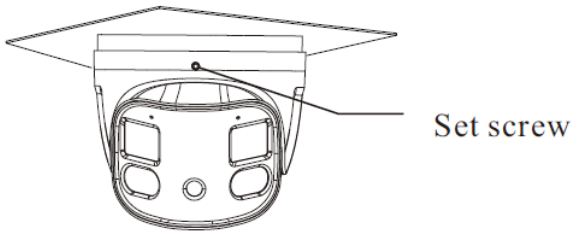
⑤　取付けベースとカメラユニット枠を取付けます。



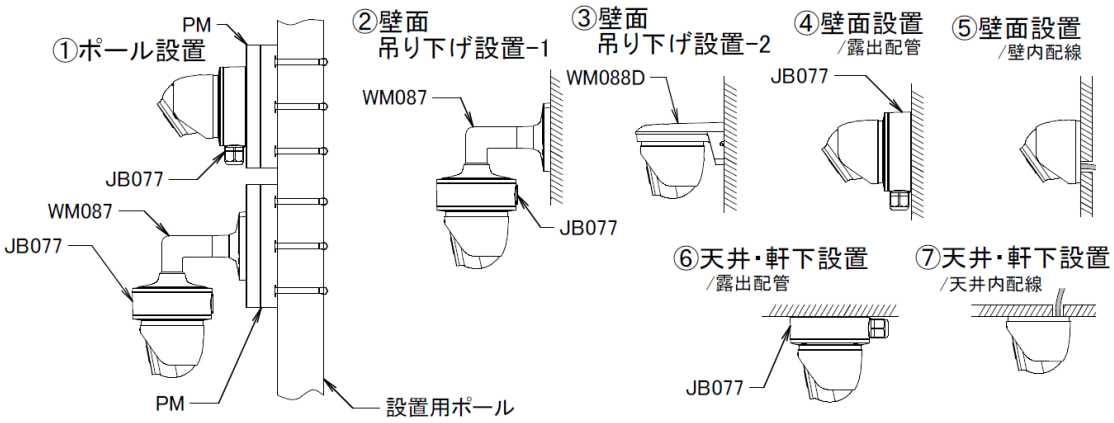
⑥　　最適な視野角になるようにカメラを調整します。



⑦　最後に、Set screw を締めて固定します。



壁面や支柱などに設置する場合は、別売りの取り付け金具を使用します。



2. ネットワーク接続

LAN または WAN 経由で IP カメラを接続します。詳細は次のとおりです。

2.1 LAN

LAN では、IP カメラへのアクセス方法は 2 つあります。

2.1.1 IP-Tool によるアクセス

ネットワーク接続：



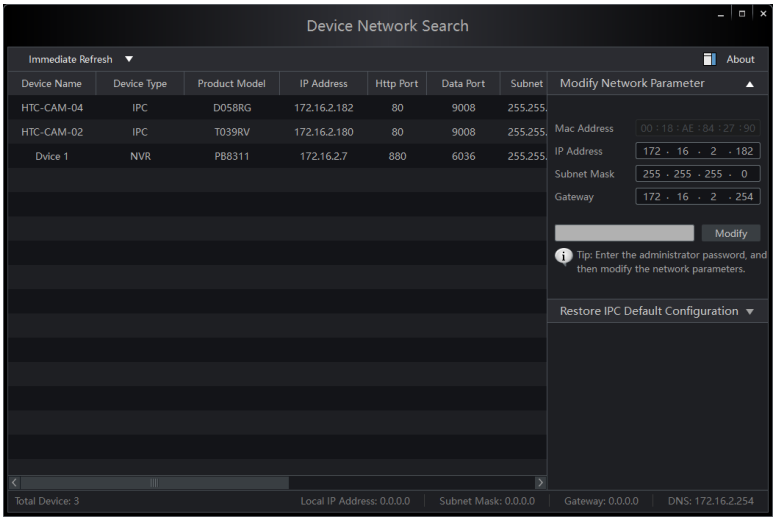
① 事前に IP-Tool を PC(コンピュータ)にインスト―ルしておきます。

IP-Tool のダウンロードは以下 URL からお願いします。（他のカメラのリンク先の IP-Tool でも使用できます。）

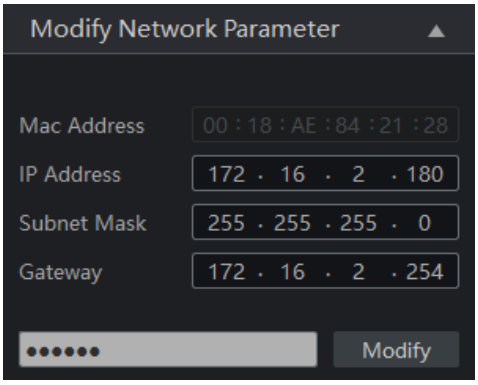
https://hytec.co.jp/products/camera/ video20/hic-se852uw.html

② PC と IP カメラが LAN で接続されていることを確認します。

③ デスクトップ上にある IP-Tool アイコン  をダブルクリックすると、IP-Tool が起動し、ネットワークに接続されたカメラを自動的にサーチしてリストアップします。



④ IP アドレスを変更します。本機のデフォルト IP アドレスは 192.168.226.201 です。リストのカメラをクリックすると、右手にネットワーク情報を表示します。ネットワークアドレスがコンピュータのローカルネットワークセグメントと同じであることを確認します。同じでない場合は、カメラの IP アドレスとゲートウェイを変更する必要があります。



例：コンピュータの IP アドレスが 172.16.2.4 である場合、カメラの IP アドレスを 172.16.2.X に設定します。変更後、管理者のパスワードを入力し、[Modify]ボタンをクリックして変更します。

管理者のデフォルトパスワードは “**123456**” です。（カメラの管理者パスワードです。）

⑤ リスト内のカメラをダブルクリックすると、ブラウザ（Microsoft Edge）がポップアップして IP カメラに接続します。

-1)プラグインのインストールを行います。

プラグインのインストールを促すメッセージが表示されたら、Here をクリックしてダウンロードします。

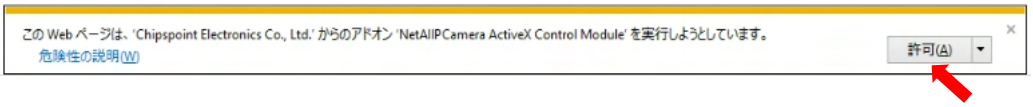


『保存』をクリックしてダウンロードフォルダーにダウンロードします。



-2)ダウンロードが完了したら、**一度ブラウザを閉じて**、ダウンロードしたプラグインをインストールします。インストールが完了したら、IP-Tool からカメラを選択（ダブルクリック）して、Microsoft Edge を起動してカメラに接続します。

ブラウザの下端にアドオンの実行に関するメッセージが表示されるので『許可』をクリックします。



⑥　名前とパスワードを入力します。言語は日本語を選択し、ログインします。



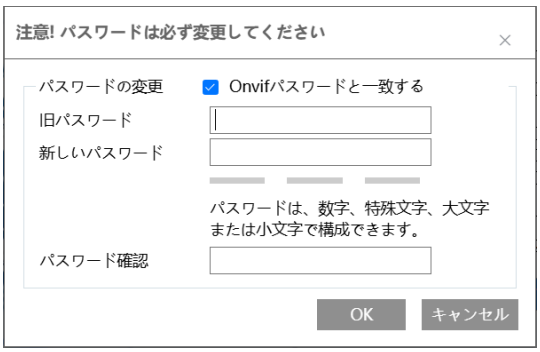
デフォルトの名前は“**admin**”、デフォルトパスワードは“**123456**”です。

パスワードを忘れたときは「パスワードをお忘れですか？」をクリックすると、秘密の質問の回答を入力することでパスワードを再設定できます。

- 秘密の質問を利用する場合は、事前に、セキュリティ設定→ユーザの安全質問（秘密の質問）で秘密の質問と回答を設定します。安全質問（秘密の質問）



⑦ デフォルトのパスワード変更を要求されます。セキュリティのために、パスワードの変更をお勧めします。
パスワードを変更する場合は、［旧パスワード（現在のパスワード）］［新しいパスワード］［パスワード確認（新しいパスワード）］を入力して［OK］をクリックします。
パスワードを変更しない場合は[キャンセル]をクリックします。
[☑ONVIF パスワードと一致する]のチェックを有効にすると、ONVIF 接続時のパスワードがここで設定したパスワードと同じになります。



パスワードはアルファベット大文字、小文字、数字、記号を組み合わせて、最大 16 文字で設定できます。
正常にプラグインがインストールされた状態でログインに成功すると、ブラウザのライブタブで、ライブ画像を表示することができます。

2.1.2 ブラウザから直接アクセス

カメラのデフォルトネットワーク設定は次の通りです。カメラに初めてログインするときは、下記のデフォルト設定を使用してください。

IP アドレス：192.168.226.201　　サブネットマスク：255.255.255.0
ゲートウェイ：192.168.226.1　　HTTP ポート：80
データポート：9008

LAN ケーブルを使用して、カメラと PC を直接接続します。



① PC の IP アドレスを手動で設定し、IP カメラのデフォルト設定と同じネットワークセグメントにする必要があります。コントロールパネルを開き、ネットワークとインターネット⇒ネットワークと共有センター ⇒ アダプタの設定の変更 ⇒ イーサネットを開きます。（例：Windows10/11）

② イーサネットのプロパティから[インターネット プロトコルバージョン 4(TCP/IPv4)]を開きます。
PC の IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNS サーバを入力し、[OK]をクリックします。

③ ブラウザを開き、IP カメラのデフォルト IP アドレスを入力します。

④ カメラに接続したら、前節「2.1.1 **IP-Tool によるアクセス**」の⑤以降と同操作を行います。

2.2 WAN

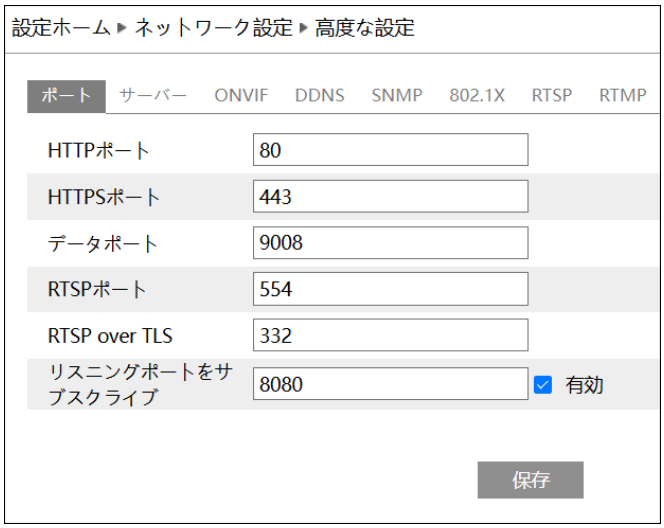
WAN からルータを介してカメラにアクセスできるようにします。

ネットワーク接続：



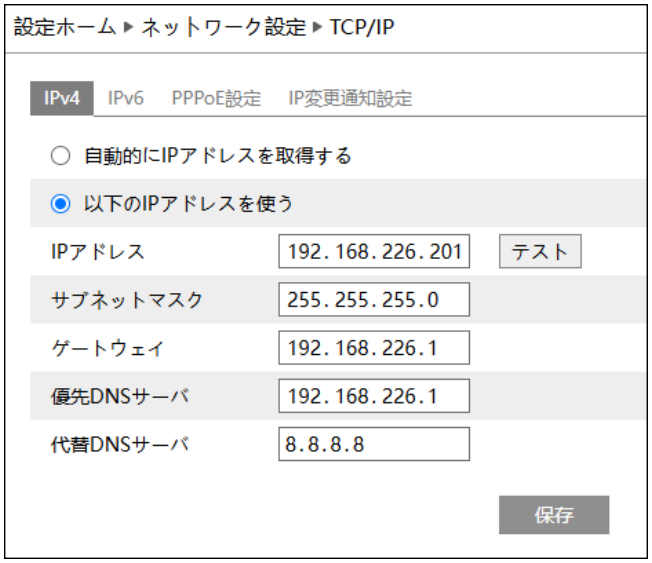
① カメラがローカルネットワークで接続されていることを確認し、LAN 経由でカメラにログインします。

② 設定>ネットワーク>ポートメニュー「4.5.2 **ポート**」に移動して、ポート番号を設定します。



③　設定>ネットワーク>TCP/IP メニュー「4.5.1 **TCP/IP**」に移動して、IP アドレスを設定します。

[以下の IP アドレスを使う]を選択し、IP アドレスなどのパラメータを入力します。



④　ルータでポートフォワーディングを設定します。

ポートフォワーディングの手順はお使いのルータのマニュアルでご確認ください。

クライアントからの接続方法によって、フォワーディングするポートが異なります。

接続方法	フォーワーディングポート		
	HTTP	DATA	RTSP
ブラウザ	O	O	—
専用スマホアプリ	O	O	—
専用 CMS/VMS	—	O	—
ONVIF	O	—	O
RTSP	—	—	O

※　P2P 機能を利用する場合は、ポートフォワーディングは不要です。

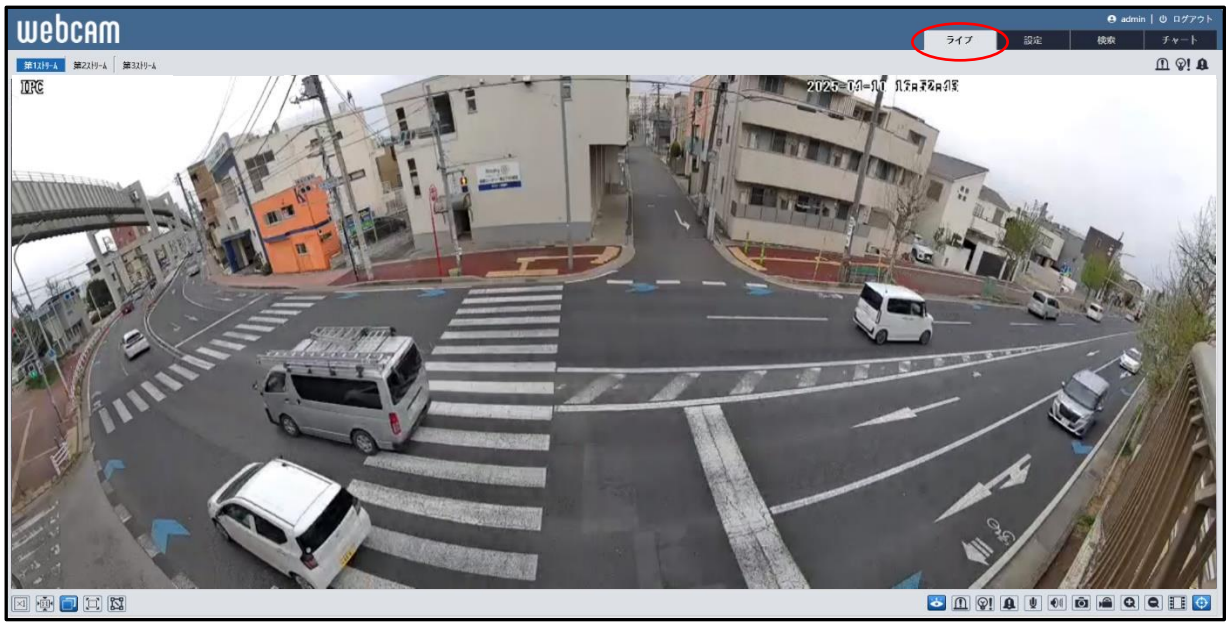
⑤　ブラウザを開き、アクセスする WAN IP と HTTP ポートを入力します。

例：http://200.159.163.180:85

3. ライブ画面

3.1 ライブ

右上の[**ライブ**]タブを開きます。



ライブ画面(左上)の説明

再生するライブ画面の画質を、第 1 ストリーム / 第 2 ストリーム /第 3 ストリーム から選択します。
各ストリームの設定は、「4.2.2 **映像/音声**」で行います。

ライブ画面(左下)のアイコン説明

アイコン	説明	アイコン	説明
	ピクセル等倍表示（1：1）		オリジナルアスペクト比
	ウィンドウに合わせる		フルスクリーン※1
	計測ツール※2		

※1 フルスクリーンモードの終了方法は、マウスでダブルクリックするか、キーボードの Esc キーを押します。

※2 計測ツールを有効にして画面をクリック→ドラッグして□でエリアを描くと、そのエリアの画素数が表示されます。（第 1 ストリームのみ有効です）

ライブ画面(右上)のアイコン説明 ※3

アイコン	説明	アイコン	説明
	モーション検出のアラーム表示		アラーム入力のアラーム表示
	物体検知のアラーム表示		急激なシーン変化のアラーム表示
	異常な明瞭度のアラーム表示		色異常のアラーム表示
	ラインクロスのアラーム表示		エリア侵入のアラーム表示
	エリア退出のアラーム表示		ターゲットカウントのアラーム表示
	地域統計を計算中		エリア侵入検知のアラーム表示
	ヒートマップを計算中		徘徊検知のアラーム表示
	違法駐車検知のアラーム表示		SD カードの有無を表示 ※4
	アラーム接点出力		ビデオメタデータの表示
	顔検出のアラーム表示		集密度を計算中

※3 各検出アラームが有効になっている場合のみアイコンを表示し、無効時は表示されません。イベントが発生した場合に、アイコンが赤く点滅します。

※4 SD カードが挿入されるとアイコンが表示され、録画・画像保存時に赤く点灯します。

ライブ画面(右下)のアイコン説明

アイコン	説明	アイコン	説明
	ライブビュー		アラーム接点出力のオン/オフ
	光アラーム（赤/青）のオン/オフ		音声アラームのオン/オフ
	双方向音声のオン/オフ		カメラの音声（内蔵マイク）を聞く
	写真撮影（スナップショット）※5		手動録画の開始/停止 ※6
	デジタルズームイン/ズームアウト		ターゲット検知（メタデータの表示） ※7
	ルール情報表示※8		

※5 写真撮影（スナップショット）は、「4.1.3 **ローカル設定**」の静止画保存のパスのフォルダに保存されます。

《 静止画保存のパス ＞ IP アドレス 》



※6 手動録画映像は、「4.1.3 **ローカル設定**」の録画保存のパスのフォルダに保存されます。

《 録画保存のパス ＞ IP アドレス 》



※7 設定したターゲットが検出されると、ライブ画面の右側にメタデータを表示します。日付・時刻・ID 情報を表示します。「4.4 **イベント設定**」で事前にビデオメタデータ（属性分析）や「4.4.12 **顔検出**」を有効にする必要があります。キャプチャされた画像をクリックすると、詳細な属性情報を表示します。



クリックすると、詳細情報を表示します。上段の画像の右側のスクロールバーを下に移動するとメタデータを表示します。

※8 イベント設定で設定した検出ラインやエリアの表示、非表示を切り替えることができます。

4. 設定ホーム

右上の[**設定**]タブを開きます。



システム設定 ＞ ビジネスシナリオで、スマートイベントを選択しているときの画面です。



システム設定 ＞ ビジネスシナリオで、顔イベントを選択しているときの画面です。

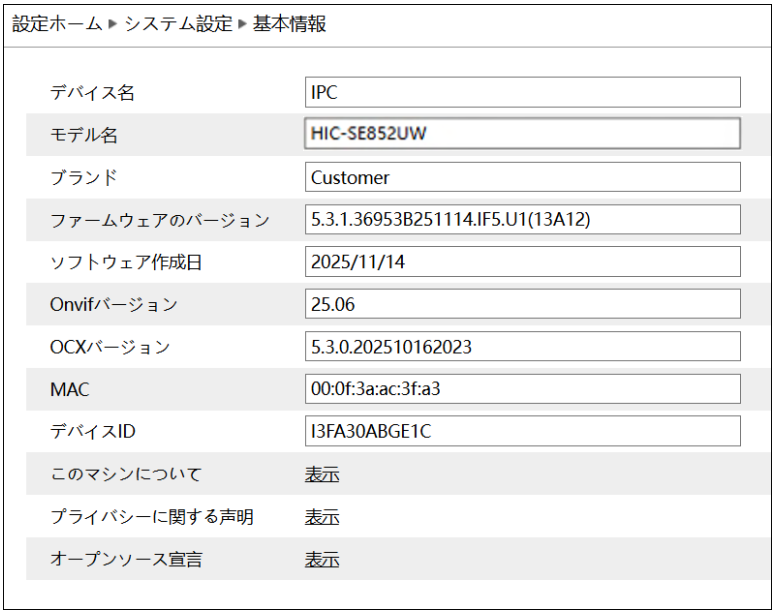
4.1 システム設定

基本情報、日付と時間、ローカル設定、ストレージ、ビジネスシナリオなどのサブメニューがあります。



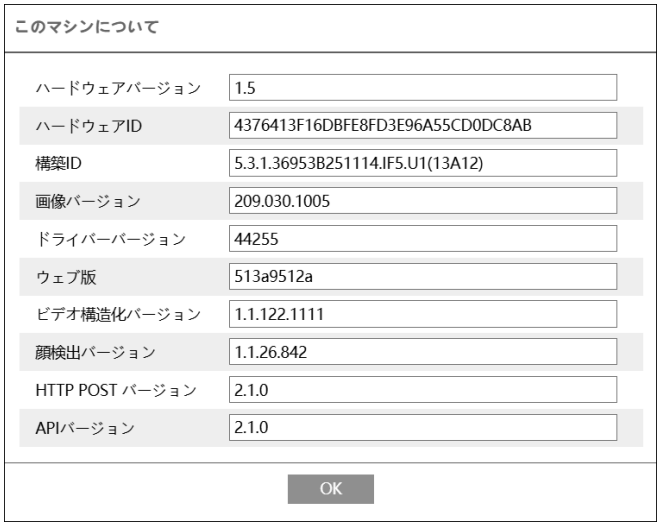
4.1.1 基本情報

デバイス名やモデル名、ソフトウェアバージョン、MAC アドレスなど、基本的な情報を表示します。



※ デバイス名の変更は、「4.2.3 **OSD**」の[デバイス名]にて変更できます。

[このマシンについて]項がある場合、[表示]をクリックすると、マシンの詳細バージョンが確認できます。



[プライバシーに関する声明]項がある場合、[表示]をクリックすると、プライバシーの取り扱いに関する記述を確認できます。

4.1.2 日付と時間

デバイスの日付と時間の設定を行います。



➢ 日時合わせ

◆ **タイムゾーン**

右のプルダウンから、GMT＋09 を選択します。

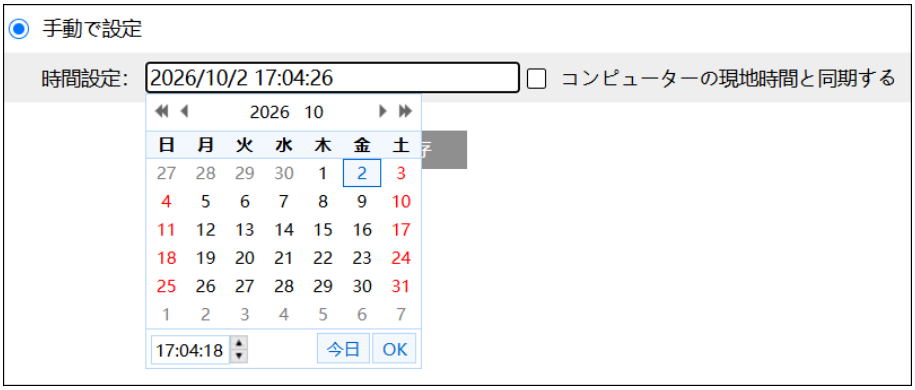
◆ 日時調整

[NTP サーバに同期]または［手動で設定］が選択できます。

[NTP サーバに同期]では、NTP サーバのアドレスを入力し、日時の更新間隔(分)を設定します。

注：インターネットの NTP サーバに接続する場合は、事前にインターネット接続確認をしてください。

［手動で設定］では、日時設定 BOX をクリックしてカレンダーを表示し、日時を設定します。



［コンピュータの現地時間と同期する］を有効にすると、日時を手動で入力することなく、パソコンの日時と自動的に同期します。

※重要※ SD カードに録画している場合、時計の時間を遅らせると、遅らせた時間分の録画は削除されます。

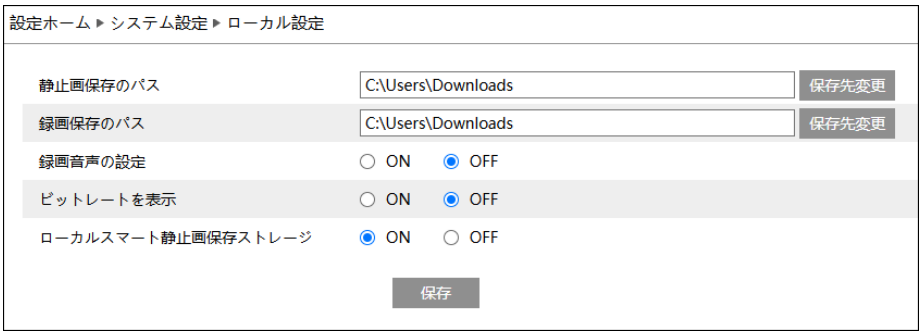
➢ サマータイム



サマータイムを設定するには、[サマータイム]にチェックを入れ、自動サマータイムまたは手動サマータイムを選択します。手動サマータイムを選択した場合、開始時間と終了時間、オフセット時間を設定します。

4.1.3　ローカル設定

ローカル（パソコン）へのファイル保存などの設定を行います。



表示	説明
静止画保存のパス	ブラウザのライブ画面で、写真撮影（スナップショット画像）を操作した時の、画像の保存先を設定します。［保存先変更］をクリックしてパソコンの保存先フォルダを指定します。
録画保存のパス	ブラウザのライブ画面で、手動録画を操作した時の、動画の保存先を設定します。［保存先変更］をクリックしてパソコンの保存先フォルダを指定します。
録画音声の設定	録画ビデオに同時に音声を録音するのか設定します。
ビットレートを表示	ライブ画面にビットレートを表示することができます。 有効(ON)または無効(OFF)を選択します。
ローカルスマート静止画保存ストレージ	スマート検知で撮影したスナップショット画像を、静止画保存のパスで指定したフォルダに保存します。
保存	設定を保存します。

注意：録画映像や静止画像をローカル PC に保存するためには、プラグインをインストールする必要があります。プラグインのインストールについては、「2.1.1 **IP-Tool によるアクセス**」を参照してください。**プラグインをインストールしない場合、「ビットレートを表示」の項目のみ表示します。**

Windows の仕様により Microsoft Edge と Google Chrome はプラグインが正常にインストールできないことがあります。
2026 年 10 月 19 日時点、Mozilla Firefox は全ての項目が設定できます。

4.1.4　ストレージ

SD カードのフォーマットや、写真・録画ファイルの保存に関する項目などを設定します。

SD カードを取付けてないときは「カードがありません」と表示します。

設定するときは、SD カードをカメラに取付ける必要があります。（最大 256GB）

➢　管理

[管理]タブを開き、SD カードの容量を表示・設定します。

SD カードをカメラに取付けると、ライブ画面の右上にアイコン が表示されます。SD カードに録画や画像が保存されると、アイコン は赤く点灯します。（動画を保存するときは録画タブでスケジュール記録有効にチェックを入れる必要があります。）



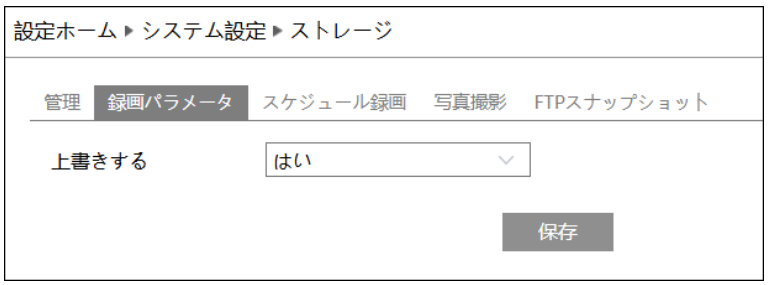
表示	説明
写真保存領域のサイズ	SD カード内の写真を保存できる容量を表示します。
残りの写真保存容量	写真を保存できる、残りの空き容量を表示します。
録画保存領域のサイズ	SD カード内の録画を保存できる容量を表示します。
残りの録画容量	録画できる、残りの空き容量を表示します。
状態	SD カードの状態を表示します。
写真保存領域 ※	SD カードの全容量に対して、写真を保存できる割合を設定します。
録画保存領域 ※	SD カードの全容量に対して、録画を保存できる割合を設定します。
カードの取り出し	カメラから SD カードを取り出すときにクリックしてください。 取り出しをクリックする前に、SD カードを取り出すとファイル破損の原因となる可能性があります。

	注意：カードの取り出しをクリックすると「イジェクトされました」と表示します。SD カードを再認識させるには物理的に SD カードを抜き差しする必要があります。
フォーマット	SD カードを初期化します。フォーマットを行うと、SD カード内のデータはすべて削除されます。

※写真と録画の保存割合を適用するには、フォーマットする必要があります。フォーマットを行うと、SD カード内のデータはすべて削除されます。

➢ 録画パラメータ

[録画パラメータ]タブを開き、SD カードの空き容量が無くなったとき、新しいデータを上書きするのか設定出来ます。



➢ スケジュール録画

[スケジュール録画]タブを開き、SD カードに保存する録画に関する設定を行います。



●録画パラメータ

表示	説明
録画ストリーム	録画を行うストリームを選択します。 解像度や画質などの設定は「4.2.2 **映像/音声**」で設定します。
プリ録画時間	“プリ録画時間なし”を選択した場合、「イベント発生中の時間+アラーム持続期間」の映像を録画します。 “3 秒”または”6 秒”を選択した場合、イベント発生の 3 秒または 6 秒前の映像から録画を行います。

※ イベントによる録画は、「4.3 **アラーム設定**」や「4.4 **イベント設定**」の連携するアラーム出力で、[SD カード録画]が有効(チェックあり)のときに実行されます。

●設定された時間で実行

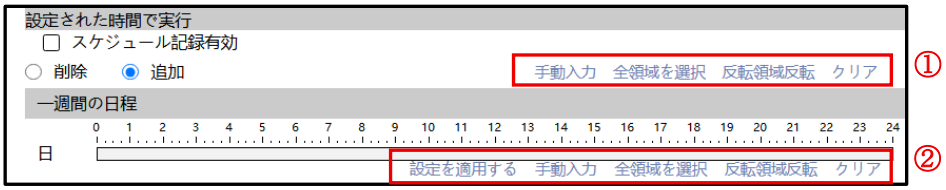
表示	説明
スケジュール記録有効	チェックを入れると、スケジュールによる録画を行います。

●スケジュールの設定方法

◆ **一週間の日程**

日曜日～土曜日の一週間のスケジュールを設定します。

①では、全ての曜日を同時に設定することができます。②では曜日ごとに設定します。



削除　：録画を無効にする時間帯をタイムライン上でクリックまたはドラッグします。(白)

追加　：録画を有効にする時間帯をタイムライン上でクリックまたはドラッグします。(緑)

設定を適用する　：選択した曜日のスケジュールを他の曜日に適用します。

手動入力　：[削除]または[追加]を選択してから、タイムライン右下の[手動入力]をクリックし、時間帯を設定します。

全領域を選択　：24 時間全てを選択します。（緑）

領域反転　：24 時間全てを未選択にします。（白）

クリア　：直前の操作を無効にします。

◆ 休日設定とスケジュール

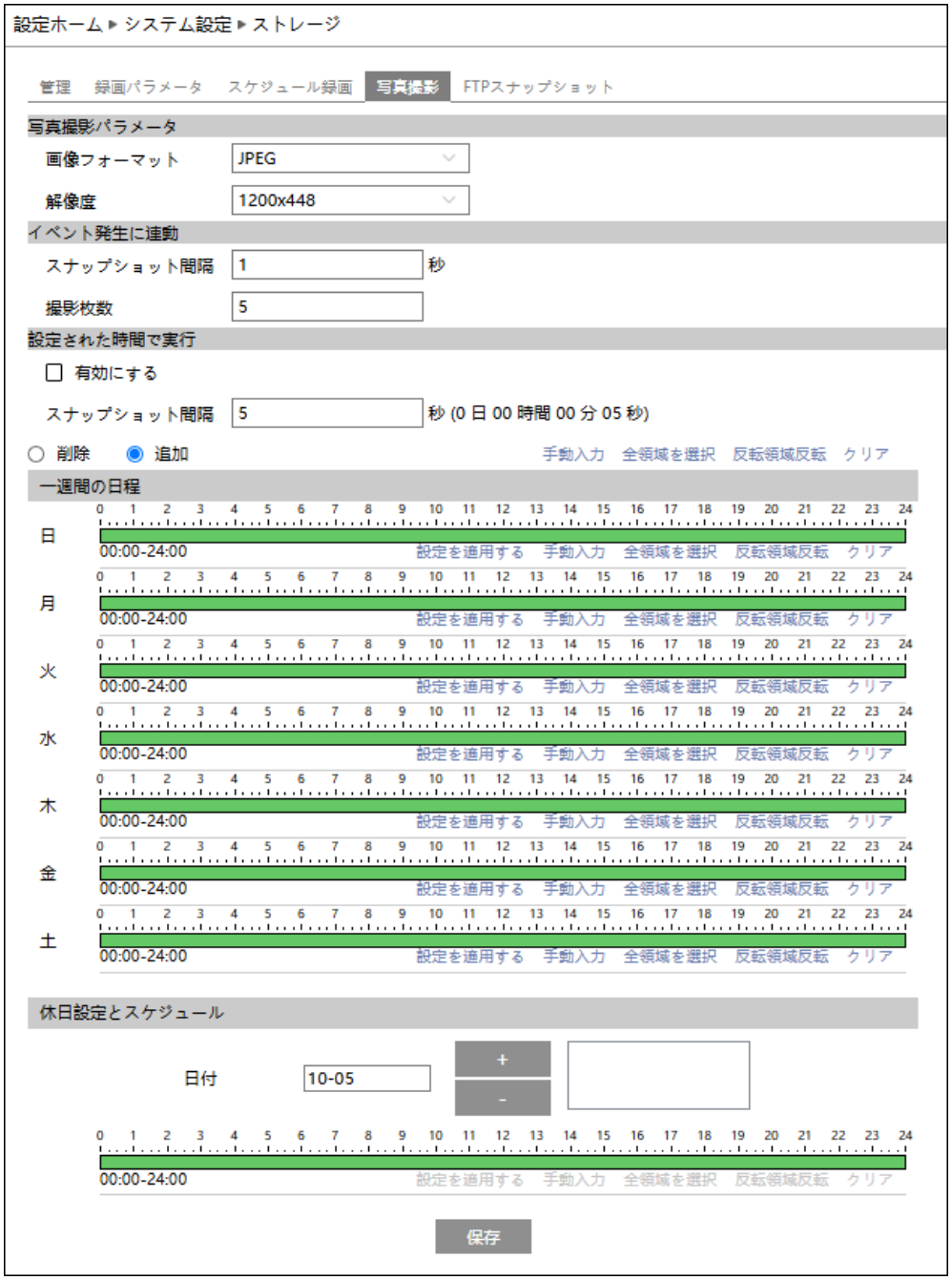
日付を指定してスケジュールを設定します。（例えば国民の祝日など）

日付を指定し、[＋]をクリックします。その後、タイムラインでスケジュールを設定して保存します。

削除するときは、日付を選択してから[—]をクリックします。

➢ 写真撮影

[写真撮影]タブを開き、SD カードに保存する静止画に関する設定を行います。



●写真撮影パラメータ

表示	説明
画像フォーマット	フォーマットを選択します。
解像度	スナップショットの解像度を選択します。

※スナップショット解像度の設定は、「4.2.2 **映像/音声**」で行います。

●イベント発生に連動

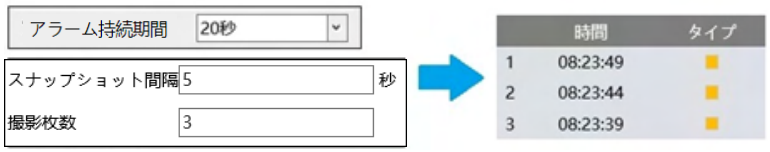
表示	説明
スナップショット間隔	「イベント発生中の時間+アラーム持続期間」の時間内で、何秒間隔でスナップショットを撮影し、SD カードに保存するか設定します。
撮影枚数	スナップショット間隔で、最大何枚のスナップショットを撮影するか設定します。

※「4.3 **アラーム設定**」や「4.4 **イベント設定**」の連携するアラーム出力で、[写真を SD カードに保存]が有効(チェックあり)のときに実行されます。

SD カードへのスナップショット保存例

[例 1] アラーム持続期間：20 秒、スナップショット間隔：5 秒、撮影枚数：3 枚の場合

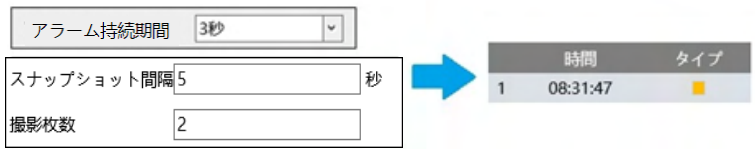
→ イベント発生時に 1 枚、その後 5 秒間隔で 1 枚ずつ撮影され、計 3 枚(最大)のスナップショットが保存されます。



※ここでは、イベント発生時、発生から 5 秒後、10 秒後のスナップショットを保存しています。

[例 2] アラーム持続期間：3 秒、スナップショット間隔：5 秒、撮影枚数：2 枚の場合

→ イベント発生時に 1 枚、3 秒でアラーム持続期間が終了したため、5 秒後のスナップショットは撮影されず、発生時の 1 枚のみ保存されます。



※アラーム持続期間が終了した時点で、それ以降のスナップショットは保存されません。

●設定された時間で実行

表示	説明
有効にする	チェックを入れると、スケジュールによる写真の保存を行います。
スナップショット間隔	有効の時間帯で何秒間隔の写真を保存するのか設定します。

●スケジュールの設定方法

◆ **一週間の日程**

設定手順は、ストレージ→録画の一週間の日程をご参照ください。

◆ **休日設定とスケジュール**

設定手順は、ストレージ→録画の休日設定とスケジュールをご参照ください。

➢ **FTP スナップショット**

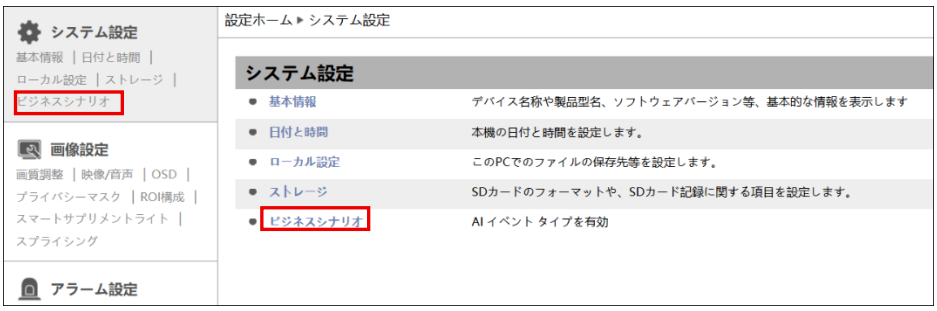
「スナップショット間隔」で指定した時間間隔で、FTP サーバに静止画を転送します。

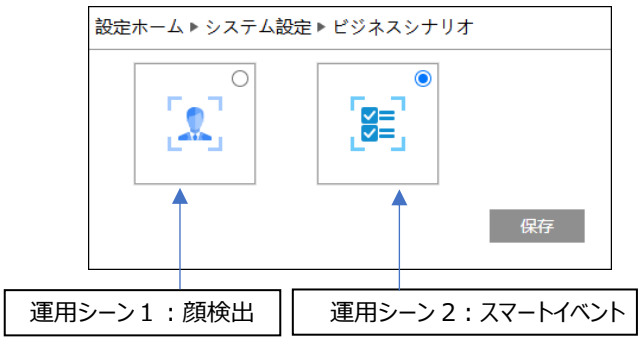


表示	説明
有効にする	チェックを入れると、静止画の FTP 転送が有効になります。
サーバアドレス	転送先の FTP サーバを選択します。 事前に、設定 → ネットワーク設定 → FTP で FTP サーバを設定する必要があります。
スナップショット間隔	静止画を撮影して転送する間隔を設定します。1 秒～604,800 秒(168 時間：7 日間)の時間間隔が設定できます。 設定を保存した時分秒でスタートし、その後は指定した間隔で撮影して転送します。したがって、1 時間に 1 回、毎時 00 分 00 秒で撮影して転送したい場合は、設定の保存を 00 分 00 秒の時に実行します。
保存	設定を保存します。

4.1.5　ビジネスシナリオ（運用シーンの設定）

2 つの運用シーンを選択可能です。必要に応じて選択してください。
設定→システム設定→ビジネスシナリオを選択します。





2 種類の運用シーンを選択できます。運用シーンを変更したい場合は、マウスでシーンを選択後「保存」をクリックしてください。 システムは再起動し、設定した運用シーンが有効になります。



顔検出を選択したときのイベント設定



スマートイベントを選択したときのイベント設定

※ビジネスシナリオの設定を変更するとカメラは再起動します。

4.2 画像設定

画質調整、映像/音声、OSD、プライバシーマスク、ROI 構成、スプライシングなどのサブメニューがあります。

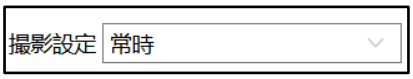


4.2.1 画質調整

カメラの画質(輝度、コントラスト、彩度など)に関するパラメータを設定します。

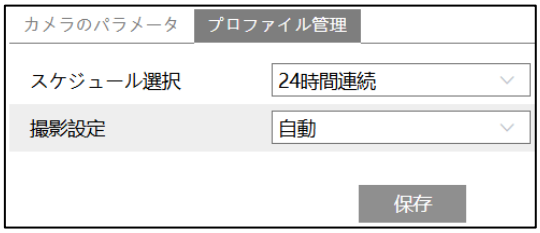
➢ 撮影パラメータとプロファイル管理

［撮影設定］で「常時」「昼」「夜」の 3 通りの設定ができます。



「常時」：昼夜を問わず、設定されたパラメータで動作します。
「昼」　：日中撮影モードの設定パラメータです。
「夜」　：夜間撮影モードの設定パラメータです。

3 通りの撮影設定はプロファイル管理に従って動作します。



［スケジュール選択］と［撮影設定］の組み合わせで下表の通りに動作します。

スケジュール選択	撮影設定	動作
24 時間連続	常時	「常時」の設定パラメータで動作。 パラメータの昼夜モードの設定が「自動」の場合は、昼/夜モードは自動切換え、「昼」または「夜」を選択すると常時「昼」「夜」に固定することも可能です。 また、「昼」「夜」をスケジュール設定で切り替えることも可能です。 昼夜の明るさの変化が大きい場合、特に、夜間に照明が無く暗い場合は「常時」設定での運用を推奨します。
	自動	日中は「昼」、夜間は「夜」のパラメータで動作。昼/夜は自動で切り替わります。
設定された時間で実行	—	スケジュールに従って、「昼」「夜」のパラメータ設定に切り替えて撮影します。

➢ カメラのパラメータ設定

設置環境に最適なパラメータを設定します。



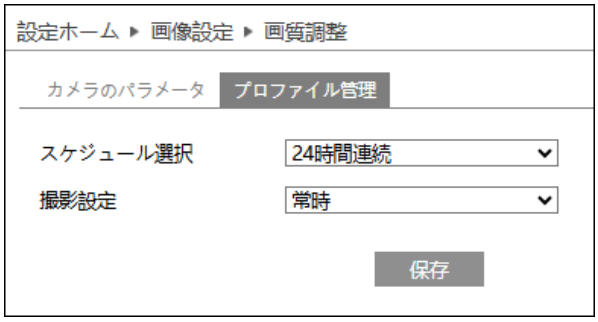
表示	説明
撮影設定	3 パターンの撮影設定（常時、昼、夜）パラメータを登録します。 それぞれに適したパラメータを以下より設定します。
輝度	カメラ画像の明るさ調整します。 日中（昼）モードでは輝度を 50 前後とし、夜間（夜）モードでは 50 より低い値に設定することを推奨します。設定値は設置現場の状況に合わせて、実際の映像を見ながら調整します。
コントラスト	コントラストを調整します。
色相	色味を調整します。
彩度	色の濃さを調整します。
WDR	ハイライト部と暗部の両方を自動調整し、鮮明な画像に調整します。
シャープネス	シャープネスにチェックを入れ、有効にします。 画像の輪郭強調レベルを調整します。
ノイズ除去	ノイズ除去にチェックを入れ、有効にします。 映像に発生しているランダムノイズの除去レベルを調整します。値を大きくするとノイズは減りますが、画像の解像度は低下します。
曇り鮮明化	曇り鮮明化にチェックを入れ、有効にします。 雨、霧、靄、煙、ほこり等でぼやけた映像を補正します。必要に応じて適切な値を設定し、鮮明な画像を表示することができます。
BLC	逆光補正機能(BLC)の設定を、以下から選択します。選択項目に応じた追加の設定項目がある場合があります。 オフ　：逆光補正機能を無効にします。(デフォルト) HLC　：ハイライト補正。車のライトなどの強い光源をカバーします。HLC を有効にする時間帯を設定できます。 BLC　：逆光補正。逆光で陰になった部分を明るく補正します。補正するエリアを、自動、画面の上下左右中央、から選択します。
フリッカレス	オフ　：フリッカ除去機能をオフにします。 50Hz/60Hz：50Hz または 60Hz の照明条件でちらつきを低減します。
IR 照明自動調光 (イルミネーションモード：赤外線)	オフ　：赤外線照明をフル発光します。 オン　：赤外線照明を被写体に応じて自動的に調光します。調光レベルを高い・中・低いから選択します。
ホワイトバランス	自動、屋内、屋外：環境に応じて自動的に色温度を調整します。 マニュアル　：赤レベルと青レベルを使用し、手動で色温度を設定します。
IR 輝度	赤外線照明の明るさを調整します。

昼/夜モード (イルミネーションモード：赤外線)	自動　　：昼モードと夜モードをカメラの周囲の明るさに応じて自動で切替えます（デフォルト）。切り替えの感度（明るさ）と、切り替え遅延時間を設定できます。 昼間固定　：カラー撮影固定 夜間固定　：白黒撮影固定 設定された時間で実行：昼モード/夜モードの切り替え時刻を設定できます。 アラーム入力連動：アラーム入力に連動して昼モードと夜モードを切替えます。
感度 (イルミネーションモード：赤外線)	昼/夜モードを切替える感度を設定します。 高い・中・低いから選択します。
切り替え遅延時間 (イルミネーションモード：赤外線)	カメラが内蔵する明るさセンサーが昼/夜を検出したとき、カメラの昼/夜を切替えるタイミングを調整します。すぐに切り替わらないようにするときは遅延時間を長く設定します。（2 秒～6000 秒）
スローシャッター	スローシャッターの ON/OFF を設定します。ON に設定するとシャッター速度は設定できなくなります。
白色ライトモード (イルミネーションモード：白色光)	オフ　　：白色光は点灯しません。 マニュアル：強制的に白色光が点灯します。白色光の明るさや点灯開始時間と終了時間を設定できます。 自動　　：暗くなったときに白色光が点灯します。
シャッター	シャッタースピードの下限値（最も低速な値）を設定します。 シャッタースピードは最適な露出になるように自動で調整されますが、例えば、1/500 秒に設定すると、1/500 秒より遅いシャッタースピードに調整されることはありません。 車両の移動速度が速く、シャッタースピードが遅いと、車がブレてしまうため、シャッタースピードをできるだけ高速に設定しなければなりません。ただし、高速にしすぎると画像が暗くなります。
ゲイン	ゲインは最適な露出になるように自動で調整されますが、ここで設定した値が上限値になります。ゲイン値が高いほど、画像が明るくなり、画像のノイズが多くなります。
映像周波数	周波数 50Hz(PAL)と 60Hz(NTSC)が設定できます。 50Hz では最大 fps＝25、60Hz では最大 fps＝30 です。
イルミネーションモード	暗くなったときの白色光、赤外線 LED の点灯について設定します。 白色光：露出オーバーコントロールのメニューが表示されます。露出オーバーを調整します。高い、中、低いから選択します。オフは調整しません。 赤外線：IR 照明のメニューが表示されます。

	オン　：強制的に赤外線 LED（IR）が点灯します。 オフ　：赤外線 LED（IR）は点灯しません。 自動　：暗くなったときに赤外線 LED が点灯します。 スマートサプリメントライト：暗くなったときは赤外線 LED（IR）が点灯します。イベント設定などをしている場合、イベントを検出すると白色光が点灯してカラーで撮影することができます。
IR 照明	イルミネーションモードで選択した赤外線や白色光を暗くなった時に自動で点灯させるか強制的に点灯または消灯させるか設定できます。
初期値	初期設定に戻ります。

➢　プロファイル管理（スケジュール選択）

[プロファイル管理]タブを開き、昼間と夜の時間帯を指定します。

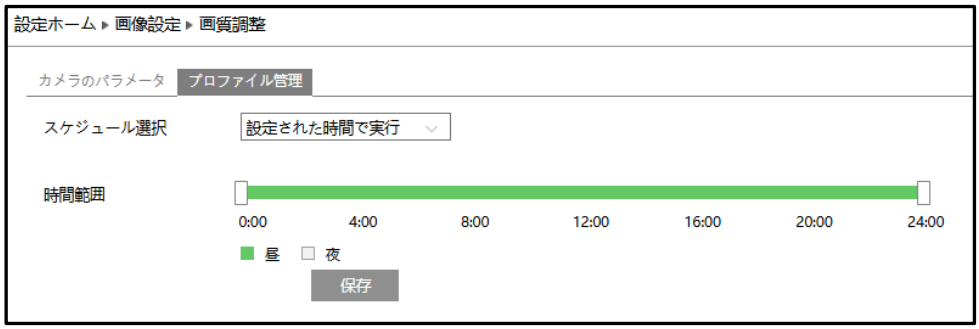


スケジュールの設定方法

［24 時間連続］と［設定された時間で実行］が選択できます。

［設定された時間で実行］では昼/夜切り替えのスケジュールを設定して運用します。

スケジュールの設定方法は次の通りです。

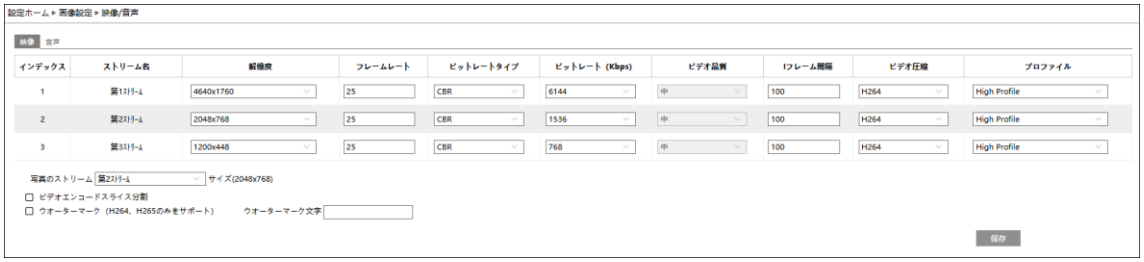


タイムライン上の“ ”をドラッグして昼間と夜の時間帯を設定します。 緑が昼間時間、グレーが夜時間を表します。

設定が完了したら保存します。

4.2.2 映像/音声

映像、音声の IP ストリーム(圧縮方式や解像度、フレーム数、ビットレートなど)を設定します。



➢ 映像

[映像]タブを開き、第 1/第 2/第 3 ストリームの解像度やフレームレートなどをそれぞれ設定します。

表示	説明
解像度	カメラ画像の表示解像度を設定します。
フレームレート	フレームレートを設定します。（範囲 1 ～30 フレーム：映像周波数 60Hz の場合）フレームレートが高いほど、映像は滑らかになります。
ビットレートタイプ	VBR または CBR から選択します。 VBR：可変ビットレート / CBR：固定ビットレート
ビットレート（Kbps）	CBR を選択した場合、ビットレート設定ができます。 ビットレートが高いほど画質が向上しますが、データサイズは大きくなります。
ビデオ品質	VBR を選択した場合、ビデオ品質設定ができます。 品質が高いほど、ビットレートは高くなり、データサイズも大きくなります。 CBR の適切なビットレート値が分からないときは VBR を選択します。
I-フレーム間隔	I-フレームの送信間隔を設定します。I フレーム間隔の時間は、I フレーム間隔÷fps です。
ビデオ圧縮	H.264 / H.265 / H.264+ / H.265+ / MJPG からビデオ圧縮方式を選択します。
プロファイル	H.264 / H.264＋を選択した場合、プロファイルを選択します。
写真のストリーム	イベント発生時に静止画を撮影するストリームを選択します。
ビデオエンコードスライス分割	ビデオエンコードスライス分割にチェックを入れ、有効にします。 この機能を有効にすると、低性能の PC を使用しても滑らかな画像を得ることができます。
ウォーターマーク	ウォーターマークにチェックを入れ、有効にします。 ウォーターマーク符号に透かしテキストを入力します。検索画面で、ローカルに記録されたビデオを再生する時にウォーターマークを表示できます。
保存	設定を保存します。

➢ 音声

[音声]タブを開き、音声圧縮方式や音声入出力レベルを設定します。



表示	説明
有効	音声を有効にする場合はチェックを入れます。
音声形式	音声圧縮方式を選択します。（G.711A または G.711U）
音声タイプ	カメラ内蔵マイクと外部 LINE 入力を選択します。
音声出力 （外部出力：HP）※１	外部音声出力から出力する音の種類を選択します。 自動を選択したときは警告音と双方向音声を自動で切り換えます。※２
スピーカ （内蔵スピーカ）※１	カメラ内蔵スピーカから出力する音の種類を選択します。 自動を選択したときは警告音と双方向音声を自動で切り換えます。※２
MIC ボリューム	マイク入力の入力レベルを調整します。
音声出力音量	外部音声出力の出力レベルを調整します。
保存	設定を保存します。

※１：外部音声出力と内蔵スピーカは同時に使用できません。

※２：双方向音声を使用しているときは警告音に切り換わりません。

★お知らせ★

RTMP で YouTube Live へ配信する場合は、必ず音声を有効にする必要があります。
また、無音で配信する場合は、MIC ボリュームを 0 に設定してください。0 に設定してもノイズが聞こえる場合は、一度有効のチェックを外して保存し、再び有効をチェックして保存すると反映されます。

4.2.3 OSD

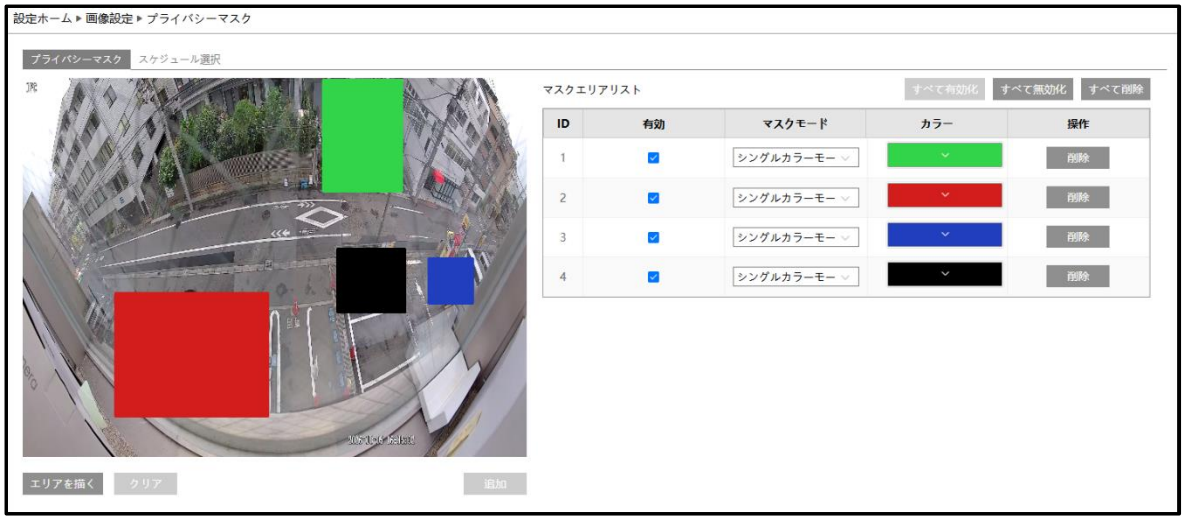
OSD（On Screen Display）に関する設定を行います。



表示	説明
OSD 時間フォーマット	12 時間表示（AM/PM）と 24 時間表示が設定できます。
OSD 日付フォーマット	[日付時刻を画面表示する]にチェックを入れ、OSD を有効にします。 日付時刻の表示形式をプルダウンから選択します。 《 Y：年、 M：月、 D：日 を表します 》 ディスプレイ上に赤枠で日付時刻が表示されます。赤枠をドラッグして表示位置を変更できます。
フォント透明度	フォントの透明度を設定できます。
OSD フォントサイズ	フォントのサイズを設定できます。
OSD フォントの色	フォントの色を変更できます。
日付時刻を画面表示する	日付時刻の表示・非表示を切り替えられます。
チャンネル名表示	チャンネル名表示・非表示と表示チャンネル名が設定できます。
チャンネル名	[チャンネル名表示]にチェックを入れ、画面表示を有効にします。 チャンネル名を入力すると、ディスプレイ上に赤枠でチャンネル名を表示します。赤枠はドラッグして表示位置を変更できます。 ここで変更したデバイス名は、「4.1.1 **基本情報**」に反映されます。 **※英数字のみサポートします。日本語入力は文字化け、欠落が発生します。**
追加 OSD	チェックを入れ、追加 OSD または写真オーバーレイを有効にします。 ・ 追加 OSD を選択した場合、文字列を入力するとディスプレイ上に表示されるので、ドラッグして位置を変更します。 [1 行追加]にチェックを入れると、文字列をもう 1 行追加できます。 ・ 写真オーバーレイを選択した場合、ロゴや文字などの画像を表示することができます。保存先変更から画像を指定し、アップロードをクリックします。表示できる画像のサイズは縦 X 横が 200 ピクセル以下です。
保存	設定を保存します。

4.2.4　プライバシーマスク

プライバシーマスクに関する設定を行います。プライバシーマスクは最大 4 か所に設定できます。



プライバシーマスクの設定

① [エリアを描く]をクリックし、ディスプレイ上でマウスを左クリックしながらドラッグしてプライバシーマスクを描画します。プライバシーマスクは 4 か所まで設定できます。

② [作図終了]をクリックすると、プライバシーマスクの描画を終了します。[追加]をクリックするとマスクエリアリストに追加されます。[作図終了]をクリックしないで[追加]をクリックするとマスクエリアリストに追加され、同時に作図終了になります。

③ マスクエリアリストに追加する前に[クリア]をクリックすると作図したプライバシーエリアが削除されます。

④ [カラー]をクリックするとグラデーションを表示するのでグラデーション部分をクリックしてから[OK]をクリックすると、選択した色に反映されます。

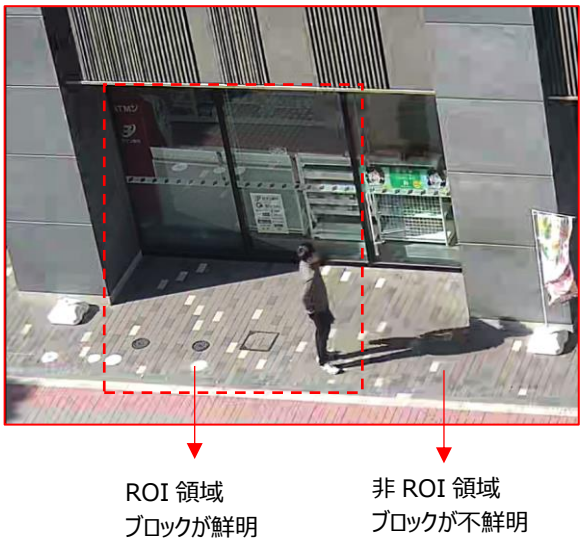
⑤ [有効]のチェックを外すと、設定したプライバシーマスクを無効にすることができます。無効に変更してもプライバシーエリアは削除されません。

⑥ [削除]をクリックすると、プライバシーエリアを削除して良いか確認メッセージを表示します。[OK]をクリックすると、プライバシーマスクが削除されます。

4.2.5 ROI

ROI（Region of Interest）に関する設定を行います。
監視対象の重要な領域を高画質で、重要でない箇所は画質を落とすことで、限られた伝送帯域や HDD 保存領域を効率の良く利用するための技術です。





ROI の設定

① [有効]にチェックを入れ、ROI を有効にします。

② [エリアを描く]をクリックし、ディスプレイ上でマウスを左クリックしながらドラッグして ROI 領域を描画します。ROI 領域は 8 か所まで設定できます。

③ [作図終了]をクリックすると、ROI 領域の描画を終了します。

④ [クリア]をクリックすると ROI 領域を削除します。

⑤ スライドの をドラッグして ROI レベルを調整します。

⑥ [保存]をクリックして、設定した ROI 領域を保存します。

4.2.6　スマートサプリメントライト

白色光の点灯に関する設定を行います。

「4.2.1 **画質調整**」のイルミネーションモードでスマートサプリメントライトを設定すると、夜間、通常時は赤外線照明で白黒撮影し、設定したエリア内にターゲットを検出すると、自動的に白色照明に切り替わりカラーで撮影することができます。イベントメニューの中で連動設定にトリガーライトアラームにチェックを入れた場合、白色光と同時に赤/青 LED も点滅します。



表示	説明
トリガーモード	検出対象が「動く物体」または「全オブジェクト」を選択します。
検出対象	検出するターゲットを設定します。☑を外したターゲットは検出しません。
間隔（点灯時間）	白色光の点灯している時間を設定します。 10 秒,40 秒,70 秒,100 秒,130 秒,160 秒,190 秒,220 秒,250 秒,300 秒から選択します。
アラームエリア	検出領域を選択します。検出領域は最大 4 パターン設定できます。
保存	設定を保存します。

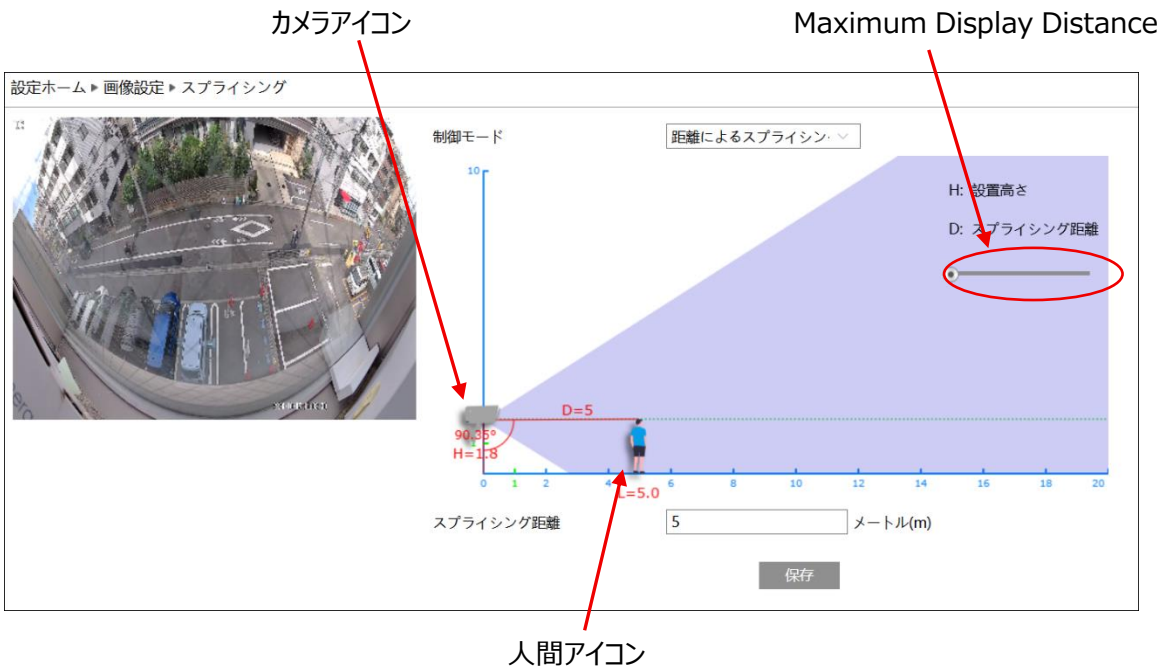
4.2.7　スプライシング

本機は 2 台のカメラ映像を結合することで水平 180 度のワイドアングル撮影を実現しています。
カメラと被写体間の距離によって、結合面の不整合が発生します。（注意：カメラと被写体との距離が近すぎると綺麗に結合できません。）
実際の撮影画像で、不整合が気になる場合は、このメニューで調整することができます。

以下の表は、縦軸＝カメラの設置高さ、横軸＝被写体までの距離、となっています。
ブルーの領域は垂直方向の撮影領域です。
Maximum Display Distance を調整すると、横軸のスパンが調整できます（20m～200m）

カメラアイコンをクリック＆ドラッグして、実際のカメラの設置高さに合わせます。
人間アイコンをクリック＆ドラッグして、カメラと被写体の間の距離を設定します。
スプライシング距離に直接数値を入力して、カメラと被写体間の距離を設定することもできます。（スプライシング距離に数値を入力した場合、保存をクリックすると反映されます。）
アイコンをクリック＆ドラッグ後、保存をクリックします。

撮影画像で不整合が発生していないか確認してください。



4.3 アラーム設定

モーション検出、異常、アラーム入力、アラーム接点出力、アラームサーバ、音声アラーム、光アラーム、妨害検知、音声例外、アラーム解除などのサブメニューがあります。

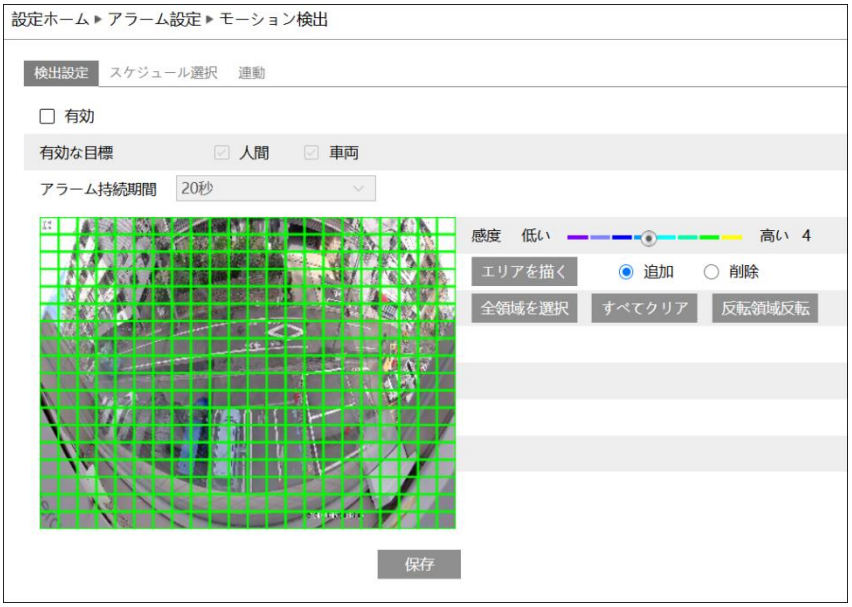


4.3.1 モーション検出

モーション検出は、画像の中の動きを検出して通知する機能です。検出設定や感度、スケジュール設定、アラーム連動を設定します。

➢ 検出設定

[検出設定]タブを開き、検出エリアと感度を設定します。



表示	説明
有効	モーション検出を有効にする場合は、チェックを入れます。 有効である場合、ライブ画面の右上にアイコン が表示されます。 モーションを検出すると、アイコン は赤く点滅します。
有効な目標	モーションを検出する対象を設定します。人間、車両、どちらにもチェックを入れないときは映像に変化があったときモーション検出します。人間、車両にチェックを入れると人や車両を検出したときにモーション検出します。
アラーム持続期間	モーションアラームの持続時間を設定します。 持続している間は、ライブ画面上でアイコン が赤く点滅しています。 1 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。
感度	数値が大きいほど感度は高くなります。 感度　低い　高い　4
追加	検出エリアを追加します。
削除	検出エリアを削除します。
エリアを描く	追加するエリア、削除するエリアを、マウスをドラックして描画します。
全領域を選択	画面の全ての領域を選択します。
全てクリア	選択された領域を全てクリアし未選択にします。
領域反転	検出エリアと未検出エリアが反転します。
保存	設定を保存します。

モーション検出エリアの設定

（１） [エリアを描く]をクリックし、[追加]を選択してディスプレイ上でマウスをドラッグすると検出エリアを描画できます。[削除]を選択して検出エリア上でマウスをドラッグすると、検出エリアを一部分削除できます。

（２） [作図終了]をクリックすると、検出エリアの描画を終了します。



（３）[全領域を選択][すべてクリア][反転領域反転]でも検出エリアを設定できます。

（４）感度を設定します。数値が大きいほど感度は高くなります。



（５）[保存]をクリックし、検出エリアを保存します。

➢ スケジュール選択

[スケジュール選択]タブを開き、モーション検出のスケジュールを設定します。

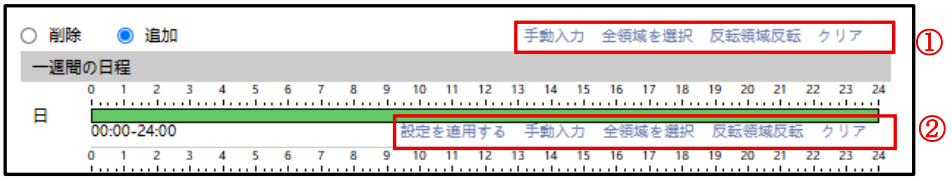


●スケジュールの設定方法

◆ 一週間の日程

日曜日～土曜日の一週間のスケジュールを設定します。

①では、全ての曜日を同時に設定することができます。②では曜日ごとに設定します。



削除　　：録画を無効にする時間帯をタイムライン上でクリックまたはドラッグします。(白)

追加　　：録画を有効にする時間帯をタイムライン上でクリックまたはドラッグします。(緑)

設定を適用する　：選択した曜日のスケジュールを他の曜日に適用します。

手動入力　　：[削除]または[追加]を選択してから、タイムライン右下の[手動入力]をクリックし、時間帯を設定します。

全領域を選択　：24 時間全てを選択します。（緑）

領域反転　　：24 時間全てを未選択にします。（白）

クリア　　：直前の操作を無効にします。

◆　休日設定とスケジュール

日付を指定してスケジュールを設定します。（例えば国民の祝日など）

日付を指定し、[＋]をクリックします。その後、タイムラインでスケジュールを設定して保存します。

削除するときは、日付を選択してから[―]をクリックします。

➢　連動

モーション検出と連動して、さまざまな通知機能を動作させることができます。

連携する連動は、「4.3.3 **アラーム入力**」と「4.4 **イベント設定**」の各種検知機能との共通設定項目です。



◆　音声アラームを鳴らす

チェックを入れると、検出時にカメラのオーディオ出力から音声アラームを出力します。

鳴らす音声はリストよりプルダウンで選択できます。（音声は英語です。）

音声アラームは「4.3.6 **音声アラーム**」で設定してください。

◆　トリガーライトアラーム

チェックを入れると、検出時にカメラ本体に内蔵している高輝度 LED が赤色、青色に点滅して発報します。光アラームに関する設定は「4.3.7 **光アラーム**」で設定してください。

◆ 写真を SD カードに保存

チェックを入れると、検出時に画像をキャプチャし SD カードに保存します。

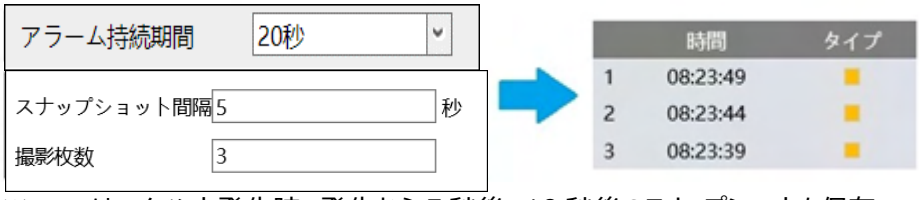
キャプチャ画像の解像度は、「4.2.2 **映像/音声**」の写真のストリームで設定します。

SD カードへの画像保存に関する設定は、「4.1.4 **ストレージ**」の 写真撮影を参照してください。

SD カードへのスナップショット保存例

[例 1] アラーム持続期間：20 秒、スナップショット間隔：5 秒、撮影枚数：3 枚の場合

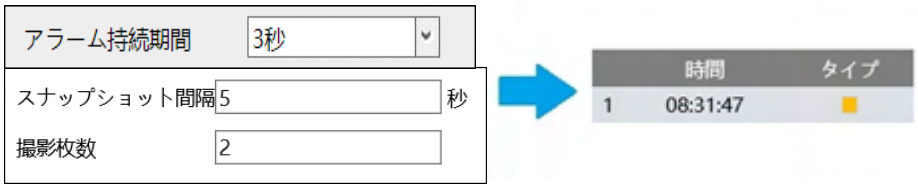
→ イベント発生時に 1 枚、その後 5 秒間隔で 1 枚ずつ撮影され、計 3 枚(最大)のスナップショットが保存されます。



※ここでは、イベント発生時、発生から 5 秒後、10 秒後のスナップショットを保存。

[例 2] アラーム持続期間：3 秒、スナップショット間隔：5 秒、撮影枚数：2 枚の場合

→ イベント発生時に 1 枚、アラーム持続期間が 3 秒で終了したため、5 秒後のスナップショットは撮影されず、発生時の 1 枚のみ保存されます。



※アラーム持続期間が終了した時点で、それ以降のスナップショットは保存されません。

◆ SD カード録画

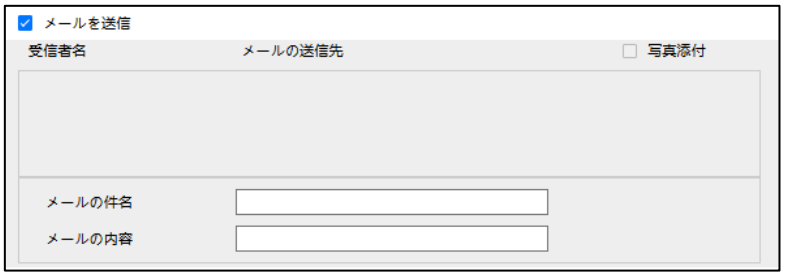
チェックを入れると、検出時のビデオが SD カードに保存されます。

SD カードへの録画に関する設定は、「4.1.4 **ストレージ**」の スケジュール録画を参照してください。

◆ メールを送信

[メールを送信]にチェックを入れると、E メールによる通知が有効になります。

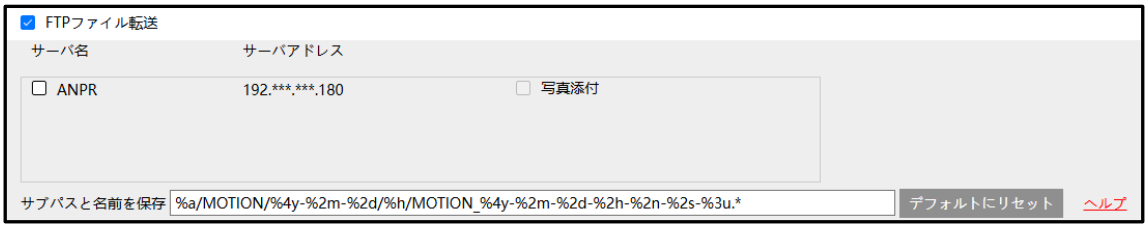
通知メールの送信先をリストから選択し、メールの件名と内容を入力します。検出時の写真を添付する場合は[写真添付]にチェックを入れます。



E メール通知の送信に関する設定は、「4.5.11 **Email**」を参照してください。

◆ FTP ファイル転送

[FTP ファイル転送]にチェックを入れると、FTP サーバへのファイル転送が有効になります。
FTP サーバをリストから選択し、検出時の写真を添付する場合は[写真添付]にチェックを入れます。



FTP サーバに関する設定は、「4.5.12 **FTP**」で事前に行う必要があります。

テキストファイルとスナップショットは、《 指定フォルダ > MAC アドレス > イベント名 > 日付 > 時間 》に保存されます。



パスやファイル名を変更したい場合は［サブパスと名前を保存］欄を修正することで変更することができます。パスとファイル名の構成は以下の通りです。

%a/MOTION/%4y-%2m-%2d/%h/MOTION_%4y-%2m-%2d-%2h-%2n-%2s-%3u.*

パスの指定　　ファイル名

シンボル	コンテンツ	パス	ファイル名	補足
%y	年	○	○	4y は年を 4 桁とする。4y は変更不可。
%m	月	○	○	2m は月を 2 桁とする。2m は変更不可。
%d	日	○	○	2d は日を 2 桁とする。2d は変更不可。
%h	時	○	○	24 時間（0～24）
%n	分	X	○	保存パスには使用不可
%s	秒	X	○	保存パスには使用不可
%u	ミリ秒	X	○	保存パスには使用不可
%p	車番	X	○	認識した車番情報。保存パスには使用不可
%c	カウント数	X	○	カウント数。保存パスには使用不可

%a	MAC	○	○	MAC アドレス
%e	デバイス名	○	○	OSD で設定したデバイス名
MOTION	―	○	○	任意の名称に変更が可能

上記のシンボルを組み合わせて、オリジナルのパスやファイル名でイベントファイルを保存することができます。一部のシンボルを削除することもできます。例えば、パスを「%a/MOTION/%4y-%2m-%2d」とすれば、ファイルは時間ごとのフォルダではなく、日ごとのフォルダに全て保存されます。

(1) 写真添付なしの場合

イベント発生時に、イベントの内容がテキストファイルで転送されます。

(2) 写真添付ありの場合

イベント発生時に、テキストファイルとスナップショット 1 枚が転送されます。アラーム持続期間(5 秒)が経過後、スナップショット 1 枚が転送されます。



(3)イベント発生時間がアラーム持続期間を超える場合

イベント発生時に、テキストファイルとスナップショット 1 枚が転送されます。アラーム持続期間を経過するごとにスナップショット 1 枚が転送されます。

[例] イベント発生時間：25 秒、アラーム持続期間：10 秒の場合

イベント発生時に「テキストファイル」と「スナップショット 1 枚」、1・2 回目のアラーム持続期間経過後に「スナップショット 1 枚ずつ(計 2 枚)」、3 回目のアラームの途中でイベントが終了し、アラーム持続期間経過後に「最後のスナップショット 1 枚」



◆ 昼/夜の切り替えとの連動（アラーム入力専用連動機能）

チェックを入れると、アラーム入力と連動してカメラの昼/夜モードを切り替えます。

※「4.2.1 **画質調整**」イルミネーションモードで赤外線を選択したときに現れる項目です。

◆ アラーム接点出力

[アラーム接点出力]にチェックを入れると、カメラのリレー出力がトリガーされます。

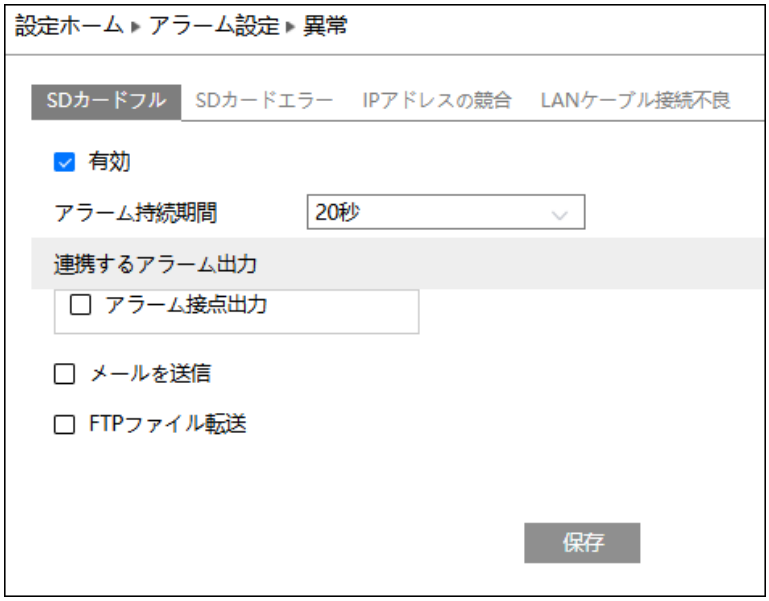
アラーム出力に関する設定は、「4.3.4 **アラーム接点出力**」を参照してください。

4.3.2 異常

異常アラーム関連のパラメータと連動アラームを設定します。

➢ SD カードフル

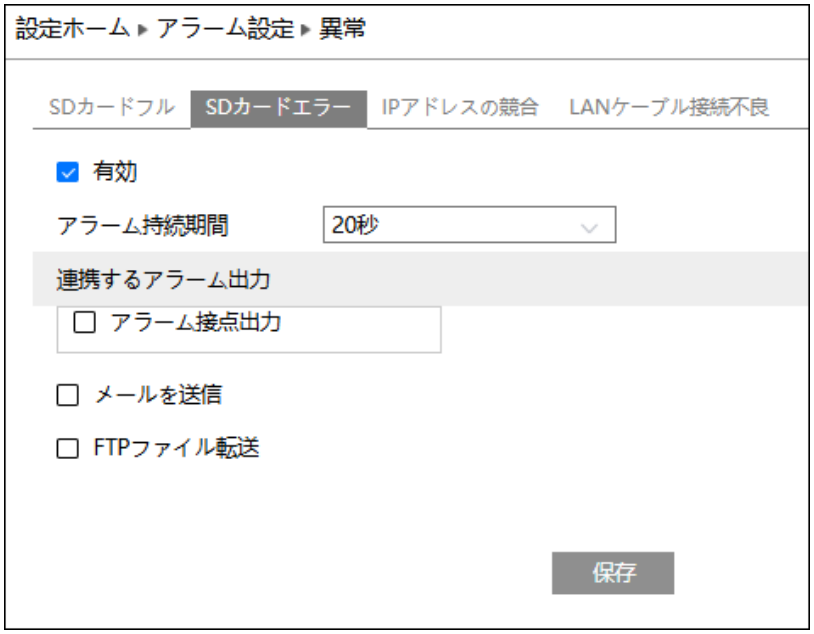
[SD カードフル]タブを開き、SD カードの容量が一杯になったときのアラームを設定します。



表示	説明
有効	SD カードの容量が一杯になったときに通知する場合はチェックを入れます。
アラーム持続期間	アラームの持続時間を設定します。 1 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。
連携するアラーム出力	SD カードフルでは、以下の 3 つのアラームを設定できます。 アラーム接点出力、メールを送信、FTP ファイル転送 ※各アラームの説明は、「4.3.1 **モーション検出**」の**連動**を参照してください。
保存	設定を保存します。

➢ SD カードエラー

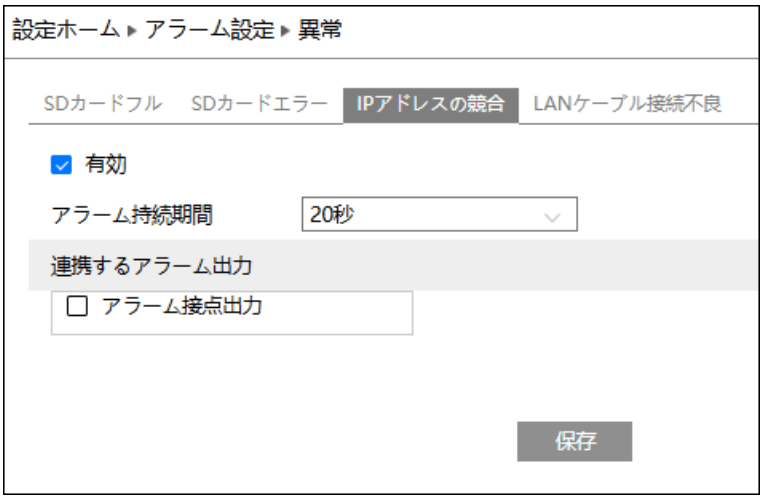
[SD カードエラー]タブを開き、SD カードへの書き込みにエラーが生じたときのアラームを設定します。



表示	説明
有効	SD カードへの書き込みエラーがあることを通知する場合は、チェックを入れます。
アラーム持続期間	アラームの持続時間を設定します。 1 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。
連携するアラーム出力	SD カードエラーでは、以下の 3 つのアラームを設定できます。 アラーム接点出力、メールを送信、FTP ファイル転送 ※各アラームの説明は、「4.3.1 **モーション検出**」の**連動**を参照してください。
保存	設定を保存します。

➢ IP アドレスの競合

[IP アドレスの競合]タブを開き、IP アドレスが競合したときのアラームを設定します。



表示	説明
有効	IP アドレスの競合を検出されたとき通知する場合は、チェックを入れます。
アラーム持続期間	アラームの持続時間を設定します。 1 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。
連携するアラーム出力	IP アドレスの競合エラーでは、以下のアラームを設定できます。 アラーム接点出力 ※各アラームの説明は、「4.3.1 **モーション検出**」の**連動**を参照してください。
保存	設定を保存します。

➢ LAN ケーブル接続不良

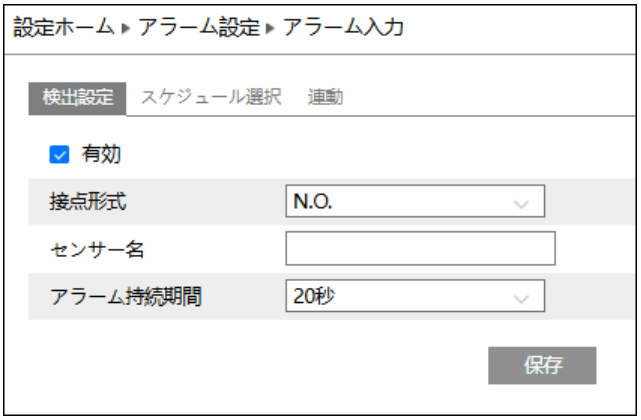
[LAN ケーブル接続不良]タブを開き、ネットワーク接続にエラーが生じたときのアラームを設定します。



表示	説明
有効	LAN ケーブル接続不良を通知する場合は、チェックを入れます。
アラーム持続期間	アラームの持続時間を設定します。 1 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。
連携するアラーム出力	LAN ケーブルの接続不良では、以下のアラームを設定できます。 アラーム接点出力 ※各アラームの説明は、「4.3.1 **モーション検出**」の**連動**を参照してください。
保存	設定を保存します。

4.3.3 アラーム入力

センサーアラームの関連パラメータ、連動アラームを設定します。



表示	説明
有効	アラーム入力を有効にする場合はチェックを入れます。
接点形式	接点形式を選択します。 N.O.：A 接点。通常＝OFF　　N.C.：B 接点。通常＝ON
センサー名	表示するセンサー名を設定します。　<> などの文字は使用できません。
アラーム持続期間	アラームの持続時間を設定します。 1 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。
保存	設定を保存します。

- スケジュール選択

  「スケジュール選択」はモーション検出、アラーム入力、イベント検知機能での共通設定項目です。「4.3.1 **モーション検出**」の スケジュール選択を参照してください。

➢ 連動

アラーム入力により連動させるアラームを設定します。



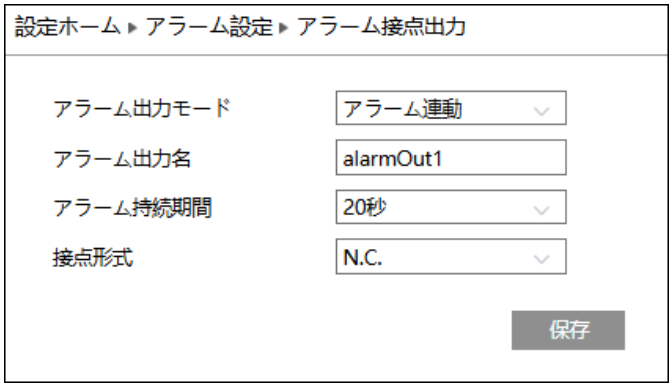
表示	説明
連携するアラーム出力	妨害検知では、以下の 7 つのアラームを設定できます。 音声アラームを鳴らす、トリガーライトアラーム、写真を SD カードに保存、SD カード録画、メールを送信、FTP ファイル転送、アラーム接点出力 ※各アラームの説明は、「4.3.1 **モーション検出**」の**連動**を参照してください。
保存	設定を保存します。

4.3.4 アラーム接点出力

センサーアラームの出力についての関連パラメータを設定します。次の 4 つのアラーム出力モードから選択します。アラーム連動、手動操作、昼/夜の切替えとの連動、設定された時間で実行。

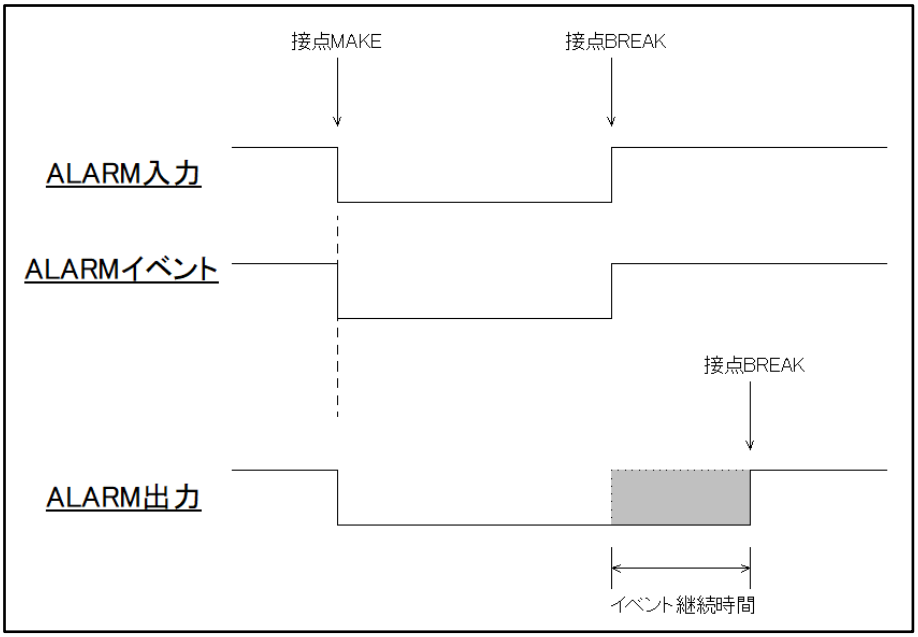
➢ アラーム連動

イベントの検出(モーション検出、アラーム入力、ラインクロスなど)に連動して、アラームを出力します。
アラーム出力を行う場合、各イベントの設定で[アラーム接点出力]を有効にする必要があります。



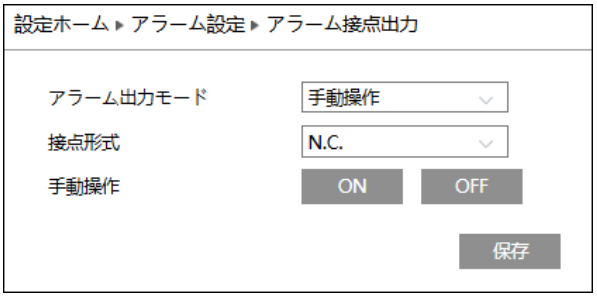
表示	説明
アラーム出力モード	[アラーム連動]、[手動操作]、[昼/夜の切り替えとの連動]、[設定された時間で実行]、から選択します。
アラーム出力名	アラームの名称を設定します。メール通知、FTP 転送などに反映されます。 例：alarmOut1
アラーム持続期間	アラームの持続時間を設定します。 イベントのアラーム持続時間が終了した後の、アラーム出力によるアラーム持続時間を設定します。（次ページのタイムチャート参照） 1 秒、2 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、35 秒、40 秒、45 秒、50 秒、55 秒、60 秒、2 分、常時から選択します。 持続している間は、ライブ画面上でアイコンが赤く点滅しています。
接点形式	アラームタイプを選択します。 N.O.：A 接点。通常＝OFF　　N.C.：B 接点。通常＝ON
保存	設定を保存します。

アラーム入力→アラーム設定出力のタイムチャートは次の通りです。



➢ 手動操作

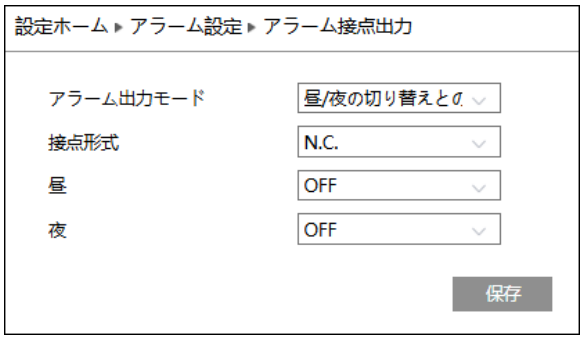
手動でアラーム接点出力の ON/OFF を操作します。



表示	説明
アラーム出力モード	[手動操作]を選択します。
接点形式	アラームタイプを選択します。 N.O.：A 接点。通常＝OFF　　N.C.：B 接点。通常＝ON
手動操作	ON または OFF をクリックしてアラーム接点出力を操作します。 ※カメラ内部でリレーの動作音が確認できます。
保存	設定を保存します。

➢ 昼/夜の切り替えとの連動

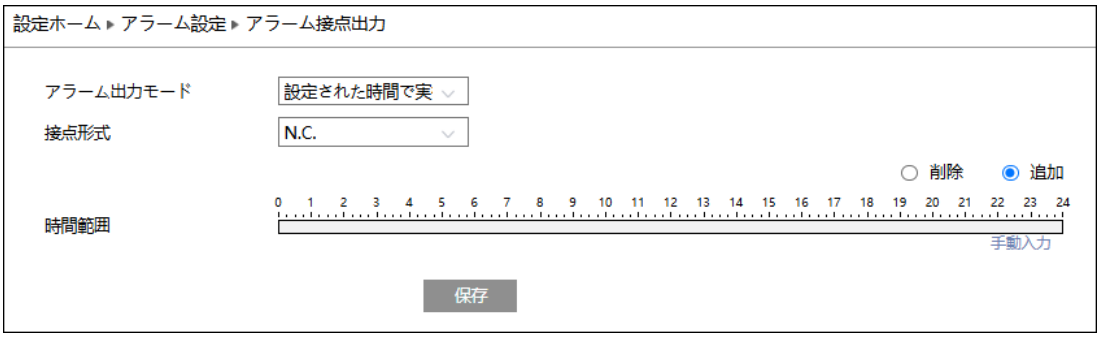
カメラが昼間モード⇔夜モードに切り替るのと連動して、アラーム接点出力を制御します。



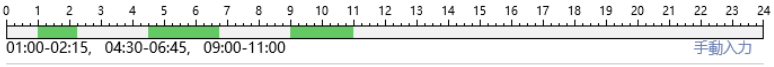
表示	説明
アラーム出力モード	[昼/夜の切り替えとの連動]を選択します。
接点形式	アラームタイプを選択します。 N.O.：A 接点。通常＝OFF　　N.C.：B 接点。通常＝ON
昼	昼モードの時に、アラームを ON または OFF にするのか選択します。
夜	夜モードの時に、アラームを ON または OFF にするのか選択します。
保存	設定を保存します。

➢ 設定された時間で実行

指定した時間にアラームを ON にします。

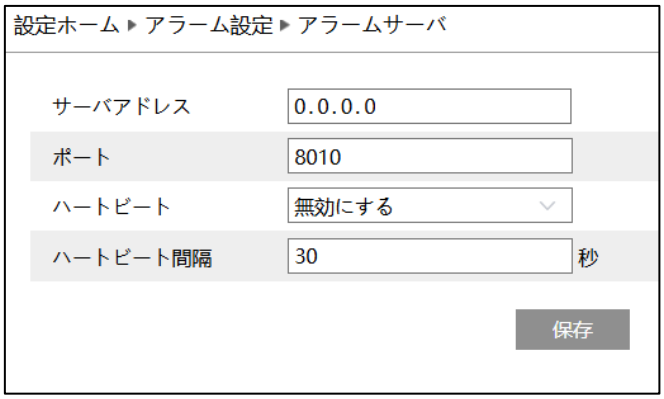


表示	説明
アラーム出力モード	[設定された時間で実行]を選択します。
接点形式	アラームタイプを選択します。 N.O.：A 接点。通常＝OFF　　N.C.：B 接点。通常＝ON
時間範囲	緑ラインのときに、アラームが ON になります。

	削除(OFF)/追加(ON)を選択してから、手動入力をクリックして時間を指定するか、マウスをドラッグして時間を設定します。 
保存	設定を保存します。

4.3.5 アラームサーバ

サードパーティのアラームサーバにアラーム情報を送信する場合に、アラームサーバを設定します。アラームが発生すると、アラームイベントをアラームサーバに転送します。

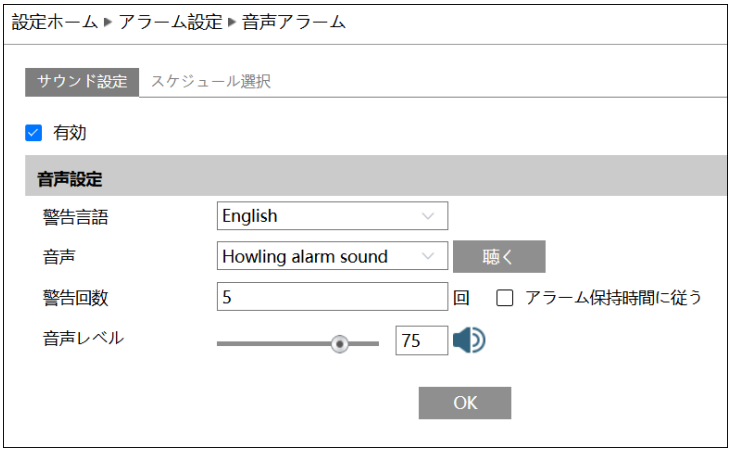


サーバアドレス、ポート、ハートビート、ハートビート間隔を設定します。アラームが発生すると、カメラはアラームイベントをアラームサーバに転送します。
アラームサーバが不要な場合は、この項を設定する必要はありません。

※ 設定するときは、[編集]ボタンを押します。
※ 設定されている場合アイコンをクリックすると、非表示になっているサーバアドレスを表示して確認することができます。

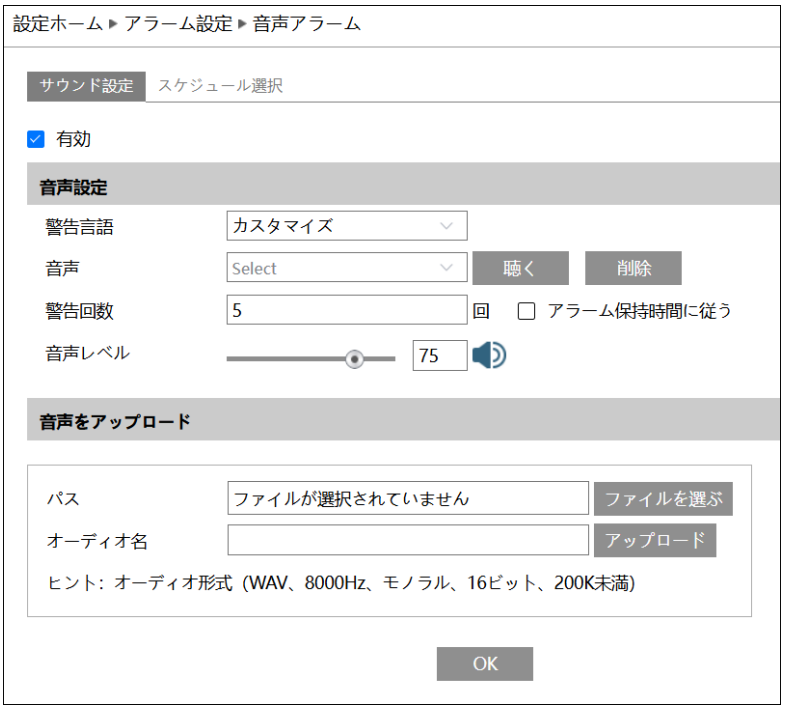
4.3.6 音声アラーム

内蔵スピーカで警告音声を鳴らす設定を行います。



表示	説明
有効	音声警告機能を有効にします。
警告言語	言語を選択します。プルダウンから「カスタマイズ」を選択すると、ユーザが作成した音声を登録することができます。
音声	登録された警告音声を選択します。 ※日本語の音声は事前に登録されていません。
警告回数	音声を繰り返し流す回数を設定します。1～50 回に設定できます。
音声レベル	音量を設定します。
OK	設定を保存します。

① 警告音でカスタマイズを選択すると、音声ファイルの登録と録音メニューが表示されます。



➢ 音声をアップロード

音声ファイルを登録します。音声ファイルの形式は要件（WAV、8000Hz、モノラル、16 ビット、200K 未満)を満たしていることを確認してください。要件を満たしていない場合はアップロードできません。

(ア) [ファイルの選択]をクリックしてアップロードする音声ファイルを選択します。

(イ) 音声名を入力します。

(ウ) [アップロード]をクリックしてカメラに音声ファイルをアップロードします。

② 音声を選択し、必要に応じて警告回数と音量を設定します。警告回数は 1～50 回まで設定できます。

③ 「OK」をクリックして設定を保存します。

➢ スケジュール選択

モーション検出、アラーム入力、イベントの各種検知機能のスケジュールと音声アラームのスケジュールが両方とも有効（緑色の帯）の状態でないと音声アラームが動作しません。

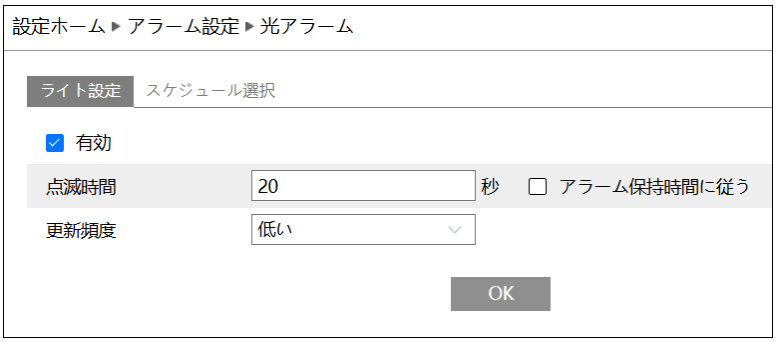
「スケジュール選択」はモーション検出、アラーム入力、イベント検知機能での共通設定項目です。「4.3.1 **モーション検出**」の スケジュール選択を参照してください。

4.3.7 光アラーム

カメラに内蔵している赤/青 LED の設定をします。

➢ ライト設定

点滅している時間と点滅する速度の設定をします。



表示	説明
有効	光アラームを利用するときは、チェックを入れます。
点滅時間	LED が点滅している時間を設定します。（設定範囲： 1 ～60 秒）
更新頻度	LED が点滅する早さを、低い（遅い）、中（普通）、高い（速い）から選択します。
OK	設定を保存します。

➢ スケジュール選択

アラーム入力、音声例外、イベントの各種検知機能のスケジュールと光アラームのスケジュールが両方とも有効（緑色の帯）の状態でないと光アラームが動作しません。

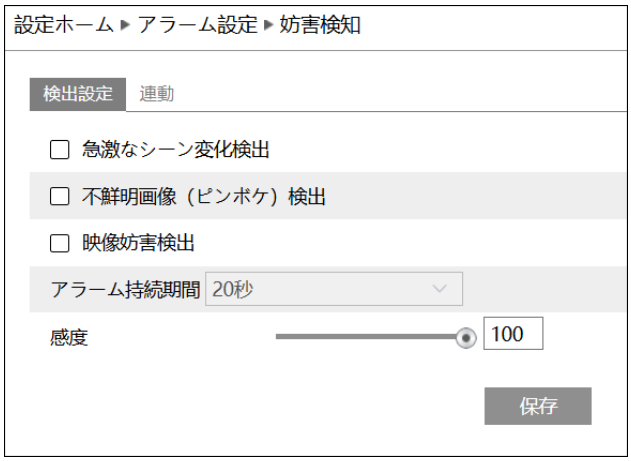
「スケジュール選択」はモーション検出、アラーム入力、イベント検知機能での共通設定項目です。「4.3.1 **モーション検出**」の スケジュール選択を参照してください。

4.3.8 妨害検知

カメラへの妨害を検知します。
・急激なシーン変化検出→カメラの向きが急に変わる
・不鮮明画像（ピンボケ）検出
・映像妨害検出→色異常検出

➢ 検出設定

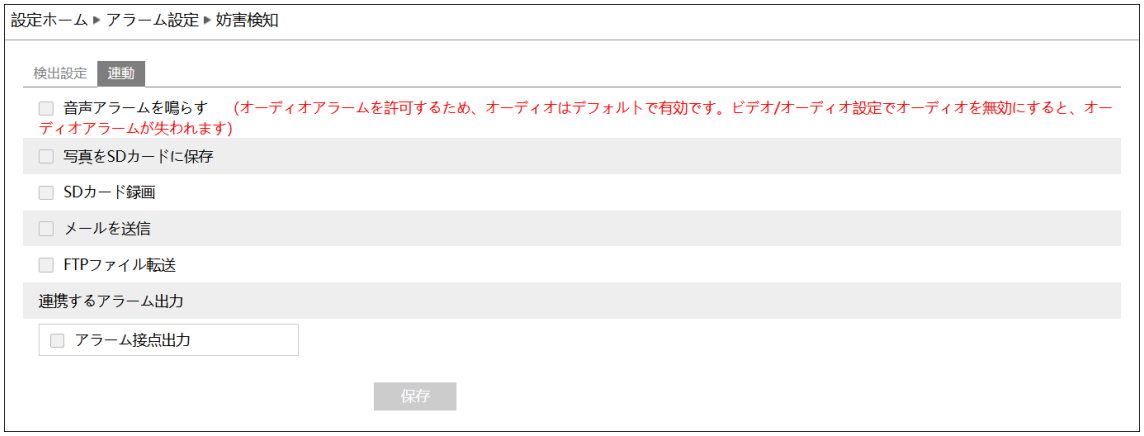
検知したい項目を選択します。



表示	説明
急激なシーン変化検出	急激なシーン変化検出を有効にする場合は、チェックを入れます。 有効に設定したとき、ライブ画面の右上にアイコン が表示されます。 カメラの向きが急に変わるなどを検出すると、アイコン は赤く点滅します。
不鮮明画像 （ピンボケ）検出	不鮮明画像検出を有効にする場合は、チェックを入れます。 有効に設定したとき、ライブ画面の右上にアイコン が表示されます。 ピンボケなどを検出すると、アイコン は赤く点滅します。
映像妨害 （色異常）検出	妨害によって異常な色になったことを検出する場合は、チェックを入れます。 有効に設定したとき、ライブ画面の右上にアイコン が表示されます。 画像が異常な色であることを検出すると、アイコン は赤く点滅します。
アラーム持続期間	アラームの持続時間を設定します。 1 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。
感度	妨害検知する感度を設定します。値が大きいほど感度は高くなります。 （設定範囲：１～１００）
保存	設定を保存します。

➢ 連動

妨害検知により連動させるアラームを設定します。



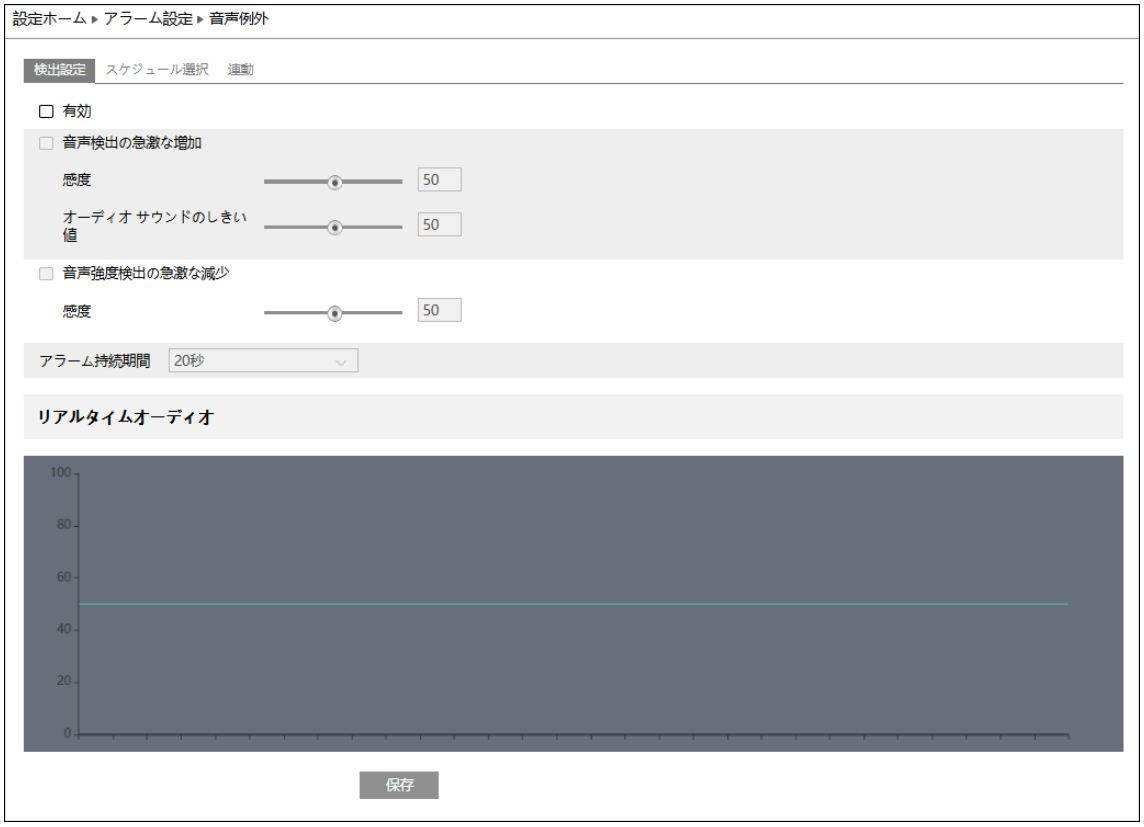
表示	説明
連携するアラーム出力	妨害検知では、以下の 6 つのアラームを設定できます。 音声アラームを鳴らす、写真を SD カードに保存、SD カード録画、メールを送信、FTP ファイル転送、アラーム接点出力 ※各アラームの説明は、「4.3.1 **モーション検出**」の**連動**を参照してください。
保存	設定を保存します。

4.3.9 音声例外

カメラが検出した音声の急激な変化を検知します。（急に音が大きくなる。急に音が小さくなるなど。）

➢ 検出設定

音声例外による検出設定をします。



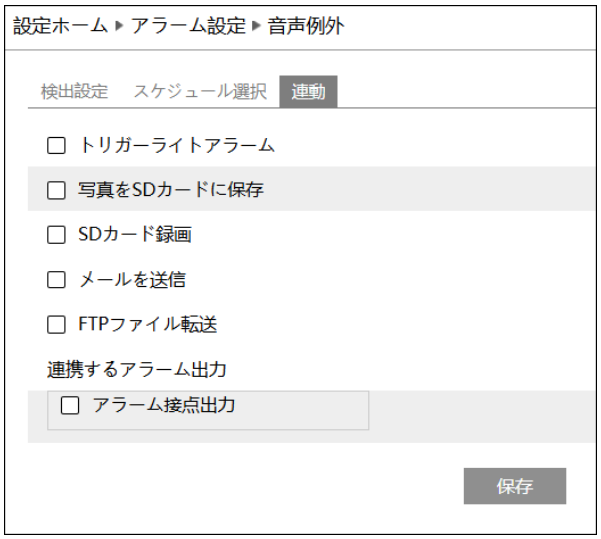
表示	説明
有効	音声例外を有効にするときは、チェックを入れます。 有効に設定したとき、ライブ画面の右上にアイコンが表示されます。 急激な音声の変化を検出すると、アイコンは赤く点滅します。
音声検出の急激な増加	感度と、しきい値を設定します。
音声強度検出の急激な減少	感度を設定します。
アラーム持続期間	アラームの持続時間を設定します。 1 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。
保存	設定を保存します。

➢ スケジュール選択

「スケジュール選択」はモーション検出、アラーム入力、音声例外とイベント検知機能での共通設定項目です。「4.3.1 **モーション検出**」の スケジュール選択を参照してください。

➢ 連動

音声例外により連動させるアラームを設定します。



表示	説明
連携するアラーム出力	音声例外では、以下の 6 つのアラームを設定できます。 トリガーライトアラーム、写真を SD カードに保存、SD カード録画、メールを送信、FTP ファイル転送、アラーム接点出力 ※各アラームの説明は、「4.3.1 **モーション検出**」の**連動**を参照してください。
保存	設定を保存します。

4.3.10　アラーム解除

「アラーム連動」で有効に設定した機能に対し、アラーム解除の設定を行う機能です。
※有効時にアラームを解除します。

➢　検出設定

「検出設定」タブを開き、音声例外によるアラームを設定します。



表示	説明
1 キーアラーム解除	OFF：アラームが設定どおりに通知されます。 ON：アラーム有効となっている機能へのアラームが解除(通知なし)になります。
計画的アラーム解除	OFF：アラームが設定どおりに通知されます。 ON：アラーム有効となっている機能へのアラームが解除(通知なし)になります。
アラーム連動	アラーム解除対象とする機能を選択します。 ※HTTP POST、アラームサーバ、クラウドプッシュは未サポートです。
保存	設定を保存します。

➢　スケジュール選択

「スケジュール選択」はモーション検出、アラーム入力、音声例外とイベント検知機能での共通設定項目です。「4.3.1 **モーション検出**」の スケジュール選択を参照してください。

4.4　イベント設定

「4.1.5 **ビジネスシナリオ（運用シーンの設定）**」によりイベント設定を選択します。初期設定は「スマートイベント」が有効になっています。 **※ビジネスシナリオの設定を変更するとカメラは再起動します。**

「スマートイベント」を有効にしたときのメニュー



「顔イベント」を有効にしたときのメニュー



4.4.1　物体検知（物体出現･消失検知）

指定したエリアで物体の置き去り、あるいは、持ち去りを検知します。**注意：[置き去り]と[持ち去り]の選択は未サポートです。どちらを選択しても[置き去り]と[持ち去り]の両方を検出します。**

➢　検出設定

[検出設定]タブを開き、各種パラメータを設定します。



表示	説明
有効	物体検知を有効にする場合は、チェックを入れます。 [置き去り物検出]か[持ち去り物検出]のどちらかを選択します。 **注意：[置き去り]と[持ち去り]の選択は未サポートです。どちらを選択しても[置き去り]と[持ち去り]の両方を検出します。**
時間閾値	物体を検出するまでの遅延時間を設定します。 遅延時間が 10 に設定された場合、物体が放置され、10 秒間領域に留まるとアラームがトリガーされますが、10 秒以内に誰かが物体を持ち去るとアラームはトリガーされません。 （設定範囲：置き去り 10～3600 秒、持ち去り 3 秒～3600 秒）
アラーム持続期間	アラームの持続時間を設定します。 1 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。

アラームエリア	アラームエリアは 1 エリアのみ設定できます。
エリア名	アラームエリアに名前を付けられます。
エリアを描く	アラームエリアを画面上に描画します。
クリア	アラームエリアを削除します。
保存	設定を保存します。

物体検知エリアの設定

① 検出領域を選択します。最大 1 つ設定できます。

② [エリアを描く]をクリックし、ディスプレイ上に検出したいエリアをクリックして赤丸を 4～6 つ置き、線で繋いで検出エリアを作成します。

③ [クリア]をクリックすると、作成した検出エリアが削除されます。

④ [保存]をクリックし、検出エリアを保存します。

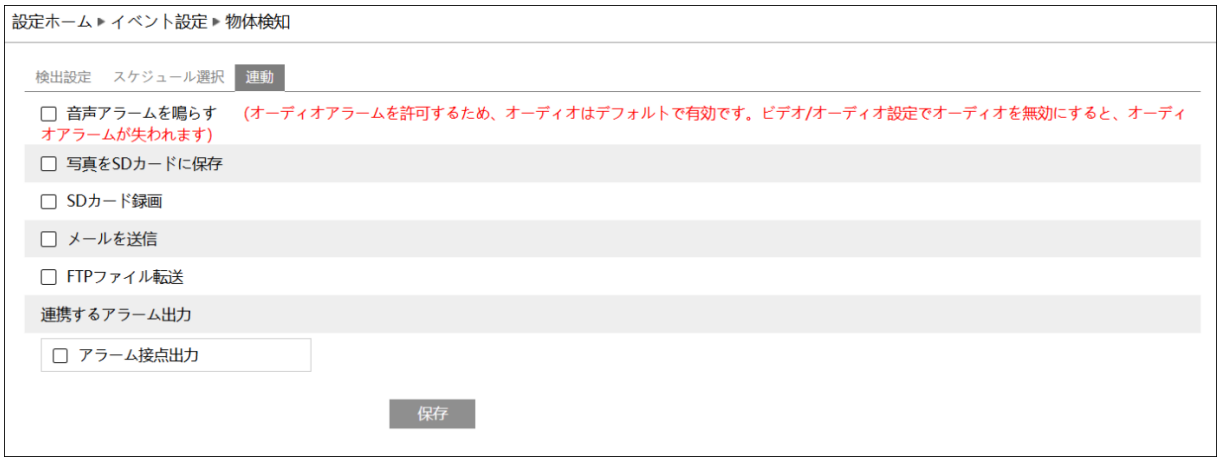


➢ スケジュール選択

「スケジュール選択」はモーション検出、アラーム入力、音声例外とイベント検知機能での共通設定項目です。「4.3.1 **モーション検出**」の スケジュール選択を参照してください。

➢ 連動

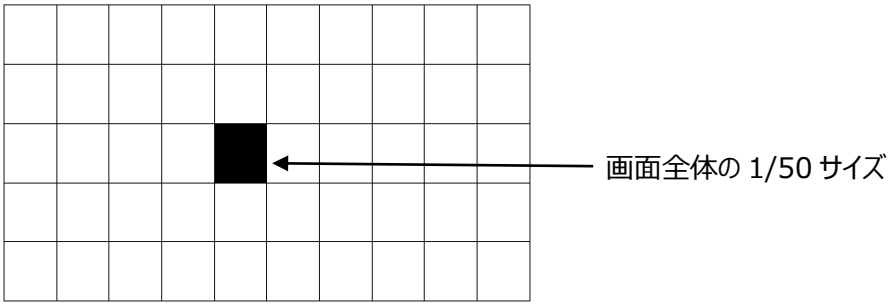
物体検知により連動させるアラームを設定します。



表示	説明
連携するアラーム出力	物体検知では、以下の 6 つのアラームを設定できます。 音声アラームを鳴らす、写真を SD カードに保存、SD カード録画、メールを送信、FTP ファイル転送、アラーム接点出力 ※各アラームの説明は、「4.3.1 **モーション検出**」の**連動**を参照してください。
保存	設定を保存します。

カメラと周辺エリアの設定条件

1. 検知対象物の大きさは、画像全体の 1/50～1/3 程度とします。



2. カメラが被写体を認識するまで 3 秒～5 秒かかります。
3. カメラと検知エリアの間に人や車両などが頻繁に入り込み、検知エリアの視界が妨げられないこと。
4. 物体消失の検出には、検出の感度と精度を高めるために、検出枠を対象物の外形に沿って設定すること。検出枠と検出物の間に余白が無いこと。
5. 物体出現・消失検知では、物体の所有者を特定することはできません。所有者が持ち去った場合でも消失として検知されます。
6. 被写体の照度が大きく変化している環境（走行中の車のライトが連続して照射されるなど）では検出できません。
7. 複雑な柄の背景や、大勢の人が常に行きかうような環境においては検出できません。
8. 適切な照度とクリアな背景であることは、物体出現・消失検知にとって非常に重要です。

4.4.2　ラインクロス（ライン越え検知）

設定したラインを検出対象が指定方向に通過したことを検知します。

➢　検出設定

[検出設定]タブを開き、各種パラメータを設定します。



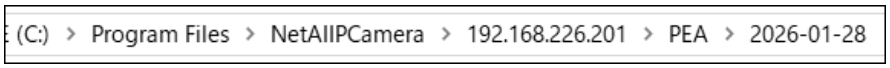
表示	説明
有効	ラインクロスを有効にする場合は、チェックを入れます。 有効に設定したとき、ライブ画面の右上にアイコン が表示されます。 ラインクロスを検出すると、アイコン は赤く点滅します。
元の画像を SD カードに保存	ラインクロス検出時に全景（第 1 ストリーム）をキャプチャします。 キャプチャ画像はローカル PC※1 または SD カードに保存されます。
ターゲット画像を SD カードに保存	ラインクロスで検出した全景写真からターゲット部分を切り抜いた写真をキャプチャします。 ターゲットの写真はローカル PC※1 または SD カードに保存されます。
トリガーモード	検出対象が「動く物体」または「全オブジェクト」を選択します。

		動く物体：ラインに指定した方向にターゲットの検出枠が接触した瞬間にイベント発生。ライン上に停止しても、アラーム持続期間終了後アラーム終了。 全オブジェクト：ラインに指定した方向にターゲットの検出枠が接触した瞬間にイベント発生。ライン上に停止していたら、ライン上に居る限りアラーム継続。
アラーム持続期間		アラームの持続時間を設定します。 1 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。 持続している間は、ライブ画面上でアイコンが赤く点滅しています。
検出領域	検出ライン	検出ラインを選択します。検出ラインは最大 4 パターン設定できます。
	検出方向	設定した検出ラインを通過する方向を設定します。 A→B、B→A、A⇔B
検出対象		ラインクロスを検出する対象(ターゲット)を選択し、感度を設定します。 ※検出ターゲット選択 ・人間 ・車両(4 輪車かそれ以上の車輪数の車両) ・オートバイ/自転車（二輪車） ※感度設定について ターゲットの検出の感度です。感度の数値を小さくすると検出対象を検出しにくくなります。感度の数値を大きくすると検出しやすくなります。 ライブ画面上では、以下のように表示されます。 <u>通常時</u> 人間：緑色枠 車両：紫色枠 オートバイ/自転車：水色枠 設定したライン：青色線 <u>検出時</u> ターゲット：黄色枠 ライン：赤色線
イベントトリガー感度		ラインをどのくらい超えたら検知するのか設定します。
対象サイズ	ターゲット	人間、車両、オートバイ/自転車を選択します。
	最小・最大	検出するターゲットの大きさを設定します。
エリアを描く		検出ラインを画面上に描画します。
クリア		設定した検出ラインを削除します。
描画ターゲットのサイズ		検出対象の大きさをマウスで設定します。緑枠または黄色枠をクリックして赤色のポイントをつかむと大きさを変更できます。

保存	設定を保存します。

※1:ローカル PC に保存する場合は、「4.1.3 **ローカル設定**」の「ローカルスマート静止画保存ストレージ」を有効(ON)にしてください。

写真は、《 静止画保存のパス ＞ IP アドレス ＞ PEA ＞ 日付 》に保存されます。



ラインクロスのライン設定

① 検出ラインと検出方向を選択します。最大４つ設定できます。

② [エリアを描く]をクリックし、ディスプレイ上でドラッグし検出ラインを引きます。

③ [クリア]をクリックすると、検出ラインが削除されます

④ [保存]をクリックし、検出ラインを保存します。



■対象サイズの設定■

対象ターゲットサイズを設定すると、設定した最小値から最大値の間にある大きさのターゲットだけが検出できるようになります。

例えば、背景の石や木が日差しや光源の角度によって人間と誤認識されることがある。或いは、車両としてベビーカーやキャスタバックなどを車両と認識しないようにしたい、などの場合に、ターゲットサイズを設定することで、より精度の高い認識が可能になります。

① [描画ターゲットのサイズ]をクリックして、選択したターゲット（人間、自動車、オートバイ/自転車）の最大サイズと最小サイズを画面に描画して設定します。

② ターゲットのプルダウンで、検出対象を「人間」、「自動車」、「オートバイ/自転車」から選択します。

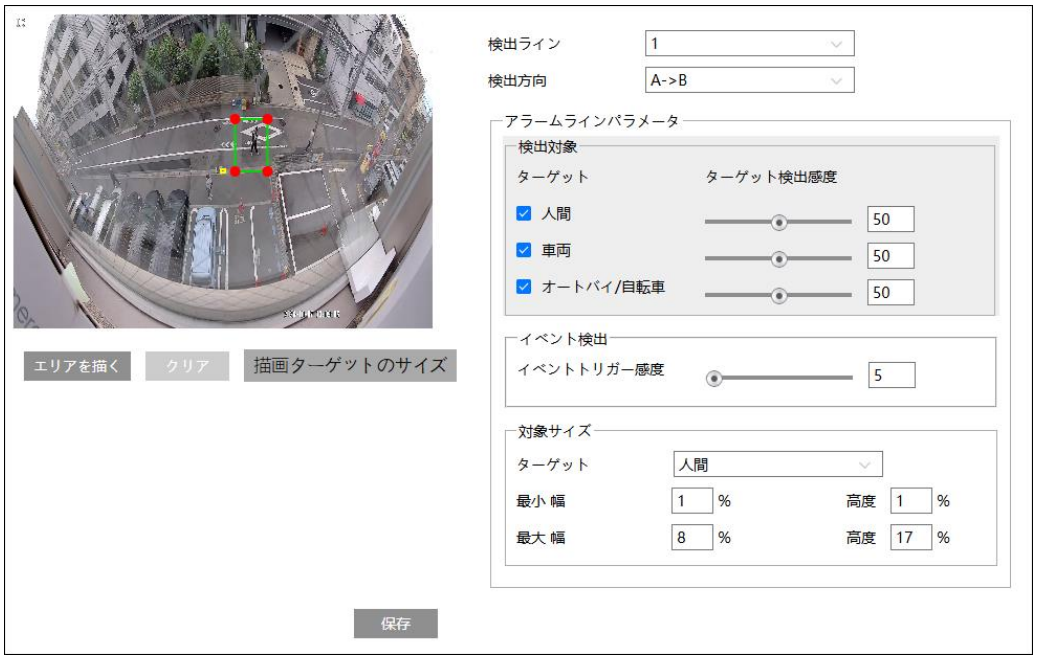
③ 画面に表示された緑色のボックスは最大ターゲット検出サイズ、黄色のボックスは最小ターゲット検出サイズです。

緑色のボックスまたは黄色のボックスをクリックして選択し、四隅の赤のマーカーをドラッグして、ボックスのサイズを変更します。右側に表示された、最小/最大の幅、高さの数値も連動して変更されます。

最小/最大の幅、高さの数値を直接入力して変更することもできます。

緑または黄色のボックスをクリックしてドラッグするとボックスを移動させることができますので、画面に映っている検出ターゲットに重ねて、大きさを確認します。

④ 最後に「保存」をクリックして設定を保存します。



➢ スケジュール選択

「スケジュール選択」はモーション検出、アラーム入力、音声例外とイベント検知機能での共通設定項目です。「4.3.1 **モーション検出**」の スケジュール選択を参照してください。

➢ 連動

ラインクロスにより連動させるアラームを設定します。



表示	説明
連携するアラーム出力	ラインクロスでは、以下の 7 つのアラームを設定できます。 音声アラームを鳴らす、トリガーライトアラーム、写真を SD カードに保存、SD カード録画、メールを送信、FTP ファイル転送、アラーム接点出力 ※各アラームの説明は、「4.3.1 **モーション検出**」の**連動**を参照してください。
保存	設定を保存します。

■カメラとその周辺の設定条件■

1. 樹木の多いシーンや光の変化の多いシーン（ヘッドライトの点滅が多いなど）、また照度が低く、暗いシーンは避けてください。
2. カメラは 2.8 メートル以上の高さに設置してください。
3. カメラの推奨俯角は 30°～45°です。

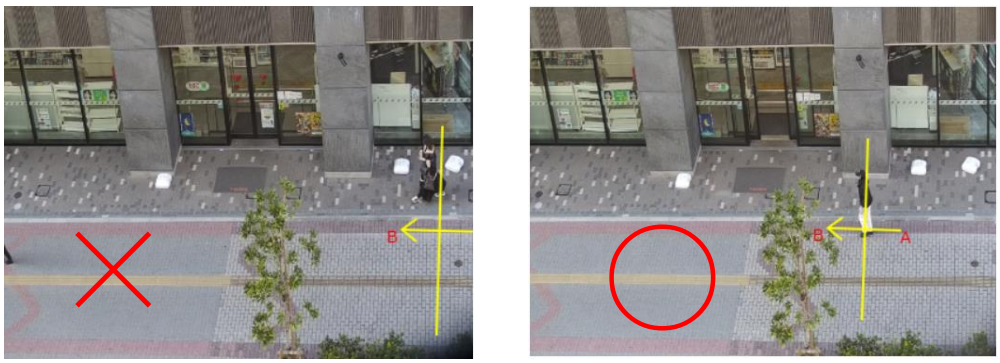
歩行者の場合、頭部と胴体がはっきりと映像に映るようにカメラの向きを調整してください。人間を真上から撮影するアングル（90°）では検出することができません。



車両の場合は、下図のような正面や横から撮影してください。上からの撮影アングルは避けてください。



4. 正確な検出のためには、ターゲットは検出ラインを超える、または検出領域に侵入する前に、少なくとも 2 秒間画面に映っていること。例えば、右端にラインを設定し、右から侵入するような設定は避けてください。



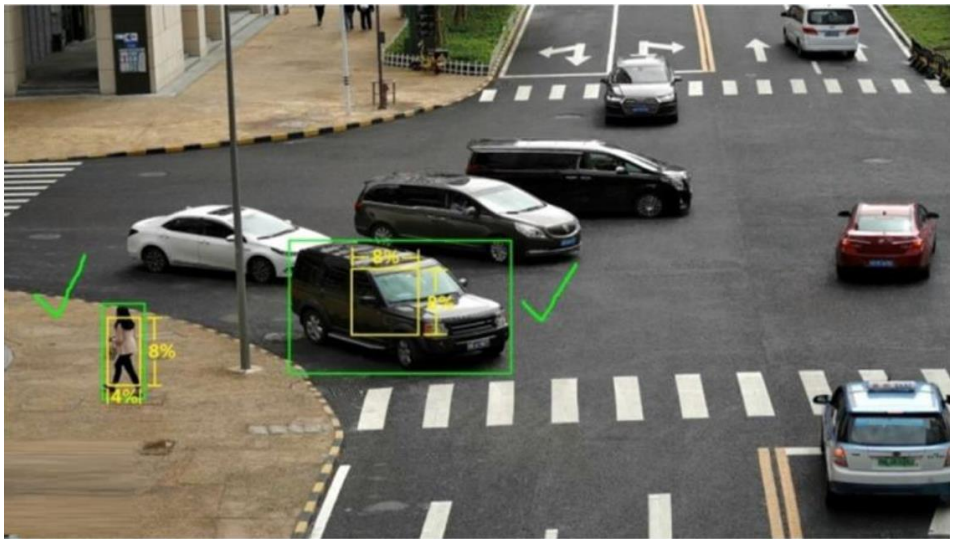
5. 十分な明るさがあり、シンプルな背景画像であること。

6. 次のターゲット認識サイズに合わせて、カメラの設置位置や ZOOM を調整してください。

推奨ターゲット認識サイズ

	人間	自動車	バイク/自転車
最小(幅 X 高さ)	4% X 8%	8% X 8%	4% X 4%
最大(幅 X 高さ)	50% X 50%	50% X 50%	50% X 50%

注：パーセンテージは、ターゲットが画像全体に占める割合を意味します。



上の写真が、画面に対する最小認識サイズの要件を満たした設定例です。
黄色の枠が最小認識サイズの設定です。緑の枠はターゲットのサイズを示しています。
黄色の枠より緑の枠の方が大きいため、最小認識サイズの要件を満足しています。



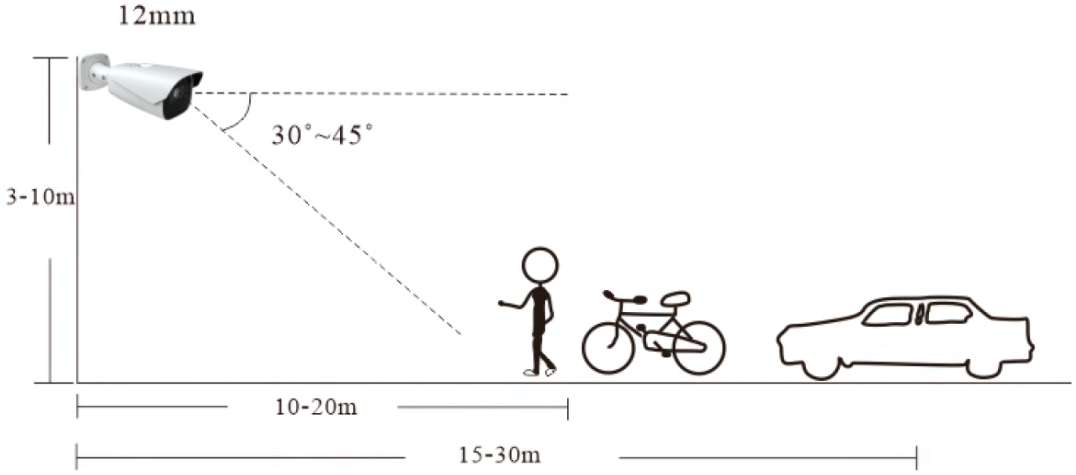
上の写真では、緑の枠より黄色の枠の方が大きく、最小認識サイズの要件を満たしていません。
カメラの設置位置を被写体に近づけるか、ZOOM を調整する必要があります。

7．設置方法

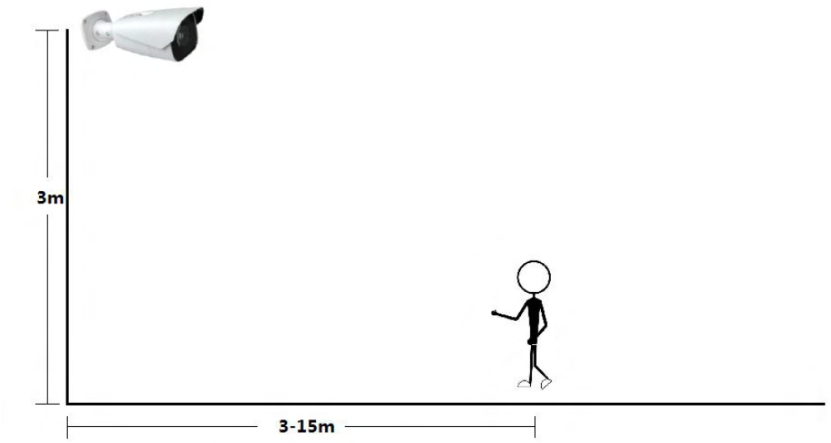
屋外設置：検出対象までの最適な距離は、レンズの焦点距離により異なります。以下の表を参照してください。

焦点距離	設置高さ(m)	人間/バイク/自転車		自動車	
		最長距離(m)	推奨距離(m)	最長距離(m)	推奨距離(m)
2.8mm	3-10	8	4-8	15	10-15
3.6mm	3-10	10	5-10	20	15-20
12mm	3-10	25	10-20	35	15-30
22mm	3-10	45	30-40	70	20-50

焦点距離＝12mm の場合



屋内設置：天井高さ＝3m 程度を想定すると、検出対象までの距離は 3～15mです。



4.4.3　領域に入る（エリア侵入検知）

設定したエリアに侵入する人や車両を検出します。検出のタイミングは、検出エリアを囲む線を、エリアの内側方向に跨いだ時です。

※設定したエリアの枠を跨ぐとき検出します。設定したエリアに入ってしまった後は検出しません。

➢　検出設定

[検出設定]タブを開き、各種パラメータを設定します。

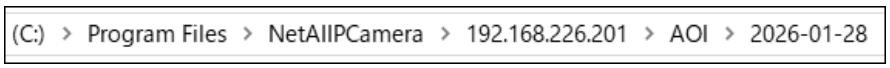


表示	説明
有効	領域侵入による検出を有効にする場合は、チェックを入れます。 有効に設定したとき、ライブ画面の右上にアイコン が表示されます。 領域侵入を検出すると、アイコン は赤く点滅します。
元の画像を SD カードに保存	領域侵入を検出時に全景（第 1 ストリーム）をキャプチャします。 キャプチャ画像はローカル PC※1 または SD カードに保存されます。

ターゲット画像を SD カードに保存		領域侵入を検出時に全景写真からターゲット部分を切り抜いた写真をキャプチャします。 ターゲットの写真はローカル PC※1 または SD カードに保存されます。
アラーム持続期間		アラームの持続時間を設定します。 1 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。 持続している間は、ライブ画面上でアイコンが赤く点滅しています。
アラームエリア		アラームエリアを選択します。アラームエリアは最大 4 エリア設定できます。
検出対象		領域侵入を検出する対象(ターゲット)を選択し、感度を設定します。 ※検出ターゲット選択 ・人間 ・車両(4 輪車かそれ以上の車輪数の車両) ・オートバイ/自転車（二輪車） ※感度設定について ターゲットの検出の感度です。感度の数値を小さくすると検出対象を検出しにくくなります。感度の数値を大きくすると検出しやすくなります。 ライブ画面上では、以下のように表示されます。 通常時 人間：緑色枠 車両：紫色枠 オートバイ/自転車：水色枠 設定したライン：青色線 検出時 ターゲット：黄色枠 ライン：赤色線
イベントトリガー感度		アラームエリアをどのくらい超えたら検知するのか設定します。
対象サイズ	ターゲット	人間、車両、オートバイ/自転車を選択します。
	最小・最大	検出するターゲットの大きさを設定します。
エリアを描く		検出エリアを画面上に描画します。 マウスで画面上にクリックすると赤い点が表示されます。囲むように４～６ポイントをクリックします。
クリア		検出エリアを削除します。
描画ターゲットのサイズ		検出対象の大きさをマウスで設定します。緑枠または黄色枠をクリックして赤色のポイントをつかむと大きさを変更できます。
保存		設定を保存します。

※1:ローカル PC に保存する場合は、「4.1.3 **ローカル設定**」の「ローカルスマート静止画保存ストレージ」を有効(ON)にしてください。

写真は、《 静止画保存のパス ＞ IP アドレス ＞ AOI ＞ 日付 》に保存されます。



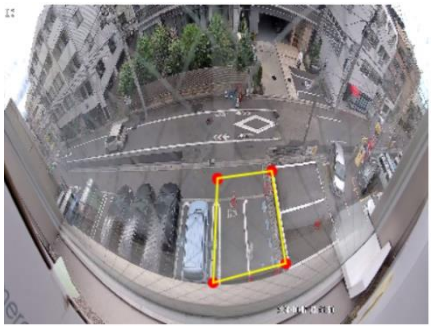
領域に入る エリア設定

① 検出領域を選択します。最大 4 つ設定できます。

② [エリアを描く]をクリックし、ディスプレイ上でクリックし赤のマーカーを 4～6 ヶ所置き、線で繋ぎ検出エリアを作成します。

③ [クリア]をクリックすると、検出エリアが削除されます

④ [保存]をクリックし、検出エリアを保存します。



■対象サイズの設定■

4.4.2 項 ラインクロスの、対象サイズの設定を参照してください。

■カメラとその周辺の設定条件■

4.4.2 項 ラインクロスの、カメラとその周辺の設定条件を参照してください、

➢ スケジュール選択

「スケジュール選択」はモーション検出、アラーム入力、音声例外とイベント検知機能での共通設定項目です。「4.3.1 **モーション検出**」の スケジュール選択を参照してください。

➢ 連動

領域に入るに連動させるアラームを設定します。



表示	説明
連携するアラーム出力	領域に入るでは、以下の 7 つのアラームを設定できます。 音声アラームを鳴らす、トリガーライトアラーム、写真を SD カードに保存、SD カード録画、メールを送信、FTP ファイル転送、アラーム接点出力 ※各アラームの説明は、「4.3.1 **モーション検出**」の**連動**を参照してください。
保存	設定を保存します。

4.4.4　領域を出る（エリア退出検知）

指定したエリアから退出する人や車両を検出します。検出のタイミングは、検出エリアを囲む線を、エリアの外側方向に跨いだ時です。

※設定したエリアの枠を跨ぐとき検出します。設定したエリアから出てしまった後は検出しません。

➢　検出設定

[検出設定]タブを開き、各種パラメータを設定します。

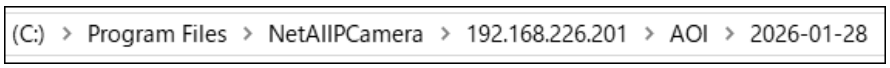


表示	説明
有効	領域退出による検出を有効にする場合は、チェックを入れます。 有効に設定したとき、ライブ画面の右上にアイコン が表示されます。 領域退出を検出すると、アイコン は赤く点滅します。
元の画像を SD カードに保存	領域退出を検出時に全景（第 1 ストリーム）をキャプチャします。 キャプチャ画像はローカル PC※1 または SD カードに保存されます。

ターゲット画像を SD カードに保存		領域退出を検出時に全景写真からターゲット部分を切り抜いた写真をキャプチャします。 ターゲットの写真はローカル PC※1 または SD カードに保存されます。
アラーム持続期間		アラームの持続時間を設定します。 1 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。 持続している間は、ライブ画面上でアイコンが赤く点滅しています。
アラームエリア		アラームエリアを選択します。アラームエリアは最大 4 エリア設定できます。
検出対象		領域退出を検出する対象(ターゲット)を選択し、感度を設定します。 ※検出ターゲット選択 ・人間 ・車両(4 輪車かそれ以上の車輪数の車両) ・オートバイ/自転車（二輪車） ※感度設定について ターゲットの検出の感度です。感度の数値を小さくすると検出対象を検出しにくくなります。感度の数値を大きくすると検出しやすくなります。 ライブ画面上では、以下のように表示されます。 通常時 人間：緑色枠 車両：紫色枠 オートバイ/自転車：水色枠 設定したライン：青色線 検出時 ターゲット：黄色枠 ライン：赤色線
イベントトリガー感度		アラームエリアをどのくらい超えたら検知するのか設定します。
対象サイズ	ターゲット	人間、車両、オートバイ/自転車を選択します。
	最小・最大	検出するターゲットの大きさを設定します。
エリアを描く		検出エリアを画面上に描画します。 マウスで画面上にクリックすると赤い点が表示されます。囲むように４～６ポイントをクリックします。
クリア		検出エリアを削除します。
描画ターゲットのサイズ		検出対象の大きさをマウスで設定します。緑枠または黄色枠をクリックして赤色のポイントをつかむと大きさを変更できます。
保存		設定を保存します。

※1:ローカル PC に保存する場合は、「4.1.3 **ローカル設定**」の「ローカルスマート静止画保存ストレージ」を有効(ON)にしてください。

写真は、《 静止画保存のパス ＞ IP アドレス ＞ AOI ＞ 日付 》に保存されます。



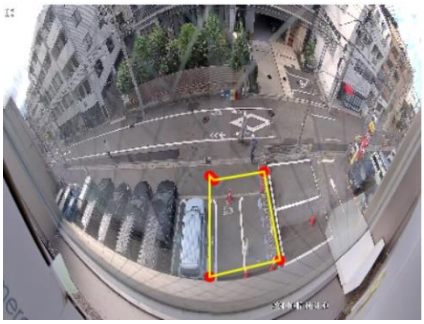
領域を出る　エリア設定

① 検出領域を選択します。最大 4 つ設定できます。

② [エリアを描く]をクリックし、ディスプレイ上でクリックし赤のマーカーを 4～6 ヶ所置き、線で繋ぎ検出エリアを作成します。

③ [クリア]をクリックすると、検出エリアが削除されます

④ [保存]をクリックし、検出エリアを保存します。



■対象サイズの設定■

4.4.2 項 ラインクロスの、対象サイズの設定を参照してください。

■カメラとその周辺の設定条件■

4.4.2 項 ラインクロスの、カメラとその周辺の設定条件を参照してください、

➢ スケジュール選択

「スケジュール選択」はモーション検出、アラーム入力、音声例外とイベント検知機能での共通設定項目です。「4.3.1 **モーション検出**」の スケジュール選択を参照してください。

➢ 連動

領域を出るに連動させるアラームを設定します。



表示	説明
連携するアラーム出力	領域を出るでは、以下の 7 つのアラームを設定できます。 音声アラームを鳴らす、トリガーライトアラーム、写真を SD カードに保存、SD カード録画、メールを送信、FTP ファイル転送、アラーム接点出力 ※各アラームの説明は、「4.3.1 **モーション検出**」の連動を参照してください。
保存	設定を保存します。

4.4.5　ターゲットカウント（ライン通過カウント）

カウントライン設定して、ラインを IN 方向（入る）、OUT 方向（出る）に通過する人、車両、オートバイ・自転車の数を、IN/OUT 別々にカウントします。
「IN（Entry）-OUT（Exit）＝滞在（Stay）」数を自動的に計算し、滞在数の閾値を設定し、閾値を超えると通知します。
また、チャート機能では、日、週、月、年のカウントレポートを表示することができます。

➢　検出設定

[検出設定]タブを開き、各種パラメータを設定します。



表示	説明
有効	ラインの通過によるカウントを有効にする場合は、チェックを入れます。 有効に設定したとき、ライブ画面の右上にアイコン  が表示されます。 ライン通過を検出すると、アイコン  は赤く点滅します。
元の画像を SD カードに保存	ラインの通過を検出時に全景（第 1 ストリーム）をキャプチャします。 キャプチャ画像はローカル PC※1 または SD カードに保存されます。
ターゲット画像を SD カードに保存	ラインの通過を検出時に全景写真からターゲット部分を切り抜いた写真をキャプチャします。 ターゲットの写真はローカル PC※1 または SD カードに保存されます。
検出対象	ラインの通過を検出する対象(ターゲット)を選択し、感度を設定します。 滞在数（IN-OUT）の閾値を設定して、閾値を超えるとアラームを発報します。 ※検出ターゲット選択 ・人間 ・車両(4 輪車かそれ以上の車輪数の車両) ・オートバイ/自転車（二輪車） ※感度設定について ターゲットの検出の感度です。感度の数値を小さくすると検出対象を検出しにくくなります。感度の数値を大きくすると検出しやすくなります。 ライブ画面上では、以下のように表示されます。 通常時 人間：緑色枠 車両：紫色枠 オートバイ/自転車：水色枠 設定したライン：青色線 検出時 ターゲット：黄色枠 ライン：赤色線 ※滞在しきい値について 設定した検出対象（ターゲット）がラインを通過した数が、滞在しきい値を超えるとアラームを発報します。 滞在しきい値が 0 の場合は、しきい値が 1 となるとアラームを発報し、しきい値を越した状態が継続している間はアラームを継続します。しきい値が 0 になるとアラームを停止します。

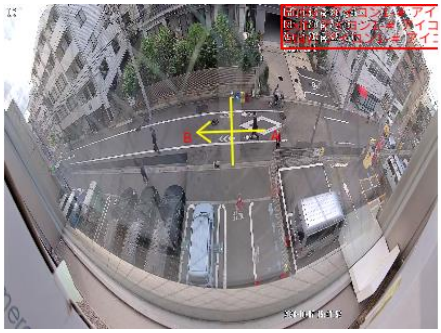
イベントのスナップショットを閉じる		チェックを入れるとローカル PC または SD カードへの保存が全て停止します。「元の画像を SD カードに保存」「ターゲット画像を SD カードに保存」にチェックが入っていても保存しません。
カウントリセット		[設定された時間で実行]で、カウントリセットの間隔を設定します。 毎日：時間を指定します。 毎週：曜日(日～土)と時間を指定します。 毎月：日にち(1～31)と時間を指定します。 オフ：カウントリセットはしません。 マニュアル：[リセット]をクリックして、手動でリセットを行います。
時間閾値		検出対象（ターゲット）の滞在数（Stay）が滞在しきい値を超えたとき、アラーム発報を遅延させる時間を設定します。0 秒に設定したときは、滞在しきい値を超えるとすぐにアラームを発報します。 （設定範囲 0～999 秒）
アラーム持続期間		アラームの持続時間を設定します。 1 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。 持続している間は、ライブ画面上でアイコンが赤く点滅しています。
検出ライン	検出ライン	検出ラインを選択します。検出ラインは最大 1 パターン設定できます。
	検出方向	設定した検出ラインを通過する方向を設定します。 A→B、B→A
対象サイズ	ターゲット	人間、車両、オートバイ/自転車を選択します。
	最小・最大	検出するターゲットの大きさを設定します。
OSD	統計	画面に統計情報を表示する場合はチェックします。
	スタート、他	OSD に表示する文字を変更できます。
エリアを描く		検出ラインを画面上に描画します。
クリア		設定した検出ラインを削除します。
描画ターゲットのサイズ		検出対象の大きさをマウスで設定します。緑枠または黄色枠をクリックして赤色のポイントをつかむと大きさを変更できます。
保存		設定を保存します。

※1:ローカル PC に保存する場合は、「4.1.3 **ローカル設定**」の「ローカルスマート静止画保存ストレージ」を有効(ON)にしてください。

写真は、《 静止画保存のパス > picture > IP アドレス > PLC > 日付 》に保存されます。



ターゲットカウントのライン設定



① 検出ラインは 1 つのみ設定できます。
ラインに対する A エリアと B エリアの検出方向を設定します。
A->B：A から B を Entrance（入る）、B から A を Exit（出る）でカウントします。
A<-B：A から B を Exit（出る）、B から A を Entrance（入る）でカウントします。

② [エリアを描く]をクリックし、ディスプレイ上でドラッグし検出ラインを作成します。

③ [クリア]をクリックすると、検出ラインが削除されます、

④ Entrance（入る）と Exit（出る）のカウントを表示します。右上の赤枠をドラッグすると表示位置を変更できます。

⑤ [保存]をクリックし、検出ラインを保存します。

■対象サイズの設定■

4.4.2 項 ラインクロスの、対象サイズの設定を参照してください。

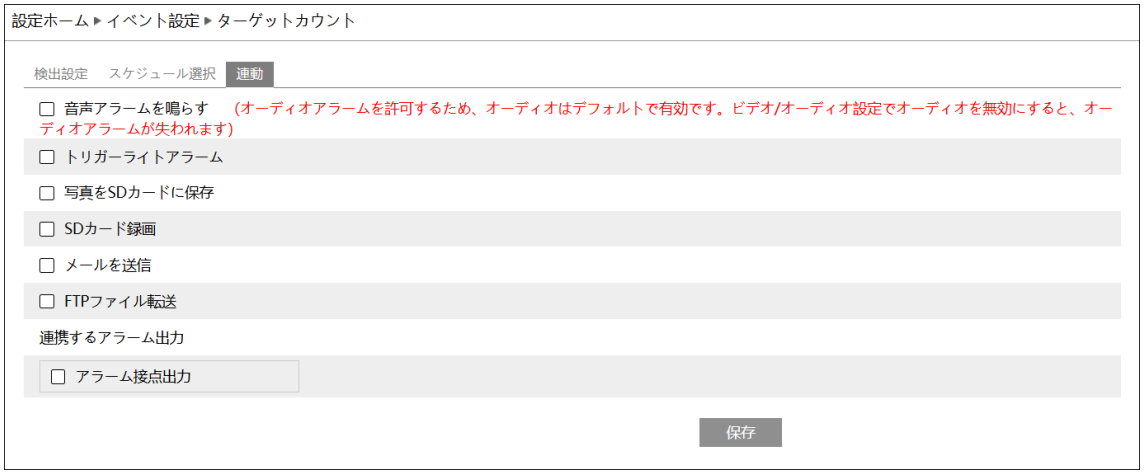
■カメラとその周辺の設定条件■

4.4.2 項 ラインクロスの、カメラとその周辺の設定条件を参照してください、

➢ スケジュール選択
「スケジュール選択」はモーション検出、アラーム入力、音声例外とイベント検知機能での共通設定項目です。「4.3.1 **モーション検出**」の スケジュール選択を参照してください。

➢ 連動

ターゲットカウントに連動させるアラームを設定します。



表示	説明
連携するアラーム出力	ターゲットカウントでは、以下の 7 つのアラームを設定できます。 音声アラームを鳴らす、トリガーライトアラーム、写真を SD カードに保存、SD カード録画、メールを送信、FTP ファイル転送、アラーム接点出力 ※各アラームの説明は、「4.3.1 **モーション検出**」の**連動**を参照してください。
保存	設定を保存します。

4.4.6　地域統計（エリア内滞留カウント）

指定したエリアに出入り及び滞在する人、車両、オートバイ・自転車の数をカウントします。滞在数に対して閾値を設定し、閾値を超えると通知します。

➢　検出設定

[検出設定]タブを開き、各種パラメータを設定します。



表示	説明
有効	地域統計を有効にする場合は、チェックを入れます。 有効に設定したとき、ライブ画面の右上にアイコンが表示されます。 検出対象を検出すると、アイコン  は赤く点滅します。
元の画像を SD カードに保存	検出対象を検出時に全景（第 1 ストリーム）をキャプチャします。 キャプチャ画像はローカル PC※1 または SD カードに保存されます。
ターゲット画像を SD カードに保存	検出対象を検出時に全景写真からターゲット部分を切り抜いた写真をキャプチャします。 ターゲットの写真はローカル PC※1 または SD カードに保存されます。
検出対象	検出エリア内で検出する対象(ターゲット)を選択し、感度を設定します。 検出エリア内の滞在数の閾値を設定します。 ※検出ターゲット選択 ・人間 ・車両(4 輪車かそれ以上の車輪数の車両) ・オートバイ/自転車（二輪車） ※感度設定について ターゲットの検出の感度です。感度の数値を小さくすると検出対象を検出しにくくなります。感度の数値を大きくすると検出しやすくなります。 ライブ画面上では、以下のように表示されます。 通常時 人間：緑色枠 車両：紫色枠 オートバイ/自転車：水色枠 設定したライン：青色線 検出時 ターゲット：黄色枠 ライン：赤色線 ※滞在しきい値について 検出エリアに滞在（Stay）する検出対象（ターゲット）数が、滞在しきい値を超えるとアラームを発報します。 滞在しきい値が 0 の場合は、滞在数（Stay）が 1 となるとアラームを発報し、検出対象（ターゲット）が滞在する状態が続いている間はアラームを継続し、検出対象（ターゲット）がエリアから退出して Stay＝ 0 になるとアラームを停止します。
カウントリセット	[設定された時間で実行]で、カウントリセットの間隔を設定します。 毎日：時間を指定します。 毎週：曜日(日～土)と時間を指定します。

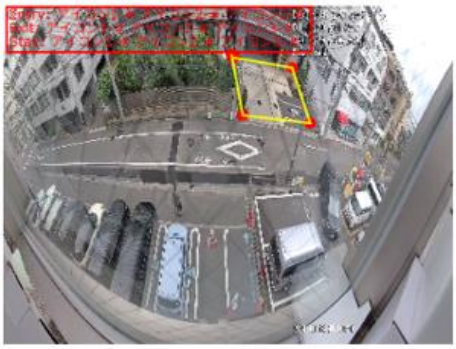
		毎月：日にち(1～31)と時間を指定します。 オフ：カウントリセットはしません。 マニュアル：[リセット]をクリックして、手動でリセットを行います。
時間閾値		検出対象（ターゲット）の滞在数（Stay）が滞在しきい値を超えたとき、アラーム発報を遅延させる時間を設定します。0 秒に設定したときは、滞在しきい値を超えるとすぐにアラームを発報します。（設定範囲 0～999 秒）
アラーム持続期間		アラームの持続時間を設定します。 1 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。 持続している間は、ライブ画面上でアイコンが赤く点滅しています。
アラームエリア		検出領域を選択します。検出領域は最大 1 パターン設定できます。
対象サイズ	ターゲット	人間、車両、オートバイ/自転車を選択します。
	最小・最大	検出するターゲットの大きさを設定します。
OSD	統計	画面に統計情報を表示する場合はチェックします。
	スタート、他	OSD に表示する文字を変更できます。
エリアを描く		検出エリアを画面上に描画します。
クリア		設定した検出エリアを削除します。
描画ターゲットのサイズ		検出対象の大きさをマウスで設定します。緑枠または黄色枠をクリックして赤色のポイントをつかむと大きさを変更できます。
保存		設定を保存します。

※1:ローカル PC に保存する場合は、「4.1.3 **ローカル設定**」の「ローカルスマート静止画保存ストレージ」を有効(ON)にしてください。

写真は、《 静止画保存のパス > picture > IP アドレス > TRAFFIC > 日付 》に保存されます。



検出領域のエリア設定



① 検出領域を選択します。1 エリアのみ設定できます。

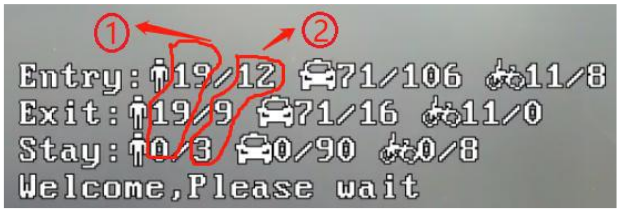
② [エリアを描く]をクリックし、ディスプレイ上でクリックし赤のマーカーを 4～6 ヶ所置き、線で繋ぎ地域統計検出エリアを作成します。

③ [クリア]をクリックすると、検出エリアが削除されます。

④ 赤枠の統計情報の表示領域をクリックしてドラックすると、表示場所を変更できます。

⑤ [保存]をクリックし、検出エリアを保存します。

注：ターゲットカウントと地域統計を同時に有効にすると、カウント数の OSD 位置は、地域統計の設定に依存します。また、下図の通り①地域統計/②ターゲットカウント、の形式で表示します。



■対象サイズの設定■

4.4.2 項 ラインクロスの、対象サイズの設定を参照してください。

■カメラとその周辺の設定条件■

4.4.2 項 ラインクロスの、カメラとその周辺の設定条件を参照してください、

➢ スケジュール選択

「スケジュール選択」はモーション検出、アラーム入力、音声例外とイベント検知機能での共通設定項目です。「4.3.1 **モーション検出**」の スケジュール選択を参照してください。

➢ 連動

地域統計に連動させるアラームを設定します。



表示	説明
連携するアラーム出力	地域統計では、以下の 7 つのアラームを設定できます。 音声アラームを鳴らす、トリガーライトアラーム、写真を SD カードに保存、SD カード録画、メールを送信、FTP ファイル転送、アラーム接点出力 ※各アラームの説明は、「4.3.1 **モーション検出**」の**連動**を参照してください。
保存	設定を保存します。

4.4.7　エリア侵入検知（エリア内活動検知）

指定したエリア内で活動する人や車両を検知します。エリア内で静止している場合検知しません。

※設定したエリアの枠の中で検出対象が活動しているあいだ検出します。設定したエリアから出てしまった後は検出しません。

➢　検出設定

[検出設定]タブを開き、各種パラメータを設定します。



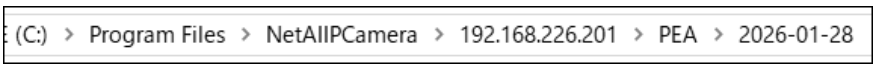
表示	説明
有効	エリア侵入による検出を有効にする場合は、チェックを入れます。 有効に設定したとき、ライブ画面の右上にアイコン が表示されます。 エリア侵入を検出すると、アイコン は赤く点滅します。

元の画像を SD カードに保存		エリア侵入による検出時に全景（第 1 ストリーム）をキャプチャします。 キャプチャ画像はローカル PC※1 または SD カードに保存されます。
ターゲット画像を SD カードに保存		エリア侵入による検出時に全景写真からターゲット部分を切り抜いた写真をキャプチャします。 ターゲットの写真はローカル PC※1 または SD カードに保存されます。
トリガーモード		検出対象が「動く物体」または「全オブジェクト」を選択します。 動く物体　　：指定したエリア内を動くターゲットを検出。 全オブジェクト：指定したエリア内をターゲットが動いてなくても検出。
時間閾値		検出対象（ターゲット）が検出エリア内で活動したとき、アラーム発報を遅延させる時間を設定します。0 秒に設定したときは、すぐアラームを発報します。 （設定範囲 0～3600 秒）
アラーム持続期間		アラームの持続時間を設定します。 1 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。 持続している間は、ライブ画面上でアイコンが赤く点滅しています。
アラームエリア		検出領域を選択します。検出領域は最大 4 パターン設定できます。
検出対象		エリア侵入を検出する対象(ターゲット)を選択し、感度を設定します。 ※検出ターゲット選択 ・人間 ・車両(4 輪車かそれ以上の車輪数の車両) ・オートバイ/自転車（二輪車） ※感度設定について ターゲットの検出の感度です。感度の数値を小さくすると検出対象を検出しにくくなります。感度の数値を大きくすると検出しやすくなります。 ライブ画面上では、以下のように表示されます。 通常時 人間：緑色枠 車両：紫色枠 オートバイ/自転車：水色枠 設定したライン：青色線 検出時 ターゲット：黄色枠 ライン：赤色線
イベントトリガー感度		アラームエリアをどのくらい超えたら検知するのか設定します。
対象サイズ	ターゲット	人間、車両、オートバイ/自転車を選択します。
	最小・最大	検出するターゲットの大きさを設定します。
エリアを描く		検出エリアを画面上に描画します。

	マウスで画面上にクリックすると赤い点が表示されます。囲むように 4～6 ポイントをクリックします。
クリア	検出エリアを削除します。
描画ターゲットのサイズ	検出対象の大きさをマウスで設定します。緑枠または黄色枠をクリックして赤色のポイントをつかむと大きさを変更できます。
保存	設定を保存します。

※1:ローカル PC に保存する場合は、「4.1.3 **ローカル設定**」の「ローカルスマート静止画保存ストレージ」を有効(ON)にしてください。

写真は、《 静止画保存のパス > picture > IP アドレス > PEA > 日付 》に保存されます。



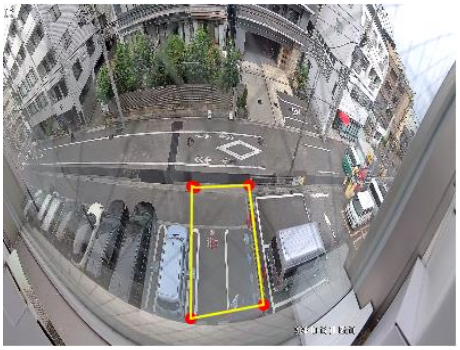
エリア侵入検出　エリア設定

① 検出領域を選択します。最大 4 つ設定できます。

② [エリアを描く]をクリックし、ディスプレイ上でクリックし赤のマーカーを 4～6 ヶ所置き、線で繋ぎ検出エリアを作成します。

③ [クリア]をクリックすると、検出エリアが削除されます

④ [保存]をクリックし、検出エリアを保存します。



■対象サイズの設定■

4.4.2 項 ラインクロスの、対象サイズの設定を参照してください。

■カメラとその周辺の設定条件■

4.4.2 項 ラインクロスの、カメラとその周辺の設定条件を参照してください、

➢ スケジュール選択

「スケジュール選択」はモーション検出、アラーム入力、音声例外とイベント検知機能での共通設定項目です。「4.3.1 **モーション検出**」の スケジュール選択を参照してください。

➢ 連動

エリア侵入検知に連動させるアラームを設定します。



表示	説明
連携するアラーム出力	エリア侵入検知では、以下の 7 つのアラームを設定できます。 音声アラームを鳴らす、トリガーライトアラーム、写真を SD カードに保存、SD カード録画、メールを送信、FTP ファイル転送、アラーム接点出力 ※各アラームの説明は、「4.3.1 **モーション検出**」の**連動**を参照してください。
保存	設定を保存します。

4.4.8 ヒートマップ

あらかじめ設定したエリア内の人や車両の動線分布を色分けして表示します。

人の集まるエリアや動線などを色分け表示して、可視化する機能です。

➢ 検出設定

[検出設定]タブを開き、各種パラメータを設定します。



表示	説明
有効	ヒートマップを有効にする場合は、チェックを入れます。 有効に設定したとき、ライブ画面の右上にアイコンが表示されます。
アラームエリア	検出領域を選択します。検出領域は最大 4 パターン設定できます。
検出対象	ヒートマップを検出する対象(ターゲット)を選択し、感度を設定します。 ※検出ターゲット選択 ・人間 ・車両(4 輪車かそれ以上の車輪数の車両) ・オートバイ/自転車（二輪車） ※感度設定について ターゲットの検出の感度です。感度の数値を小さくすると検出対象を検出しにくくなります。感度の数値を大きくすると検出しやすくなります。 ライブ画面上では、以下のように表示されます。

		通常時 人間：緑色枠 車両：紫色枠 オートバイ/自転車：水色枠 設定したライン：青色線 検出時 ターゲット：黄色枠 ライン：赤色線
対象サイズ	ターゲット	人間、車両、オートバイ/自転車を選択します。
	最小・最大	検出するターゲットの大きさを設定します。
エリアを描く		検出エリアを画面上に描画します。 マウスで画面上にクリックすると赤い点が表示されます。囲むように 4～6 ポイントをクリックします。
クリア		検出エリアを削除します。
描画ターゲットのサイズ		検出対象の大きさをマウスで設定します。緑枠または黄色枠をクリックして赤色のポイントをつかむと大きさを変更できます。
保存		設定を保存します。

ヒートマップ　エリア設定

① 検出領域を選択します。最大 4 つ設定できます。

② [エリアを描く]をクリックし、ディスプレイ上でクリックし赤のマーカーを 4～6 ヶ所置き、線で繋ぎ検出エリアを作成します。

③ [クリア]をクリックすると、検出エリアが削除されます

④ [保存]をクリックし、検出エリアを保存します。



■対象サイズの設定■

4.4.2 項 ラインクロスの、対象サイズの設定を参照してください。

■カメラとその周辺の設定条件■

4.4.2 項 ラインクロスの、カメラとその周辺の設定条件を参照してください、

➢ スケジュール選択

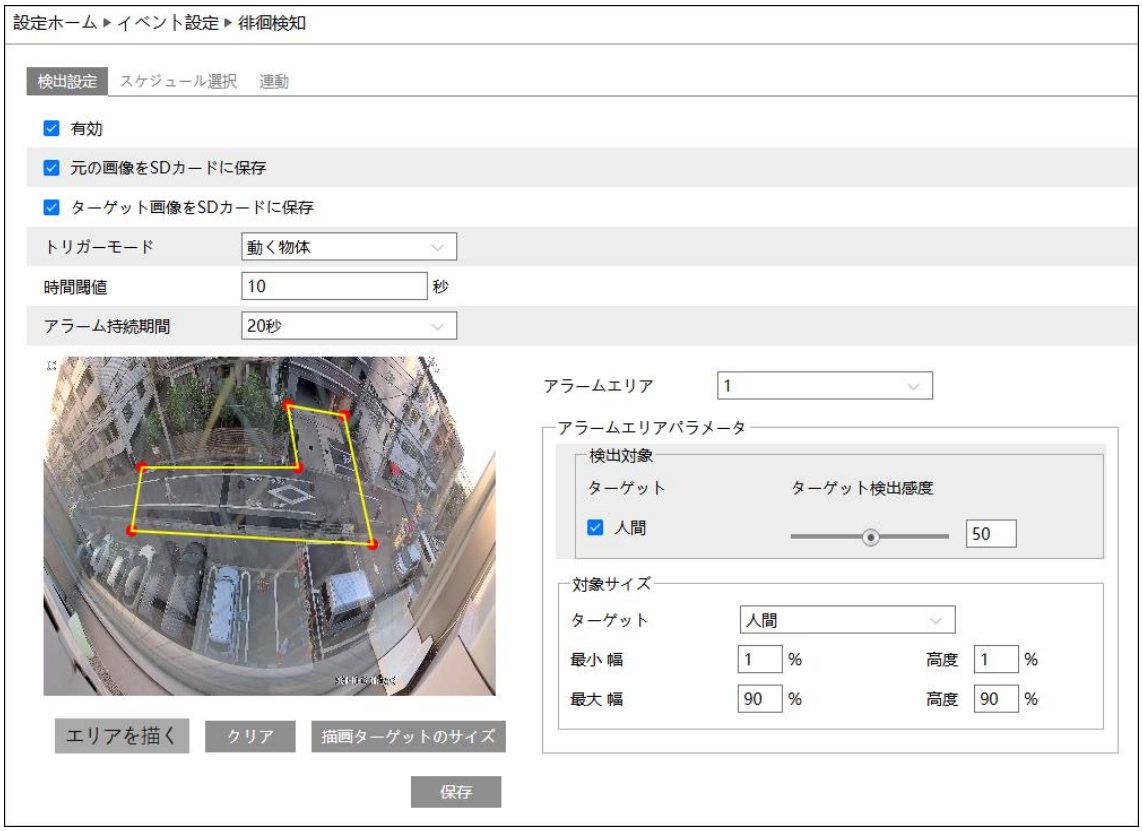
「スケジュール選択」はモーション検出、アラーム入力、音声例外とイベント検知機能での共通設定項目です。「4.3.1 **モーション検出**」の スケジュール選択を参照してください。

4.4.9　徘徊検知

指定したエリア内を、閾値に設定した時間を超えて徘徊する人間を検出すると通知します。

➢　検出設定

[検出設定]タブを開き、各種パラメータを設定します。



表示	説明
有効	徘徊検知による検出を有効にする場合は、チェックを入れます。 有効に設定したとき、ライブ画面の右上にアイコンが表示されます。 徘徊検知を検出すると、アイコンは赤く点滅します。
元の画像を SD カードに保存	徘徊検知による検出時に全景（第 1 ストリーム）をキャプチャします。 キャプチャ画像はローカル PC※1 または SD カードに保存されます。
ターゲット画像を SD カードに保存	徘徊検知による検出時に全景写真からターゲット部分を切り抜いた写真をキャプチャします。 ターゲットの写真はローカル PC※1 または SD カードに保存されます。
トリガーモード	検出対象が「動く物体」または「全オブジェクト」を選択します。 動く物体　　：指定したエリア内を動くターゲットを検出。

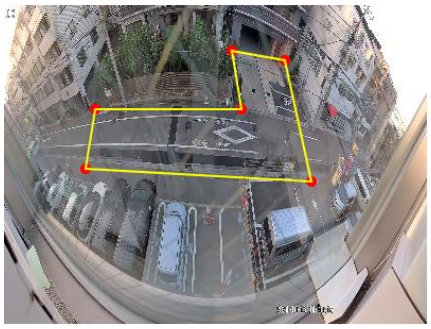
		全オブジェクト：指定したエリア内をターゲットが動いてなくても検出。
時間閾値		徘徊を検知する時間の閾値を設定します。 ※例えば 閾値を「60 秒」に設定し、指定されたエリアを徘徊する人が 60 秒を超えるとアラームが作動します。2 分後、この人物は指定されたエリアでの徘徊をやめ動きが止まるとアラームは停止します。この人物が再び指定エリア内の徘徊を開始すると、この人物がエリアを離れるまでアラームを発報します。 （設定範囲 10～3600 秒）
アラーム持続期間		アラームの持続時間を設定します。 1 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。 持続している間は、ライブ画面上でアイコンが赤く点滅しています。
アラームエリア		検出領域を選択します。検出領域は最大 4 パターン設定できます。
検出対象		徘徊検知を検出する対象(ターゲット)を選択し、感度を設定します。 ※検出ターゲット選択 ・人間のみ ※感度設定について ターゲットの検出の感度です。感度の数値を小さくすると検出対象を検出しにくくなります。感度の数値を大きくすると検出しやすくなります。 ライブ画面上では、以下のように表示されます。 通常時 人間：緑色枠 車両：紫色枠 オートバイ/自転車：水色枠 設定したライン：青色線 検出時 ターゲット：黄色枠 ライン：赤色線
対象サイズ	ターゲット	人間のみ
	最小・最大	検出するターゲットの大きさを設定します。
エリアを描く		検出エリアを画面上に描画します。 マウスで画面上にクリックすると赤い点が表示されます。囲むように４～６ポイントをクリックします。
クリア		検出エリアを削除します。
描画ターゲットのサイズ		検出対象の大きさをマウスで設定します。緑枠または黄色枠をクリックして赤色のポイントをつかむと大きさを変更できます。
保存		設定を保存します。

※1:ローカル PC に保存する場合は、「4.1.3 **ローカル設定**」の「ローカルスマート静止画保存ストレージ」を有効(ON)にしてください。

写真は、《 静止画保存のパス ＞ picture ＞ IP アドレス ＞ LOITER ＞ 日付 》に保存されます。



徘徊検知　エリア設定



① 検出領域を選択します。最大 4 つ設定できます。

② [エリアを描く]をクリックし、ディスプレイ上でクリックし赤のマーカーを 4～6 ヶ所置き、線で繋ぎ検出エリアを作成します。

③ [クリア]をクリックすると、検出エリアが削除されます

④ [保存]をクリックし、検出エリアを保存します。

■対象サイズの設定■

4.4.2 項 ラインクロスの、対象サイズの設定を参照してください。

■カメラとその周辺の設定条件■

4.4.2 項 ラインクロスの、カメラとその周辺の設定条件を参照してください、

➢ スケジュール選択

「スケジュール選択」はモーション検出、アラーム入力、音声例外とイベント検知機能での共通設定項目です。「4.3.1 **モーション検出**」の スケジュール選択を参照してください。

➢ 連動

徘徊検知に連動させるアラームを設定します。



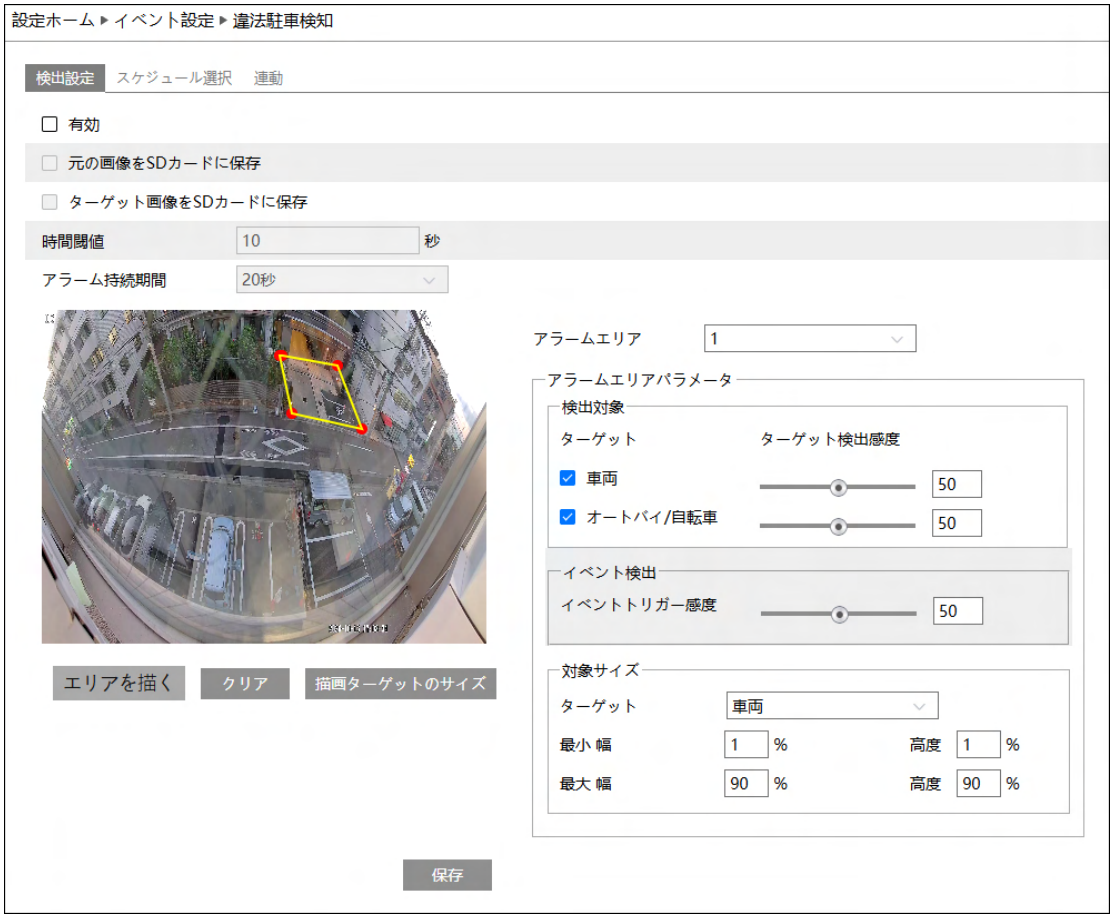
表示	説明
連携するアラーム出力	徘徊検知では、以下の 7 つのアラームを設定できます。 音声アラームを鳴らす、トリガーライトアラーム、写真を SD カードに保存、SD カード録画、メールを送信、FTP ファイル転送、アラーム接点出力 ※各アラームの説明は、「4.3.1 **モーション検出**」の**連動**を参照してください。
保存	設定を保存します。

4.4.10 違法駐車検知

指定したエリア内に、車両やオートバイ/自転車が、閾値として設定した時間を超えて駐車したことを検知すると通知します。

➢ 検出設定

[検出設定]タブを開き、各種パラメータを設定します。



表示	説明
有効	違法駐車検知による検出を有効にする場合は、チェックを入れます。 有効に設定したとき、ライブ画面の右上にアイコンが表示されます。 違法駐車を検出すると、アイコンは赤く点滅します。
元の画像を SD カードに保存	違法駐車検知による検出時に全景（第 1 ストリーム）をキャプチャします。 キャプチャ画像はローカル PC※1 または SD カードに保存されます。
ターゲット画像を SD カードに保存	違法駐車検知による検出時に全景写真からターゲット部分を切り抜いた写真をキャプチャします。 ターゲットの写真はローカル PC※1 または SD カードに保存されます。

時間閾値		違法駐車を検知する時間の閾値を設定します。閾値は指定したエリアに駐車を許可する時間です。 駐車時間が閾値を超えるとアラームを発報し、車両が居なくなるまでアラームが継続します。 （設定範囲 10～3600 秒）
アラーム持続期間		アラームの持続時間を設定します。 1 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。 持続している間は、ライブ画面上でアイコンが赤く点滅しています。
アラームエリア		検出領域を選択します。検出領域は最大 4 パターン設定できます。
検出対象		違法駐車検知を検出する、感度を設定します。 ※検出ターゲット選択 ・車両(4 輪車かそれ以上の車輪数の車両) ・オートバイ/自転車（二輪車） ※感度設定について ターゲットの検出の感度です。感度の数値を小さくすると検出対象を検出しにくくなります。感度の数値を大きくすると検出しやすくなります。 ライブ画面上では、以下のように表示されます。 通常時 車両：紫色枠 オートバイ/自転車：水色枠 設定したライン：青色線 検出時 ターゲット：黄色枠 ライン：赤色線
イベントトリガー感度		アラームエリアをどのくらい超えたら検知するのか設定します。
対象サイズ	ターゲット	車両、オートバイ/自転車を選択します。
	最小・最大	検出するターゲットの大きさを設定します。
エリアを描く		検出エリアを画面上に描画します。 マウスで画面上にクリックすると赤い点が表示されます。囲むように４～６ポイントをクリックします。
クリア		検出エリアを削除します。
描画ターゲットのサイズ		検出対象の大きさをマウスで設定します。緑枠または黄色枠をクリックして赤色のポイントをつかむと大きさを変更できます。
保存		設定を保存します。

※1:ローカル PC に保存する場合は、「4.1.3 **ローカル設定**」の「ローカルスマート静止画保存ストレージ」を有効(ON)にしてください。

写真は、《 静止画保存のパス ＞ picture ＞ IP アドレス ＞ PVD ＞ 日付 》に保存されます。



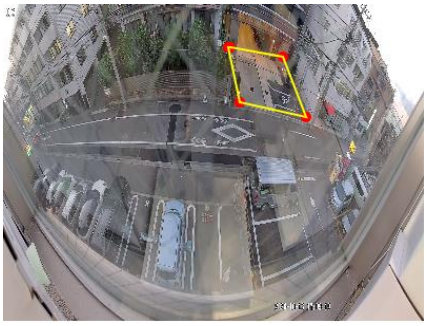
パーキング検出　エリア設定

① 検出領域を選択します。最大 4 つ設定できます。

② [エリアを描く]をクリックし、ディスプレイ上でクリックし赤のマーカーを 4～6 ヶ所置き、線で繋ぎ検出エリアを作成します。

③ [クリア]をクリックすると、検出エリアが削除されます

④ [保存]をクリックし、検出エリアを保存します。



■対象サイズの設定■

4.4.2 項 ラインクロスの、対象サイズの設定を参照してください。

■カメラとその周辺の設定条件■

4.4.2 項 ラインクロスの、カメラとその周辺の設定条件を参照してください、

➢ スケジュール選択

「スケジュール選択」はモーション検出、アラーム入力、音声例外とイベント検知機能での共通設定項目です。「4.3.1 **モーション検出**」の スケジュール選択を参照してください。

➢ 連動

違法駐車検知に連動させるアラームを設定します。



表示	説明
連携するアラーム出力	違法駐車検知では、以下の 7 つのアラームを設定できます。 音声アラームを鳴らす、トリガーライトアラーム、写真を SD カードに保存、SD カード録画、メールを送信、FTP ファイル転送、アラーム接点出力 ※各アラームの説明は、「4.3.1 **モーション検出**」の**連動**を参照してください。
保存	設定を保存します。

4.4.11 ビデオメタデータ

指定したエリア内の人、車両、オートバイ/自転車などを検出して、それぞれの検出数と属性をライブ画面に表示します。

➢ 検出設定

[検出設定]タブを開き、各種パラメータを設定します。



表示		説明
有効		ビデオメタデータを有効にする場合は、チェックを入れます。 有効に設定したとき、ライブ画面の右上にアイコンが表示されます。 人間、車、オートバイ/自転車などを検出してもアイコンは赤く点滅しません。
元の画像を SD カードに保存		検出対象を検出時に全景（第 1 ストリーム）をキャプチャします。 キャプチャ画像はローカル PC※1 または SD カードに保存されます。
ターゲット画像を SD カードに保存		検出対象を検出時に全景写真からターゲット部分を切り抜いた写真をキャプチャします。 ターゲットの写真はローカル PC※1 または SD カードに保存されます。
検出領域	検出エリア	対象物を検出するエリアの設定。検出領域は最大 4 パターン設定できます。

	ブロックエリア	対象物を検出しないエリアの設定。検出領域は最大 4 パターン設定できます。
検出対象		検出エリア内で検出する対象(ターゲット)を選択し、感度を設定します。 ※検出ターゲット選択 ・人間 ・車両(4 輪車かそれ以上の車輪数の車両) ・オートバイ/自転車（二輪車） ※感度設定について ターゲットの検出の感度です。感度の数値を小さくすると検出対象を検出しにくくなります。感度の数値を大きくすると検出しやすくなります。 ライブ画面上では、以下のように表示されます。 通常時 人間：緑色枠 車両：紫色枠 オートバイ/自転車：水色枠 設定したライン：青色線 検出時 ターゲット：黄色枠 ライン：赤色線
対象サイズ	ターゲット	人間、車両、オートバイ/自転車を選択します。
	最小・最大	検出するターゲットの大きさを設定します。
検出エリアを描く		検出エリアを画面上に描画します。 マウスで画面上にクリックすると赤い点が表示されます。囲むように 4～6 ポイントをクリックします。
クリア		検出エリアを削除します。
描画ターゲットのサイズ		検出対象の大きさをマウスで設定します。緑枠または黄色枠をクリックして赤色のポイントをつかむと大きさを変更できます。
保存		設定を保存します。

※1:ローカル PC に保存する場合は、「4.1.3 **ローカル設定**」の「ローカルスマート静止画保存ストレージ」を有効(ON)にしてください。

写真は、《 静止画保存のパス > picture > IP アドレス > VSD > 日付 》に保存されます。



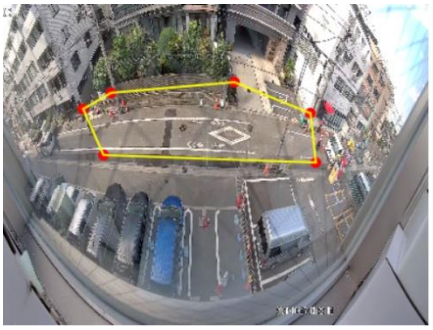
ビデオメタデータ　エリア設定

① 検出エリアを選択します。最大 4 つ設定できます。

② [エリアを描く]をクリックし、ディスプレイ上でクリックし赤のマーカーを 4～6 ヶ所置き、線で繋ぎ検出エリアを作成します。

③ [クリア]をクリックすると、検出エリアが削除されます

④ [保存]をクリックし、検出エリアを保存します。



➢ 画像 OSD

[画像 OSD]タブを開き、ライブ画面でメタデータを表示させたとき写真に表示するオーバーレイを設定します。



表示	説明
写真オーバーレイ	人間、車両、オートバイ/自転車を選択して写真にオーバーレイ表示させたい項目にチェックを入れます。

	人間　：性別、年齢、検出方向、ヘッドギア、メガネ、バックパック、長袖/半袖、アッパーカラー、ロング/ショートパンツ、下の色、スカート、マスク、ショルダーバッグ 車両　：カラー、タイプ、ブランド、モデル オートバイ/自転車：タイプ
保存	設定を保存します。

検出対象を検出するとライブ画像の左側に車両、右側に人を表示します。表示した画像をクリックすると詳細情報を表示します。





クリックすると、詳細情報を表示します。上段の画像の右側のスクロールバーを下に移動するとメタデータを表示します。

■対象サイズの設定■

4.4.2 項　ラインクロスの、対象サイズの設定を参照してください。

■カメラとその周辺の設定条件■

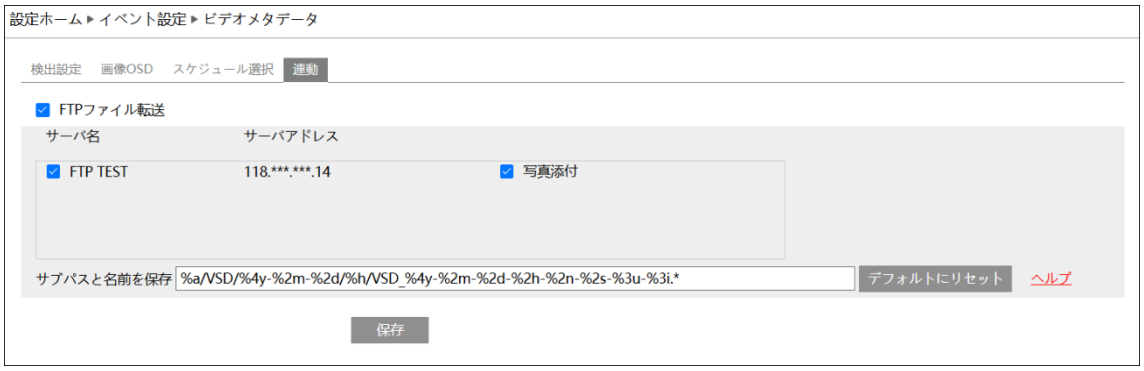
4.4.2 項　ラインクロスの、カメラとその周辺の設定条件を参照してください、

- スケジュール選択

  「スケジュール選択」はモーション検出、アラーム入力、音声例外とイベント検知機能での共通設定項目です。「4.3.1 **モーション検出**」の スケジュール選択を参照してください。

➢ 連動

ビデオメタデータに連動させるアラームを設定します。



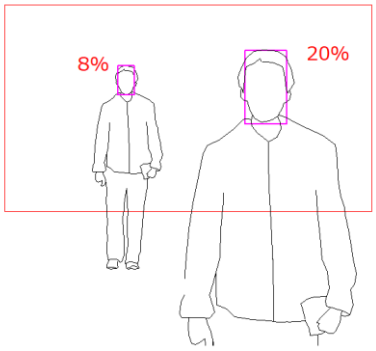
表示	説明
連携するアラーム出力	ビデオメタデータでは、以下のアラームを設定できます。 FTP ファイル転送 ※各アラームの説明は、「4.3.1 **モーション検出**」の**連動**を参照してください。
保存	設定を保存します。

4.4.12 顔検出

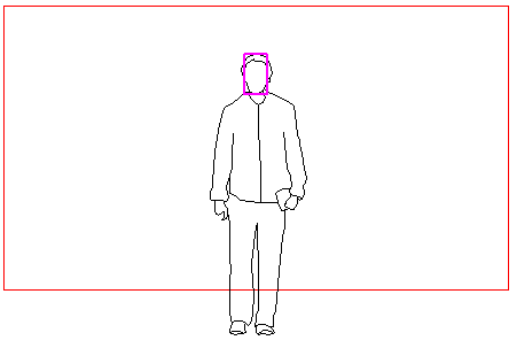
映像の中の顔を検出して、アラーム機能と連携します。
また、顔比較のデータベース機能を持つ NVR と連携すると、顔認証機能が利用できます。

顔検出の設置要件

- ◆ カメラは、安定した十分な照度のある場所に設置すること。
- ◆ 混雑したシーン(空港、駅、広場など)、逆光のシーン、交差点などでは顔の検出精度が下がります。
- ◆ 建物入口や通路などで、人がカメラの方向に真っすぐ歩いてくる状況下で顔を正面から撮影できるように設置します。顔検出をサポートする角度は顔に対して上下左右 20°以内です。
- ◆ 顔をできるだけ大きく撮影できるようにカメラの焦点距離を調整します。焦点距離が固定のカメラは設置位置を調整します。推奨する顔の撮影サイズは画面の 8%以上です。

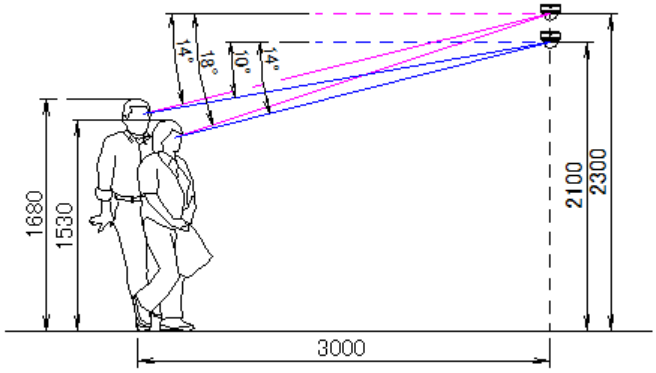


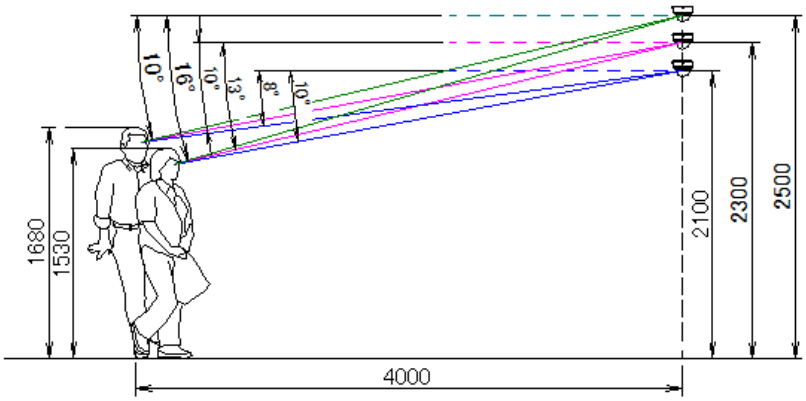
画面に占める顔のサイズは8%～20%を推奨します。



8%の撮影サイズを実現するためには
カメラ→人間の距離＝4mではレンズ焦点距離9mm以上が必要です。
距離が5m以上になると、焦点距離20mm前後のレンズが必要です。

- ◆ 設置高さは 2.0m～3.5m範囲で、顔に対して 15 度以下の角度で撮影すること。
  3.5mに設置した場合、角度 15 度にするためにはカメラと顔の距離が遠くなります。その結果、顔の撮影サイズが小さくなります。設置する高さに応じてレンズの焦点距離を調整します。





俯角：顔検出のための推奨する角度は 15°以下を推奨

➢ 検出設定

[検出設定]タブを開き、指定したエリアで顔を検出したときの設定をします。



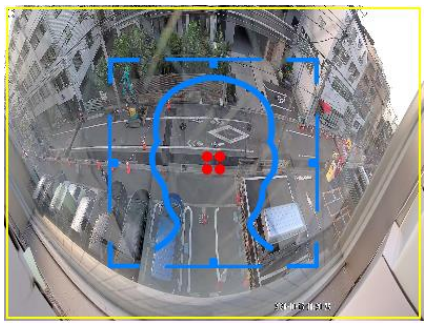
表示	説明
状態	状態を表示します。
有効	顔検出を有効にする場合は、チェックを入れます。 有効に設定したとき、ライブ画面の右上にアイコン が表示されます。 顔検出後に、アイコンは赤く 点滅します。また、右下の で、検出された顔を確認することができます。
ソース情報を SD カードに保存	顔検出時に全景（第 1 ストリーム）をキャプチャします。 キャプチャ画像はローカル PC※1 または SD カードに保存されます。
顔情報を SD カードに保存	顔検出時に全景写真からターゲット部分を切り抜いた写真をキャプチャします。 ターゲットの写真はローカル PC※1 または SD カードに保存されます。
アラームトリガー状態	全てのアラーム：マスクの有無にかかわらず、顔を検出したらアラーム発報。 マスクなし　　：マスク着用はアラーム発報しない。 　　マスク未着用はアラーム発報する。
アラーム持続期間	アラームの持続時間を設定します。 1 秒、3 秒、5 秒、10 秒、20 秒、30 秒、60 秒、2 分から選択します。 持続している間は、ライブ画面上でアイコンが赤く点滅しています。
エリアを描く/作図終了	顔検出エリアを画面上に描画します。 マウスで画面上をドラッグして描画します。最初は黄色枠が全体に設定されています。クリアを押して黄色枠を削除してから作成します。 （黄色枠の中で顔検出します。検出領域は 1 か所設定できます。）
クリア	検出エリアを削除します。
最小	検出する顔の最小サイズを設定します。
最大	検出する顔の最大サイズを設定します。
保存	設定を保存します。

※1:ローカル PC に保存する場合は、「4.1.3 **ローカル設定**」の「ローカルスマート静止画保存ストレージ」を有効(ON)にしてください。

写真は、《 静止画保存のパス ＞ picture ＞ IP アドレス ＞ VFD ＞ 日付 》に保存されます。



顔検出エリアと検出する顔の大きさを設定する方法



① [エリアを描く]をクリックし、ディスプレイ上に黄色の枠で顔検出エリアを作成します。検出エリアは 1 か所設定できます。

② [作図終了]をクリックすると、顔検出エリアの描画を停止します。

③ [クリア]をクリックすると、検出エリアが削除されます。

④ 次に顔の大きさの最小値と最大値を設定します。

(設定範囲：3~50%)
選択されている方は赤い点で表されます。[エリアを描く]をクリックしたときは、赤い点をドラッグすることで大きさが調節できます。

⑤ [保存]をクリックし、検出エリアと顔の大きさを保存します。

➢ 高度な設定

顔検出に関する設定をします。



表示	説明
重複期間 （撮影時間間隔）	写真を撮影する間隔を設定します。 30 秒が選択されている場合、同じターゲットが映像内に存在していると 30 秒に 1 度キャプチャします。
写真撮影数	チェックを入れることで、スナップショットの枚数を指定できます。 写真撮影数の☑が無効になっている場合、同じターゲットを重複期間に設定した時間間隔で、検出されたエリアから消えるまで捕捉し撮影します。☑を有効にすると、同じターゲットを重複期間に設定した時間間隔で、指定した枚数を撮影します。
保存	設定を保存します。

➢ スケジュール選択

「スケジュール選択」はモーション検出、アラーム入力、音声例外とイベント検知機能での共通設定項目です。「4.3.1 **モーション検出**」の スケジュール選択を参照してください。

➢ 連動

顔検出に連動させるアラームを設定します。



表示	説明
連携するアラーム出力	顔検出では、以下の 7 つのアラームを設定できます。 音声アラームを鳴らす、トリガーライトアラーム、写真を SD カードに保存、SD カード録画、メールを送信、FTP ファイル転送、アラーム接点出力 ※各アラームの説明は、「4.3.1 **モーション検出**」の**連動**を参照してください。
保存	設定を保存します。

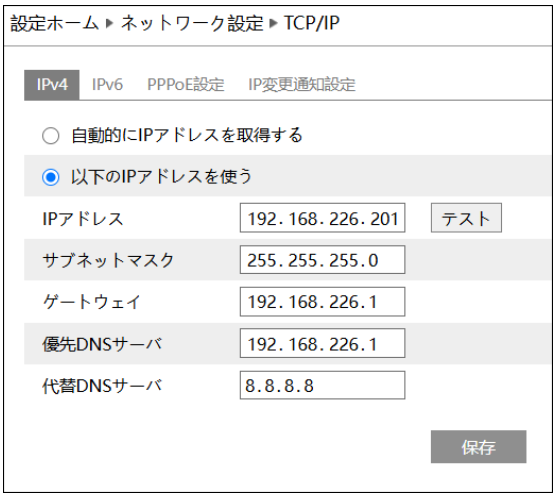
4.5　ネットワーク

TCP/IP、ポート、サーバ、ONVIF、DDNS、SNMP、802.1X、RTSP、RTMP、UPnP、Email、FTP、HTTP POST、HTTPS、NAT、QoS などのサブメニューがあります。



4.5.1 TCP/IP

ネットワークの設定を行います。（IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、PPPoE など）



➢ IPv4 アドレス

IPv4 の設定方法

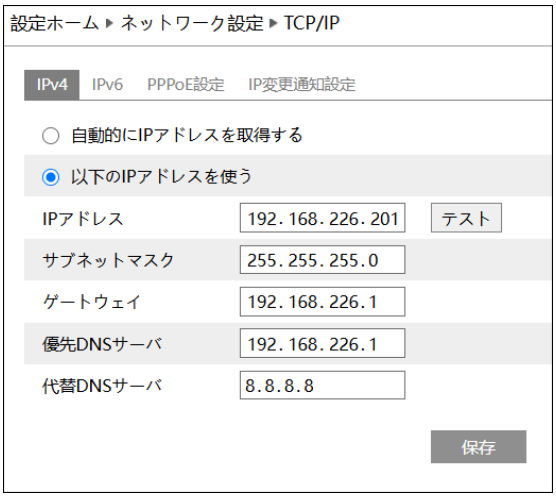
◆ **自動的に IP アドレスを取得する**

DHCP より自動的に IP アドレスを取得します。

◆ **以下の IP アドレスを使う**

IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNS サーバを手動で設定・変更する必要があります。

[テスト]をクリックすると、IP アドレスが使えるのか(競合していないか)確認することができます。



[保存]をクリックして、設定を保存します。

➢ IPv6 アドレス

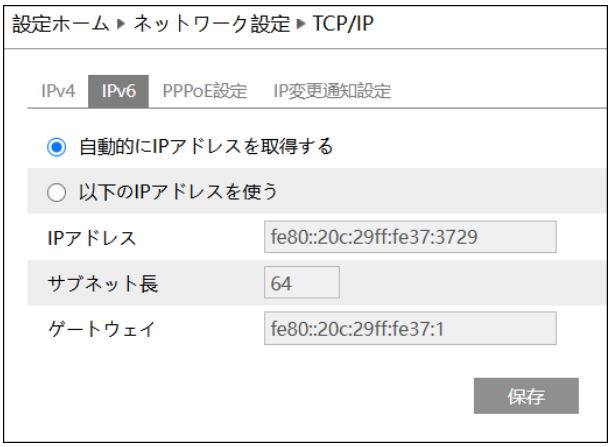
IPv6 の設定方法

◆ **自動的に IP アドレスを取得する**

DHCP より自動的に IP アドレスを取得します。

◆ **以下の IP アドレスを使う**

IP アドレス、サブネットプレフィックス長さ、ゲートウェイを手動で設定・変更する必要があります。

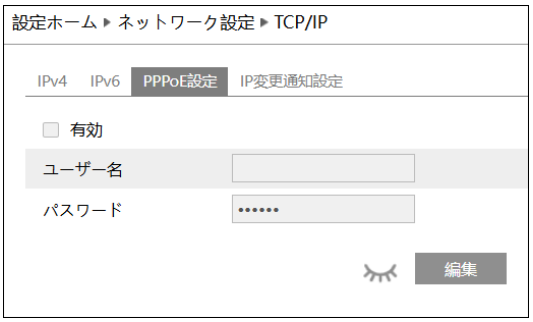


➢ PPPoE 設定

[編集]をクリックして有効にチェックを入れ、PPPoE を有効にします。

ISP(プロバイダ)から提供された、ユーザ名とパスワードを入力し、保存をクリックします。

WAN IP を取得すると、インターネットに接続できます。



[保存]をクリックして、設定を保存します。

既に PPPoE が登録されている場合 アイコンをクリックすると、非表示になっているユーザ名を表示して確認することができます。

➢ IP 変更通知設定

デバイスの IP アドレスを変更すると、新しい IP アドレスが自動的にメールまたは FTP に送信されます。



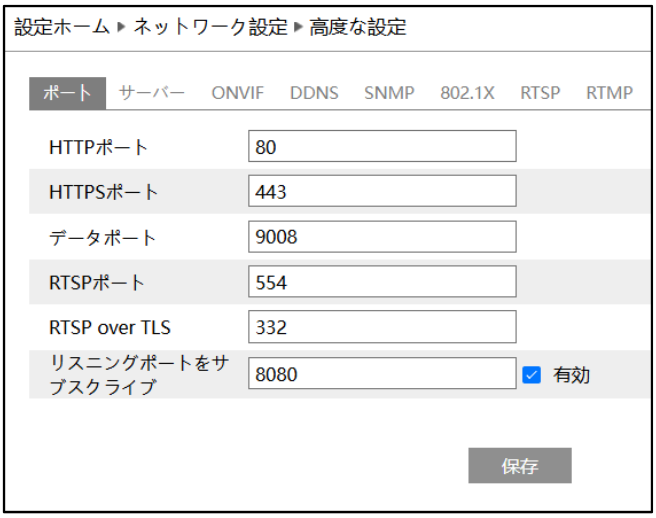
[メールを送信]にチェックを入れると、e メールによる通知が有効になります。
通知メールの送信先をリストから選択します。
※e メール通知の送受信に関する設定は、「4.5.11 **Email**」で事前に行う必要があります。

[FTP ファイル転送]にチェックを入れると、FTP サーバへのファイル転送が有効になります。
FTP サーバをリストから選択します。
※FTP サーバに関する設定は、「4.5.12 **FTP**」で事前に行う必要があります。

[保存]をクリックして、設定を保存します。

4.5.2 ポート

HTTP、HTTPS、データ、RTSP のポート番号を設定します。



表示	説明
HTTP ポート	HTTP プロトコルで制御を行うポートです。（初期値：80）
HTTPS ポート	HTTPS プロトコルで制御を行うポートです。（初期値：443）
データポート	カメラ制御を行うポートです。（初期値：9008）
RTSP ポート	RTSP プロトコル制御を行うポートです。（初期値：554）
RTSP over TLS	RTSP プロトコル制御の TLS 暗号化通信ポートです。 （初期値：332）
リスニングポートをサブスクライブ	Long Polling により HTTP でスマート検出データをプッシュ送信します。 （初期値：8080）
保存	設定を保存します。

[保存]をクリックして、設定を保存します。

4.5.3 サーバ

CMS/VMS の認証サーバにプッシュで接続する場合に設定します。



- NVR の追加手順

① [編集]をクリックして有効にチェックを入れ、サーバを有効にします。

② サーバアドレスに NVR の IP アドレスを入力します。また、デバイス ID を設定します。
デバイス ID は、同じ NVR に複数のカメラをプッシュ接続する場合に、NVR 側でカメラを判別するための ID 番号です。同じ NVR に登録するカメラは ID が重複しないように設定します。

③ NVR で「設定→カメラ→カメラ追加」と操作して、「自動レポート」タブを選択します。
カメラ側からプッシュされた登録情報が表示されていますので、☑を有効にして「追加」をクリックして登録します。



- CMS/VMS サーバの追加手順

① [編集]をクリックして有効にチェックを入れ、サーバを有効にします。

② CMS/VMS の映像転送サーバの IP アドレスとオートリポート番号を確認します。

デフォルトのオートリポート番号は 2009 です。

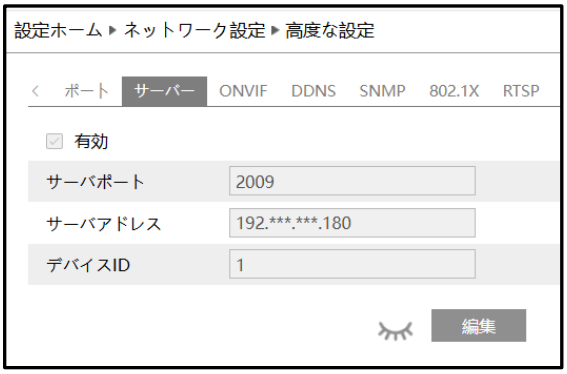


③ 上記で確認したサーバポート/IP アドレス/デバイス ID を入力して [保存]をクリックして設定を保存します。デバイス ID は任意の数字です。

④ CMS/VMS の「デバイス管理→デバイスの追加と編集→追加されていないオートリポートデバイス」を開きます。



⑤ CMS/VMS に未登録のデバイスが表示されていますので、左端の☑を有効にして、OK をクリックして CMS/VMS にデバイスを登録します。



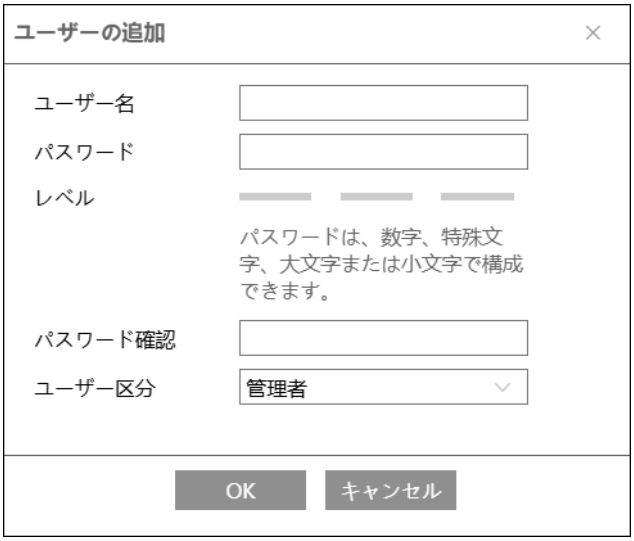
既にサーバが登録されている場合アイコンをクリックすると、非表示になっているサーバアドレスを表示して確認することができます。

4.5.4 ONVIF

ONVIF プロトコルでアクセスできるユーザを登録します。初期設定では ONVIF ユーザは未登録ですので本機に ONVIF プロトコルではアクセスできません。（この機能は、ONVIF プロトコルを装備したカメラのみ利用できます。）



[追加]ボタンをクリックしてユーザを追加します。ユーザ名、パスワード、ユーザ区分を入力して[OK]をクリックします。ヒントに従ってパスワードを設定してください。



パスワードを変更する場合は、該当ユーザを選択して[変更]ボタンをクリックします。

ユーザを削除したい場合は、該当ユーザを選択して[削除]ボタンをクリックします。

注意
ユーザ名 ： **最大 15 文字** 英数字のみ、記号**不可**
パスワード： **最大 16 文字** 英数字 と 記号**可**

4.5.5 DDNS

DDNS 設定方法

複数の DDNS サービスが登録されていますのでお好みのサービスを選択してください。
サーバタイプのプルダウンから DDNS サービスを選択して、ユーザ名、パスワード、ドメイン名を入力します。
これらの入力する情報は、各 DDNS サービスのウェッブサイトで事前に登録しておく必要があります。

《例 1》**www.dvrdydns.com** の場合

① ブラウザのアドレスバーに **www.dvrdydns.com** を入力し、DDNS ウェブサイトにアクセスしてください。



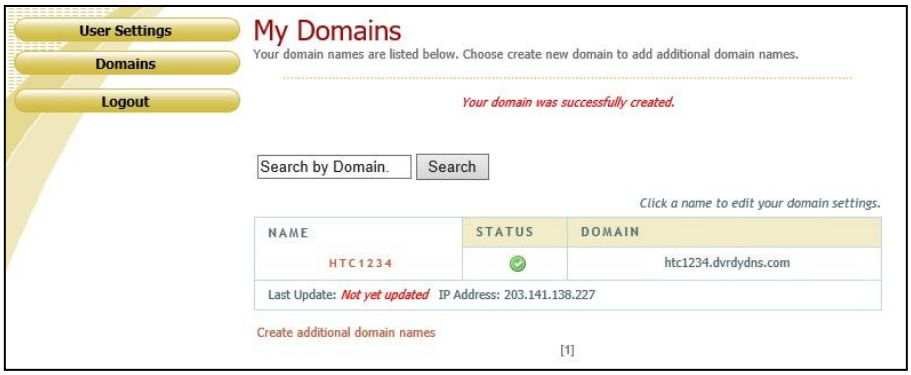
② [Registration（登録）]ボタンをクリックすると、以下のインタフェースに進みます。
DDNS アカウント情報（ユーザ名、パスワードなど）を設定し、[Submit（送信）]ボタンをクリックして、アカウントを保存します。



③ ドメイン名を作成し、[Request Domain（ドメインの要求）]をクリックします。



④ ドメイン名を要求すると、ドメイン名の情報がリストに表示されます。



⑤ DDNS 設定を開きます。[編集]をクリックしてから有効にチェックを入れ、DDNS を設定します。DDNS タイプは www.dvrdydns.com を選択します。登録したユーザ名、パスワード、ドメイン名を入力し、[保存]をクリックして設定を保存します。



⑥ インターネットから本機にアクセスするには、ブラウザのアドレスバーに http://www.xxx.dvrdydns.com:81 のような登録済みのドメイン名と HTTP ポートを入力します。「2.2 **WAN**」を参照してください。

《例 2》www.**autoddns.com** の場合

www.autoddns.com は無償提供の DDNS サービスです。以下の手順で設定します。

① サーバタイプ:www.autoddns.com を選択します。

ユーザ名は任意の文字列を入力します。入力した文字列がドメイン名になります。



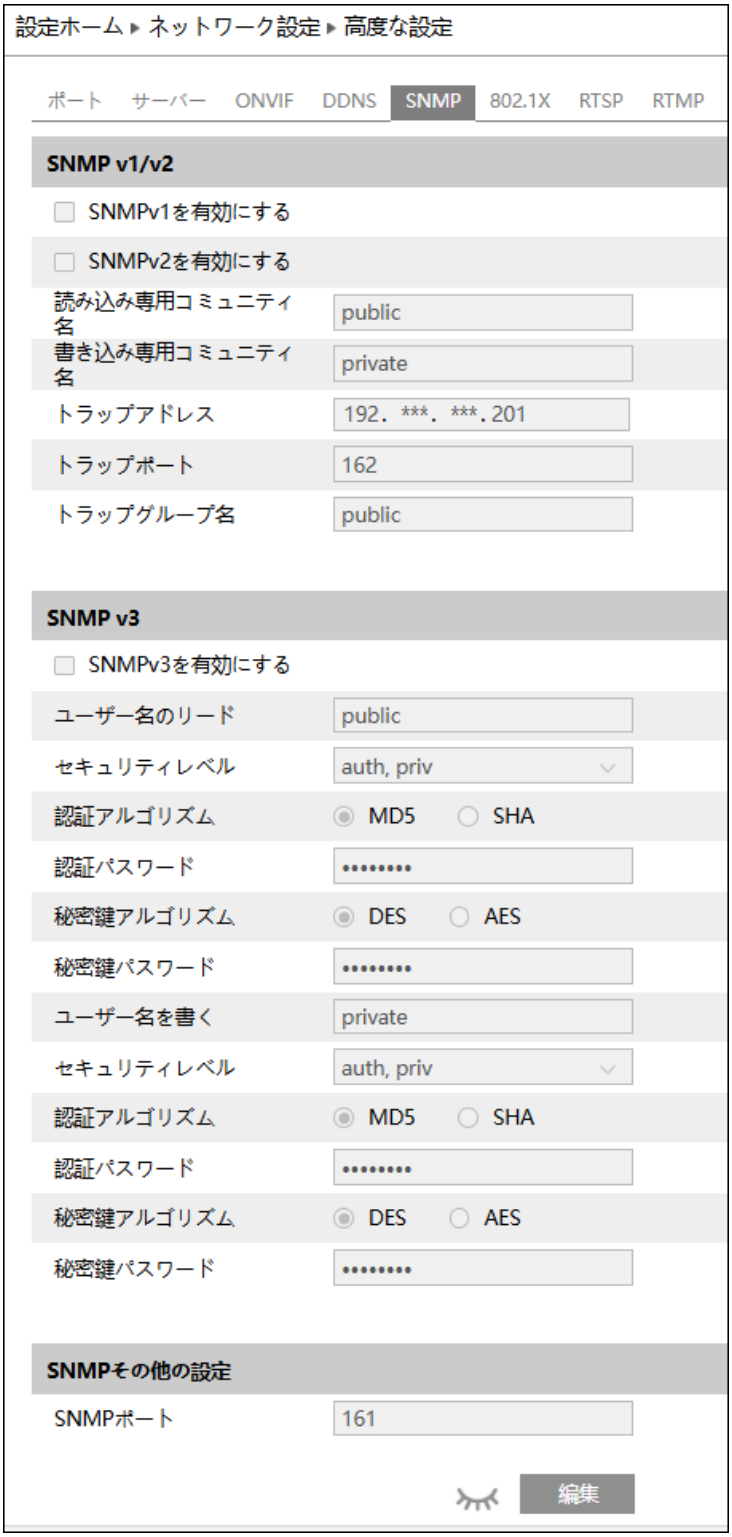
② インターネットから本機にアクセスするには、ブラウザのアドレスバーに http://ドメイン名:81 ドメイン名と HTTP ポート（例 http://hytecinter_test100.autoddns.com:81）を入力します。「2.2 **WAN**」を参照してください。



アイコンをクリックすると、非表示になっているドメインを表示して確認することができます。

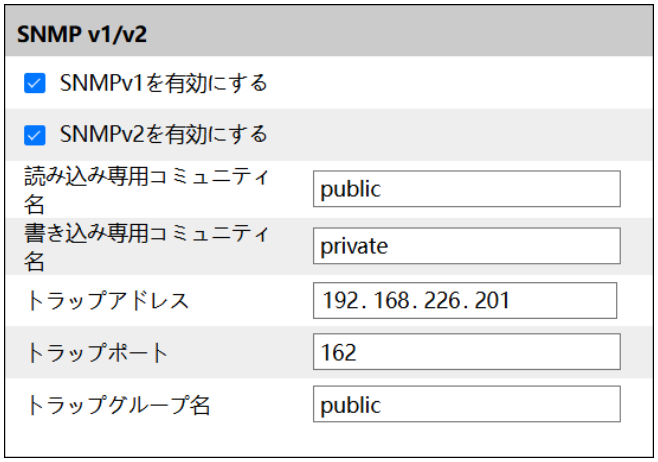
4.5.6 SNMP

[編集]をクリックしてから有効にチェックを入れ、SNMP を設定します。
SNMP 機能は、カメラのステータスやパラメータ、アラーム情報を取得し、カメラをリモートで管理できます。



➢ SNMP v1/v2

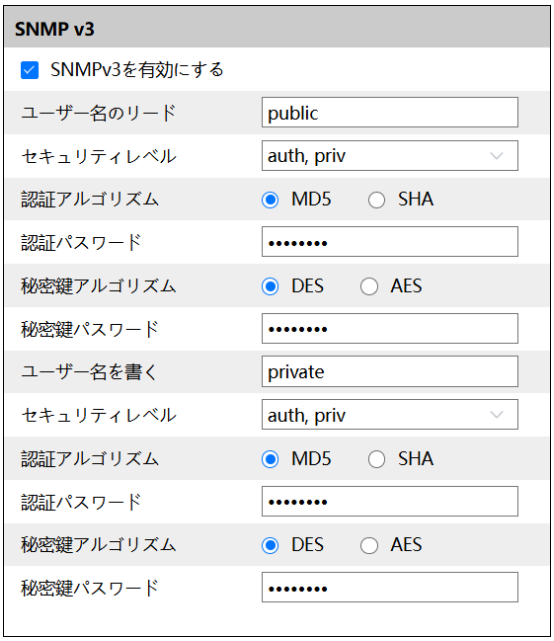
[SNMPv1 を有効にする][SNMPv2 を有効にする]にチェックを入れ、SNMPv1/v2 を有効にします。



表示	説明
読み込み専用コミュニティ名	Read-only。SNMP による読み取り専用のコミュニティ名を入力します。
書き込み専用コミュニティ名	Read-write。SNMP による読み書き専用のコミュニティ名を入力します。
トラップアドレス	トラップ送信先 SNMP マネージャの IP アドレスを入力します。
トラップポート	トラップポートを入力します。
トラップグループ名	トラップのコミュニティ名を入力します。
保存	設定を保存します。

➢ SNMP v3

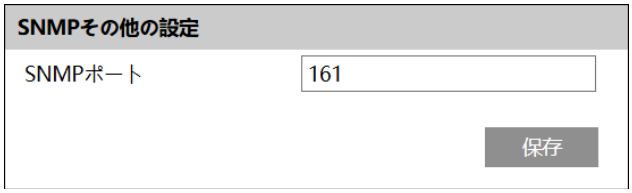
[SNMPv3 を有効にする]にチェックを入れ、SNMPv3 を有効にします。



表示	説明
ユーザ名のリード	SNMP による読み取り専用のユーザ名を入力します。
ユーザ名を書く	SNMP による読み書き専用のユーザ名を入力します。
セキュリティレベル	ユーザ認証には 3 つのセキュリティレベルがあります。 ・ auth, priv ：認証アルゴリズムで認証。暗号化あり。 ・ auth, no priv ：認証アルゴリズムで認証。暗号化なし。 ・ no auth, no priv ：ユーザ名のみで認証。暗号化なし。
認証アルゴリズム	認証方式を MD5 または SHA から選択します。
認証パスワード	認証パスワードを設定します。
秘密鍵アルゴリズム	暗号化方式を DES または AES から選択します。
秘密鍵パスワード	暗号化パスワードを設定します。
保存	設定を保存します。

➢ SNMP その他の設定

SNMP ポートを設定して、[保存]をクリックします。



4.5.7　802.1X

802.1X を設定します。
有効にすると、カメラのデータを保護できます。カメラが IEEE802.1x で保護されたネットワークに接続されている場合、ユーザ認証が必要です。
この機能を使用するためには、802.1x プロトコルをサポートするスイッチにカメラを接続する必要があります。スイッチはローカルネットワークでデバイスを識別するための認証システムとして利用できます。
スイッチのネットワーク・インタフェースに接続されたカメラが、スイッチの認証に合格すると、ローカルネットワーク経由でアクセスできます。



802.1X の設定方法

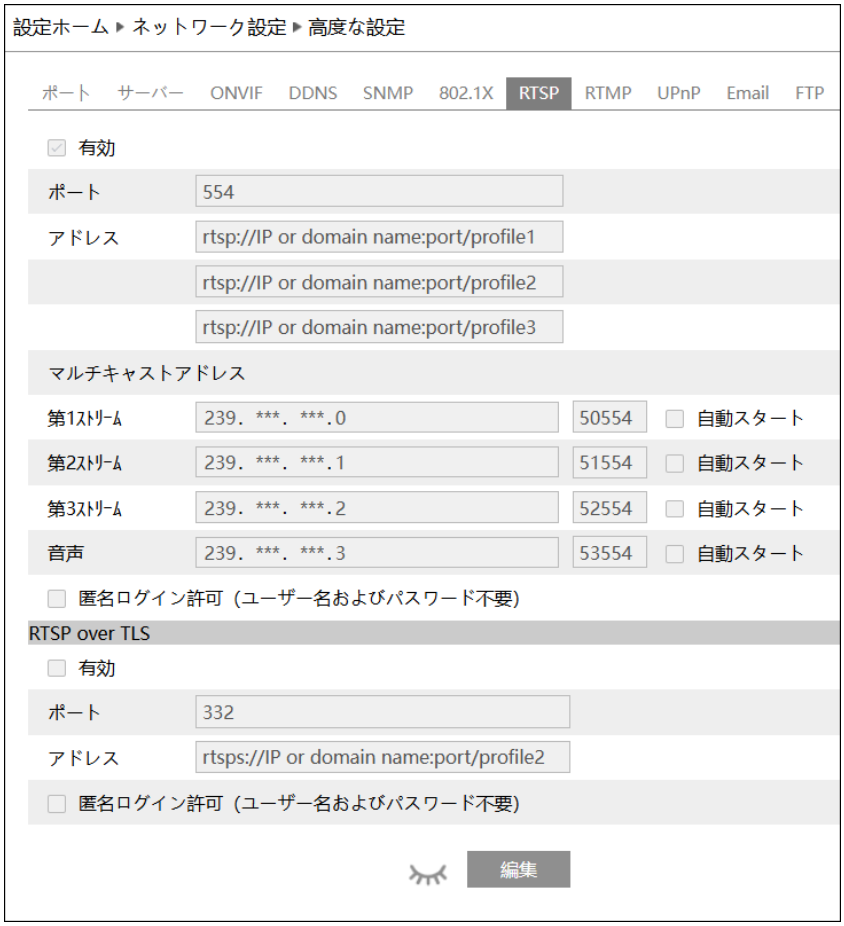
[編集]をクリックしてから有効にチェックを入れ、802.1X 認証を有効にします。
プロトコルタイプは必要に応じて「EAP_MD5」または「EAP_TLS」を選択します。

- ●EAP 方式として EAP-TLS を選択した場合
  CA が発行した ID を入力し、関連する証明書をアップロードします。802.1x で保護されたネットワークにカメラを接続する前に、RADIUS サーバで検証可能な認証局（ネットワーク管理者など）からのデジタル証明書を適用してください。
- ●EAP 方式として EAP_MD5 を選択した場合
  ユーザ名とパスワードを入力する必要があります。
  ユーザ名とパスワードは、認証サーバに登録されているユーザ名とパスワードを入力してください。

[保存]をクリックして設定を保存します。

4.5.8 RTSP

RTSP を設定します。



[編集]をクリックしてから有効にチェックを入れ、RTSP を有効にします。

- ポート：「4.5.2 **ポート**」の RTSP ポートと連動しています。
- アドレス：VLC プレーヤーなどで再生する時に使用する RTSP アドレスを表示します。

  【例】RTSP アドレス（ユニキャスト）。IP アドレスが 192.168.1.226 の場合。

  第 1 ストリーム ⇒ rtsp://192.168.1.226:554/profile1

  第 2 ストリーム ⇒ rtsp://192.168.1.226:554/profile2

  第 3 ストリーム ⇒ rtsp://192.168.1.226:554/profile3
- マルチキャストアドレス：マルチキャストアドレス、ポート番号を設定します。

  【例】RTSP アドレス（マルチキャスト）。IP アドレスが 192.168.1.226 の場合。

  第 1 ストリーム ⇒ rtsp://192.168.1.226:554/profile1?transportmode=mcast

  第 2 ストリーム ⇒ rtsp://192.168.1.226:554/profile2?transportmode=mcast

  第 3 ストリーム ⇒ rtsp://192.168.1.226:554/profile3?transportmode=mcast

カメラ起動時に、自動的に配信開始したい場合は、[自動スタート]をチェックします。

- [匿名ログインを許可する（ユーザ名またはパスワードは不要）] に、チェックを入れると RTSP 認証を省いて再生できます。
- RTSP over TLS を有効にします。
  IP アドレスが 192.168.1.226 の場合、rtsps://192.168.1.226:332/profile2 です。
  ポート番号は「4.5.2 **ポート**」で設定します。

4.5.9 RTMP

RTMP を設定します。YouTube 配信に使用します。



[編集]をクリックしてから有効にチェックを入れ、RTMP を有効にします。

表示	説明
ストリーム形式	YouTube 配信で使用するストリームを選択します。※ 1 、※ 2
タイムアウト後に再接続する	設定した時間以内なら再接続します。
サーバアドレス	YouTube Studio でメモしたストリーム URL/ストリームキーを貼付けます。 例：rtmp://a.rtmp.youtube.com/live2/abcd-efgh-ijkl-mnop-qrst
接続状態	接続完了の表示になれば YouTube との接続は完了しています。
保存	設定を保存します。
編集	編集モードにします
	非表示になっている設定情報を表示します。

※1:ストリーム設定は「4.2.2 **映像/音声**」で設定します。通信回線の速度に応じて、最適な設定を行います。ビデオ圧縮は必ず、「**H.264**」を設定する必要があります。また、音声を有効に設定します。

※2:お使いのインターネット接続で安定して映像を転送できる品質に設定します。実際に配信する動きや音声でテストを行う必要があります。設定した解像度、フレームレート、ビットレートは YouTube が自動的に検出します。

4.5.10 UPnP

UPnP を使用すると LAN 経由で簡単にカメラにアクセスできます。

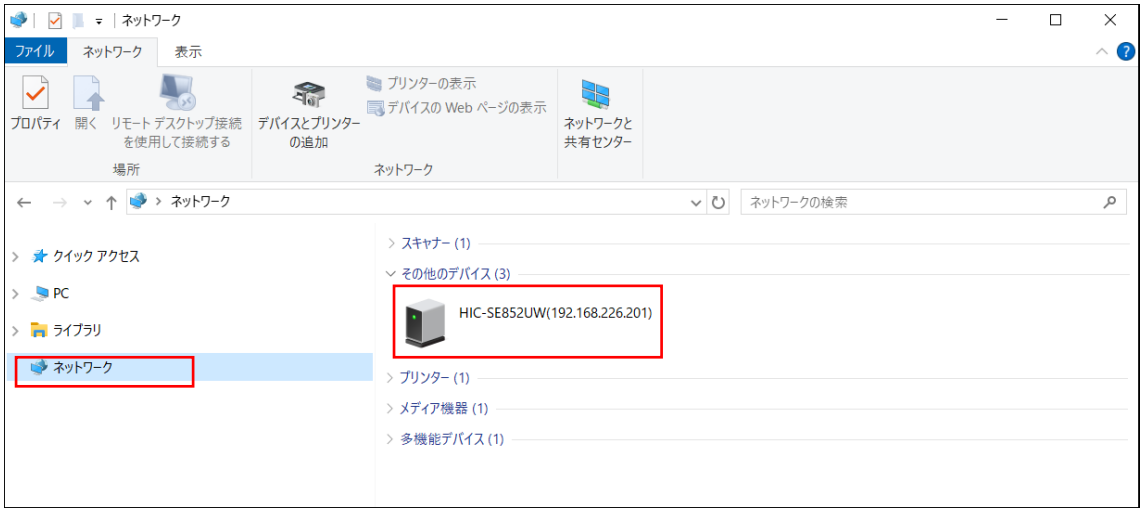


UPnP の設定方法

① 有効をチェック☑して、UPnP 名を入力し [保存]をクリックして設定を保存します。

② PC でエクスプローラを起動したあと、ネットワークをクリックすると、設定した UPnP 名のカメラが表示されます。

※事前に PC 側で「ネットワーク探索とファイル共有」を有効に設定しておく必要があります。



③ 表示されたカメラをダブルクリックするとブラウザが起動して、カメラに接続します。

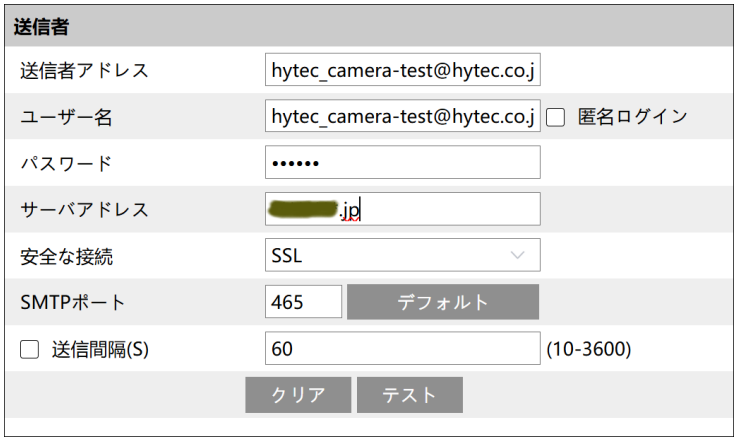
4.5.11 Email

Email に関する設定を行います。



➢ 送信者

[編集とテスト]をクリックしてから送信者の E メールアドレス、SMTP サーバなどを設定します。



送信者の設定方法

ISP から提供された E メールサービスの情報に従って入力します。

① 送信者の E メールアドレスを入力します。

② ユーザ名とパスワードを入力します。

③ サーバアドレスに SMTP サーバ情報を入力します。

④ 暗号化プロトコル SSL/TLS を選択します。

⑤ SMTP ポートを設定します。[デフォルト]で初期値に戻ります。

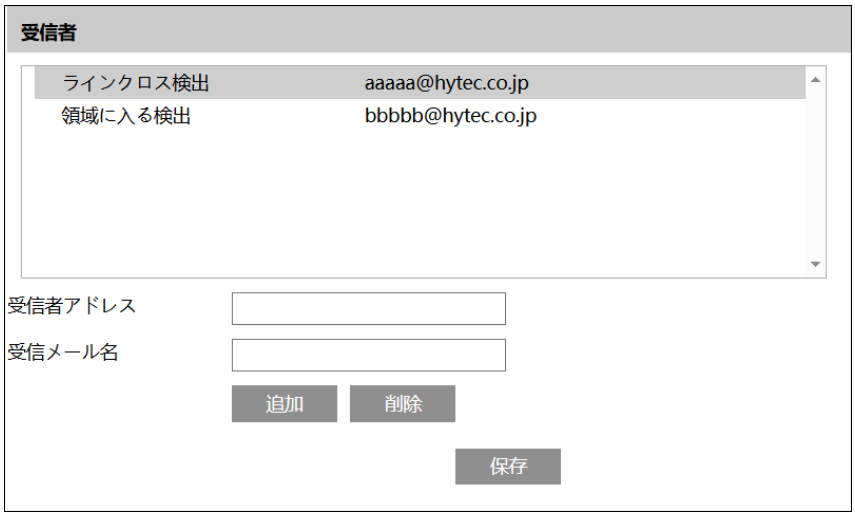
⑥ E メールの送信間隔を設定します。
送信間隔にチェックを入れ 300 秒に設定した場合、300 秒に 1 通のメールが送信されます。300 秒の間に複数検出された場合、検出時間などをまとめて 1 通で通知します。添付ファイルの静止画は最初に検出した静止画のみを添付します。

⑦ [テスト]をクリックして、アカウントの接続テストを行います。

注 1 Yahoo や Gmail 等のフリーメールはご利用いただけません。ISP が提供するメールサービスをお使いください。

➢ 受信者

[受信者アドレス]欄に受信者のメールアドレスとメールの件名を入力し、[追加]をクリックしてリストに追加します。削除する場合は、リストから削除するアドレスを選択し、[削除]をクリックしてリストから削除します。



アイコンをクリックすると、非表示になっている、送信者アドレス、ユーザ名、受信者アドレスを表示して確認することができます。

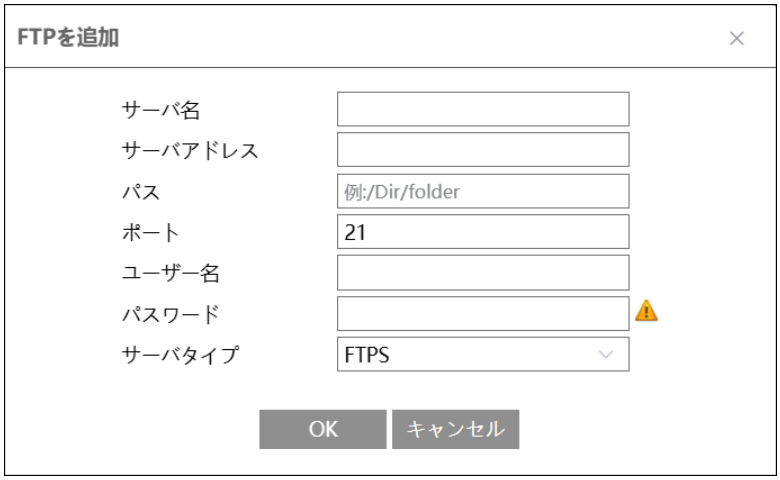
4.5.12 FTP

FTP サーバの設定を行います。



➢ FTP 追加/変更

[編集とテスト]をクリックしてから、FTP サーバを追加するには、[追加]をクリックします。変更する場合は、[変更]をクリックします。



表示	説明
サーバ名	FTP サーバの名前を入力します。
サーバアドレス	FTP サーバの IP アドレスまたはドメイン名を入力します。
パス	FTP サーバのアップロードパス（フォルダ）を設定します。
ポート	FTP サーバのポート番号を入力します。
ユーザ名/パスワード	FTP サーバのユーザ名とパスワードを入力します。 匿名にチェックを入れると、ユーザ名とパスワードの入力を省きます。
サーバタイプ	FTPS、FTP を選択できます。
OK	ウィンドウを閉じます。（まだ保存されてません。）
保存	設定を保存します。

- テスト

[テスト]をクリックすると、選択している FTP サーバとの接続確認を行います。

- FTP 削除

[削除]をクリックすると、選択している FTP サーバを削除します。

FTP 保存パス: /device MAC address/event type/date/time/

例:顔検出発生時のパス：FTP file path ¥00-18-ae-a8-da-2a¥VFD¥2021-01-09¥14¥

イベントによるファイル名の一覧

ファイル名	イベント	ファイル名	イベント
IP	IP アドレス	MOTION	モーション検出
SENSOR	アラーム入力	TRIPWIRE	ラインクロス(ライン越え)
PERIMETER	エリア侵入(エリア内活動)	OSC	物体出現/消失
AVD	映像異常	VFD	顔検出
AOIENTRY	エリア侵入	AOILEVE	エリア退出
PASSLINECOUNT	ライン通過カウント	TRAFFIC	エリア内滞留カウント
LOITER	徘徊検知	PVD	違法駐車検知
SDFULL	SD カードフル	SDERROR	SD カードエラー
VSD	メタデータ		

テキストファイルの構成:

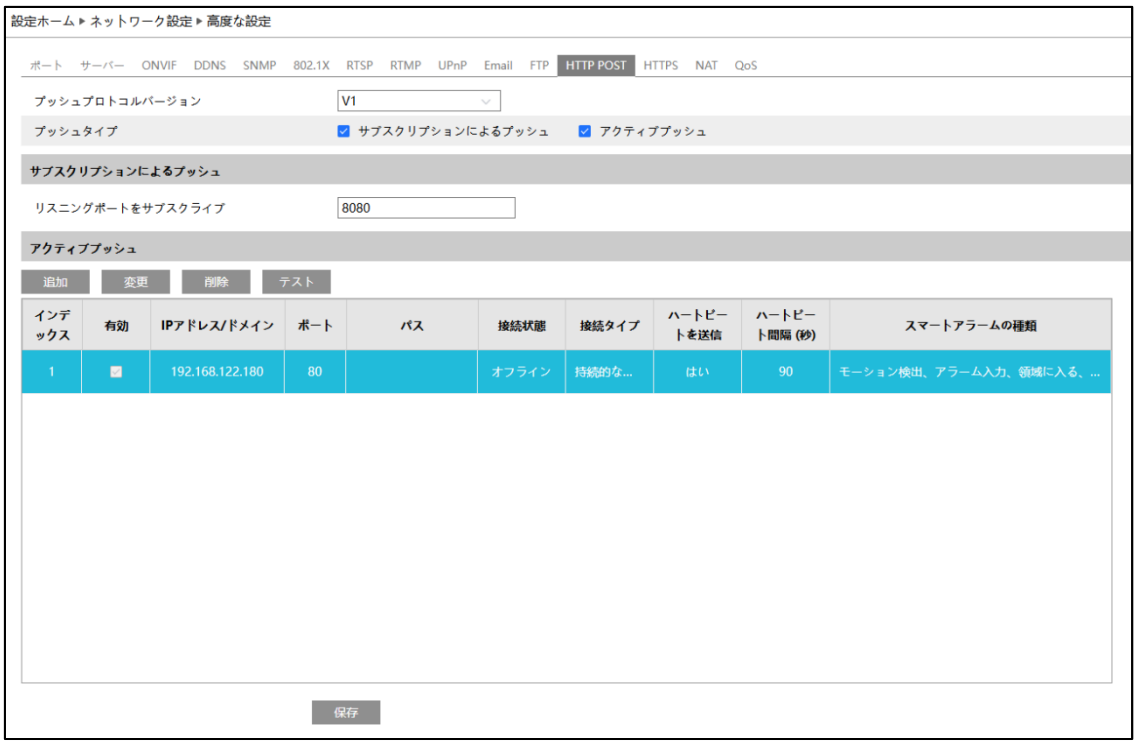
デバイス名/デバイス MAC アドレス/デバイス IP アドレス/イベントタイプ/イベント時刻

例:

device name: IPC mac: 00-18-ae-a8-da-2a MOTION time: 2021-03-16 12:20:07

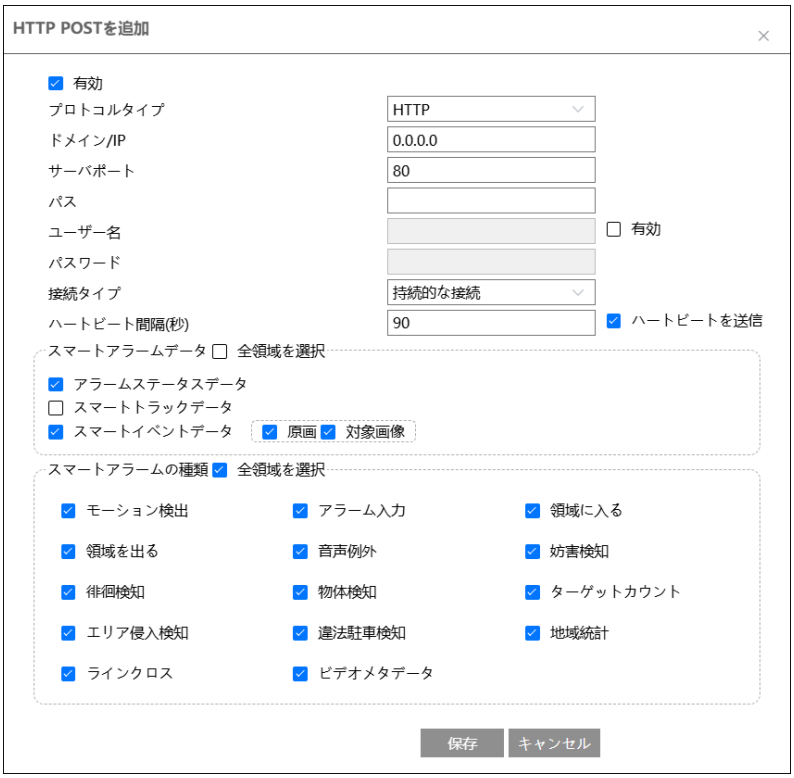
4.5.13 HTTP POST

HTTP POST を設定します。



HTTP POST では、各種イベントの情報や検出画像を HTTP POST サーバに転送できます。

表示	説明
プッシュプロトコルバージョン	プッシュするプロトコルのバージョンを設定します。
プッシュタイプ	サブスクリプションによるプッシュまたはアクティブプッシュを選択します。
サブスクリプションによるプッシュ	リスニングポートを設定します。
アクティブプッシュ	[追加]をクリックして HTTP POST サーバを追加します。変更する場合は、[変更]をクリックします。 [編集]をクリックしてから有効にチェックを入れ、HTTP POST を有効にします。



表示	説明
プロトコルタイプ	HTTP 固定
ドメイン/IP	HTTP POST サーバの IP アドレスを入力します。
サーバポート	HTTP POST サーバのポート番号を入力します。
パス	転送先のパスを設定します。
ユーザ名・パスワード	必要に応じて入力します。
接続タイプ	持続接続と非持続接続を選択します。
ハートビート間隔（秒）	HTTP POST サーバの稼働状態を確認する間隔を設定します。 （初期値 90 秒：設定範囲 1 秒～120 秒）
スマートアラームデータ	アラームステータスデータ：アラームの内容をプッシュします スマートトラックデータ　：検出ターゲットの追跡データをプッシュします。 スマートイベントデータ　：イベント画像を BASE64 形式でプッシュします。全景写真（原画）と、ターゲット切り抜き写真（対象画像）が選択できます。
スマートアラームの種類	POST するイベントを選択します。モーション検出、アラーム入力、領域に入る、領域を出る、音声例外、妨害検知、徘徊検知、物体検知、ターゲットカウント、エリア侵入検知、違法駐車検知、地域統計、ラインクロス、ビデオメタデータが選択できます。

保存	設定を保存します。

上記のパラメータを設定した後、[保存]をクリックして設定を保存します。
設定済の HTTP POST サーバを選択してから [テスト]をクリックするとカメラと HTTP POST サーバとの接続状態が確認できます。
HTTP ポストサーバとの接続が正常に確立されていれば、イベントが発生すると、カメラはアラーム情報を HTTP POST サーバに HTTP 形式で転送します。アラーム情報には、イベントの種類、ターゲットのトレース座標、ターゲットのメタデータ情報、イベントでキャプチャされた全体画像、ターゲット切り抜き画像などが含まれます。

4.5.14 HTTPS

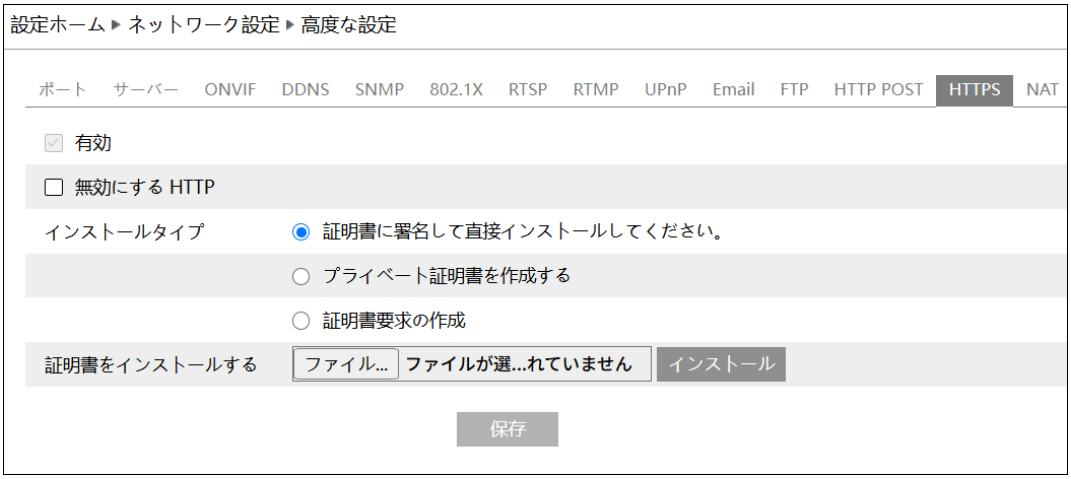
HTTPS を設定します。 HTTPS は Web サイトの認証を提供し、ユーザのプライバシーを保護します。



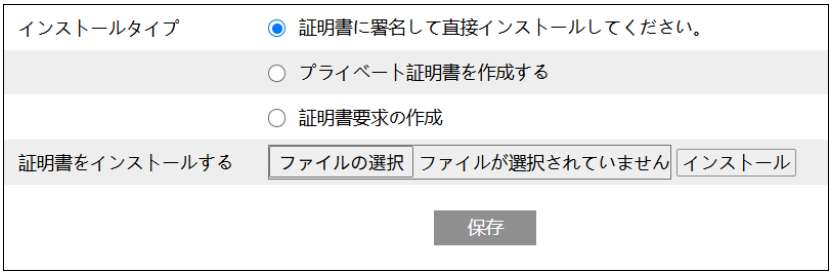
有効にチェックを入れて、HTTPS へのアクセスを有効にし、[保存]をクリックして設定を保存します。

Web ブラウザを使用して、「https://IP アドレス:HTTPS ポート」にアクセスします。
《 例：https://192.168.226.201:443 》

デフォルトで証明書がインストールされています。
デフォルトの証明書を使用しない場合は、[証明書の置き換え]をクリックして証明書を削除し、プライベート証明書を作成することもできます。3 種類のインストールタイプのどれかを選択して、各タイプで設定してください

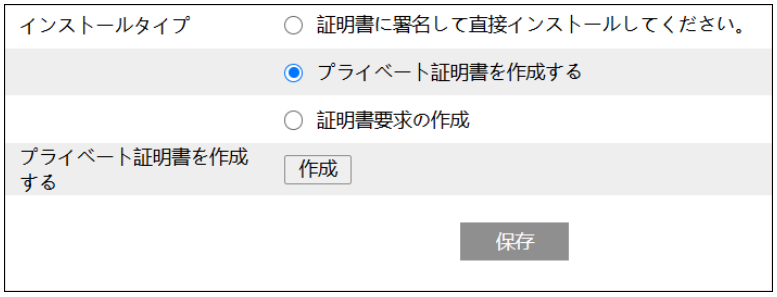


➢ 証明書に署名して、直接インストールしてください

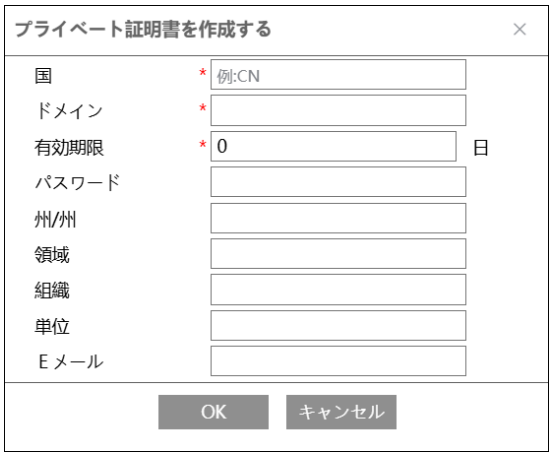


[ファイルの選択]ボタンをクリックして、インストールする証明書ファイルを選択してから、[インストール]ボタンをクリックして証明書をインストールします。
最後に[保存]ボタンをクリックします。

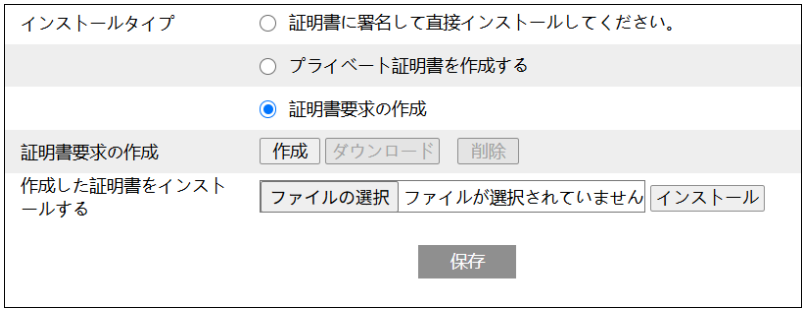
➢ プライベート証明書を作成する



[作成]ボタンをクリックして、プライベート証明書を作成します。国(2 文字のみ利用可能)、ドメイン(NVR の IP アドレス/ドメイン)、有効期限、パスワード、州(都道府県)、領域(地域)などを入力します。「*」は、必須項目です。次に、[OK]をクリックして設定を保存します。最後に[保存]ボタンをクリックします。



➢ 証明書要求の作成



[作成]をクリックして証明書要求を作成します。



国(2 文字のみ利用可能)、ドメイン(NVR の IP アドレス/ドメイン)、パスワード、州(都道府県)、領域(地域)などを入力します。「*」は、必須項目です。次に、[OK]をクリックして設定を保存します。

そうすると、[ダウンロード]ボタンがアクティブになりますので、クリックして、証明書要求ファイルをダウンロードし、署名のために信頼された証明機関に送信します。署名された証明書を受け取った後、証明書をデバイスにインポートします。上述の[証明書に署名して、直接インストールしてください]項で証明書をインストールしてください。

また、[削除]をクリックして、作成した証明書要求ファイルを削除できます。

4.5.15 NAT

この機能を有効にすると、モバイル監視クライアントで QR コードをスキャンすることで、WAN 経由で IP カメラにアクセスできます。



IP カメラをインターネットに接続できるネットワークに接続して、有効にチェックを入れて[保存]をクリックします。

IP カメラが AUTONAT サーバに正常に接続されると、オンライン状態は[オンライン]と表示されます。オンライン状態を確認するには[更新]をクリックします。

モバイル端末にインストールしたクライアントアプリケーションで QR コードをスキャンして、IP カメラを登録します。

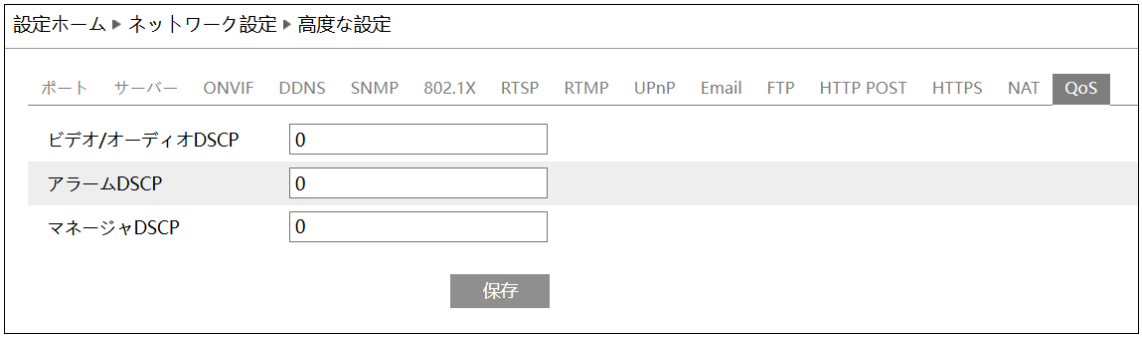
セキュリティコードは、クライアントアプリケーションでアカウントを作成してログインしている場合に有効な機能です。

※ログインした状態で、QR コードをスキャンしてデバイスを登録すると、そのデバイスはアカウントに紐づけされます。アカウントに紐づけされたデバイスを複数のモバイル端末で視聴したい場合、全ての端末のアプリケーションで、同じアカウントでログインする必要があります。

4.5.16 QoS

QoS（Quality of Service）機能は、ネットワークアプリケーションごとに異なるサービス品質を提供するための機能です。

帯域幅が不足している場合、ルータやスイッチがデータストリームをソートし、優先順位に従って転送することで、ネットワークの遅延やネットワークの輻輳を解決します。

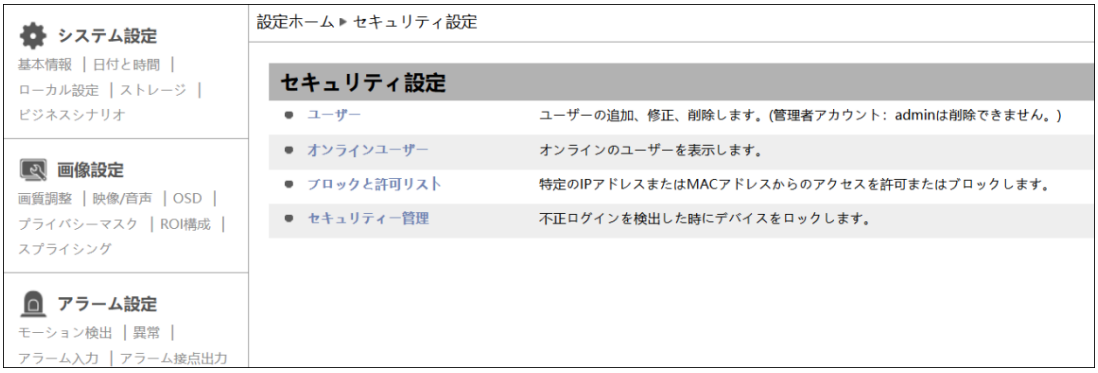


表示	説明
ビデオ/オーディオ DSCP	0 ～63 の範囲でビデオ/オーディオの優先度を設定します。
アラーム DSCP	0 ～63 の範囲でアラームの優先度を設定します。
マネージャ DSCP	0 ～63 の範囲でマネージャの優先度を設定します。
保存	設定を保存します。

数値が大きいほど、優先度は高くなります。

4.6 セキュリティ設定

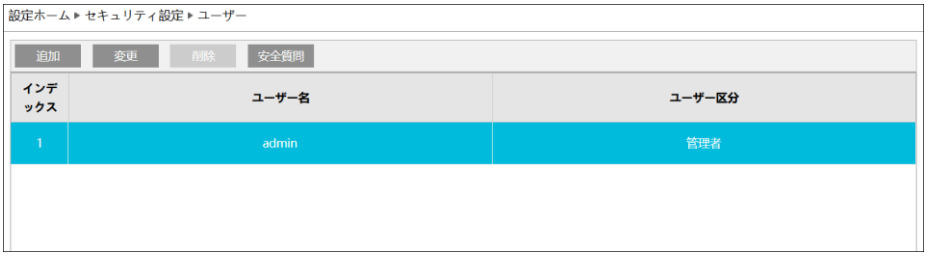
ユーザ、オンラインユーザ、ブロックと許可リスト、セキュリティ管理などのサブメニューがあります。



4.6.1 ユーザ

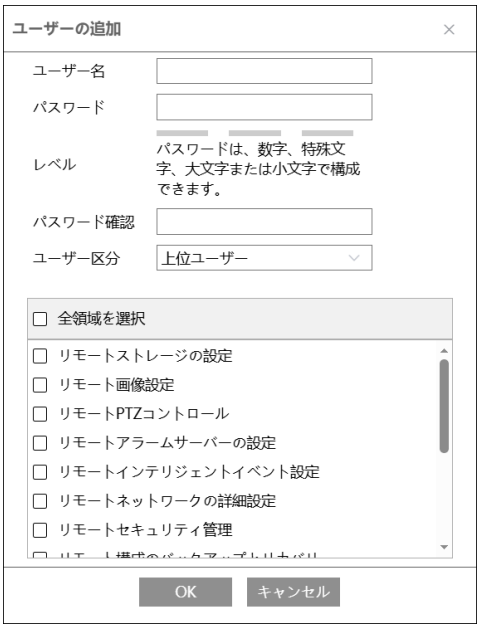
ユーザの追加、変更、削除を行います。

管理者アカウントの admin は削除できません。また、ユーザ名は admin から変更できません。



➢ <u>ユーザの追加方法</u>

① [追加]をクリックすると、「ユーザの追加」がポップアップします。



② ユーザ名とパスワード(パスワード確認)は、1～15 文字の英数字で設定します。

> 注意
> ユーザ名 ： **最大 15 文字** 英数字のみ、記号**不可**
> パスワード： **最大 16 文字** 英数字 と 記号**可**

レベルは、パスワードの強度を示します。「4.6.4 **セキュリティ管理**」にあるパスワードセキュリティで設定したレベル以上の組み合わせが必要です。

③ ユーザ区分を選択します。

- 管理者 ：すべての権限を持っています。（管理者を追加することはできません。）
- 上位ユーザ ：「ユーザ」、「ブロックと許可リスト」、「バックアップと復元」、「アップグレード」以外、管理者と同じ権限を持っています
- ノーマルユーザ：「ライブ」の表示と「検索」のみ可能です。設定の変更はできません。

④ リモートで操作できる項目をチェックします。

⑤ [OK]をクリックして、追加します。

上位ユーザとノーマルユーザの初期権限

システム設定	基本情報		○
	日付と時刻		○
	ローカル設定		○
アラーム設定	モーション検出	検出設定	×
		エリアと感度	○
		スケジュール	○
	異常		○
	アラーム入力		○
	アラーム出力		○
ネットワーク設定			閲覧のみ
セキュリティ設定	ユーザ		○※
	オンラインユーザ		○

※ログイン中ユーザのパスワード変更

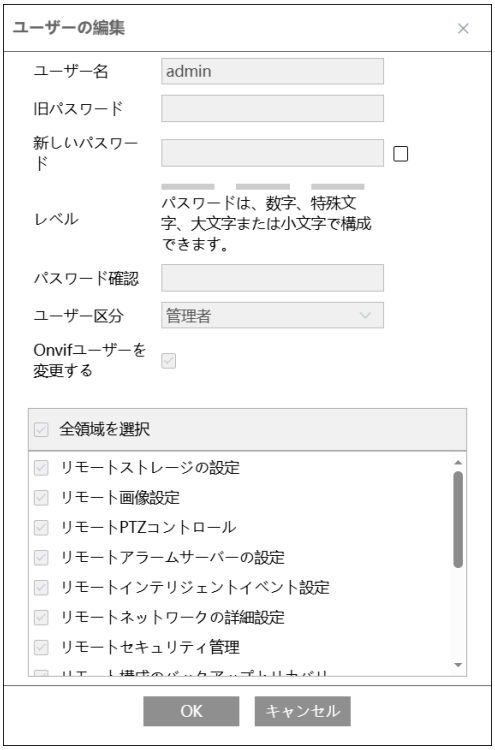
ユーザレベルと付与可能な権限

	上位ユーザ	ノーマルユーザ
ストレージ設定	○	×
画像設定（全項目）	○	○
PTZ コントロール	○	○
アラームサーバ設定	○	○
イベント設定	○	○
ネットワーク設定	○	×
セキュリティ設定	○※	×
バックアップと復元	○	×
再起動とアップグレード	○	×
ログ閲覧	○	○
音声インターホン（双方向音声通話）	○	○
プレビュー（ライブ）	○	○
再生（検索）	○	○
ユーザ管理	×	×

※ユーザ編集を除く、セキュリティメニュー

➢ パスワードの変更方法

① [変更]をクリックすると、「ユーザの編集」がポップアップします。



② [新しいパスワード]にチェックを入れ、旧パスワードと新しいパスワードを入力し、OK をクリックします。

> 注意
> パスワード： **最大 16 文字** 英数字 と 記号**可**

レベルは、パスワードの強度を示します。「4.6.4 **セキュリティ管理**」にあるパスワードセキュリティで設定したレベル以上の組み合わせが必要です。

③ [ONVIF ユーザを変更する]のチェックを外すと、ONVIF 接続するときのパスワードは変更されません。「4.5.4 **ONVIF**」で設定するパスワードと設定内容は同じです。チェックを入れた場合、カメラメニューにログインするときのパスワードと ONVIF 接続パスワードの両方が同時に変更されます。

④ リモートで操作できる項目を変更します。

⑤ [OK]をクリックして保存します。

➢ ユーザの削除方法

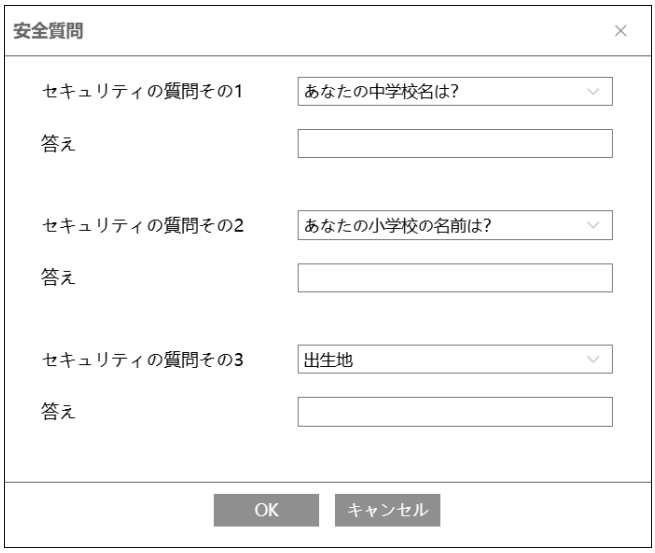
① 削除するユーザを選択します。選択されているユーザは青くなります。

② [削除]をクリックすると、削除の確認がポップアップするので OK をクリックして削除します。

➢ 安全質問（秘密の質問）

Admin ユーザに対して、秘密の質問、を設定することができます。

秘密の質問を設定しておくと、パスワード忘れの際に初期化することなくパスワードを再設定できます。



4.6.2 オンラインユーザ

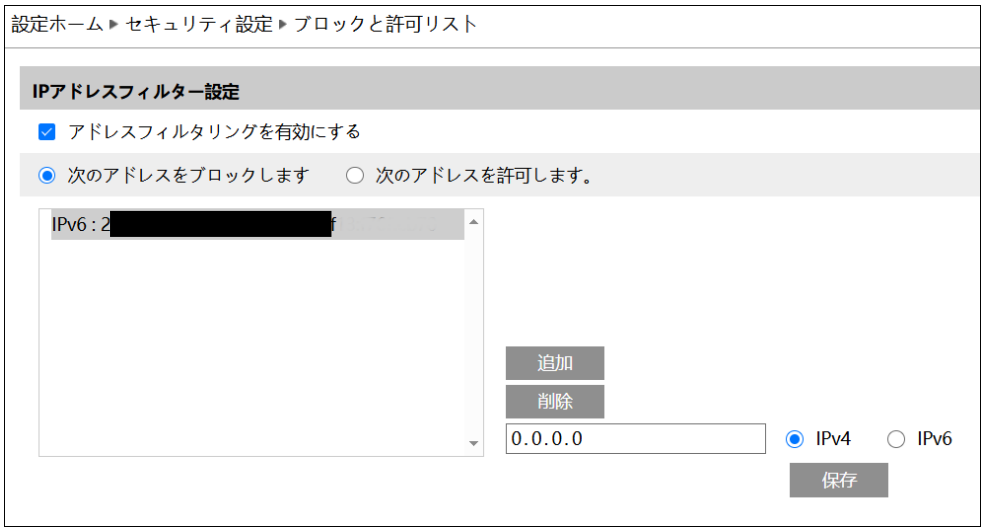
本機にアクセスしているオンラインユーザを表示します。
管理者ユーザは、他のすべてのユーザを追い出す(キックアウト)ことができます。



4.6.3　ブロックと許可リスト

特定の IP アドレスからのアクセスを許可またはブロックします。

[アドレスフィルタリングを有効にする]にチェックを入れ、許可/ブロックの設定を行います。



IP アドレスフィルタの追加方法

① [次のアドレスをブロックします]または[次のアドレスを許可します]のどちらかを選択します。
- ブロック：リスト内のみブロックし、その他のデバイスは許可されます。
- 許可　：リスト内のみ許可し、その他のデバイスはブロックされます。

② IPv4 または IPv6 を選択し、アドレスを入力します。

③ [追加]をクリックすると、リストに表示されます。

④ [保存]をクリックして保存します。

IP アドレスフィルタの削除方法

① リストからアドレスを選択します。

② [削除]をクリックすると、選択しているアドレスを削除します。

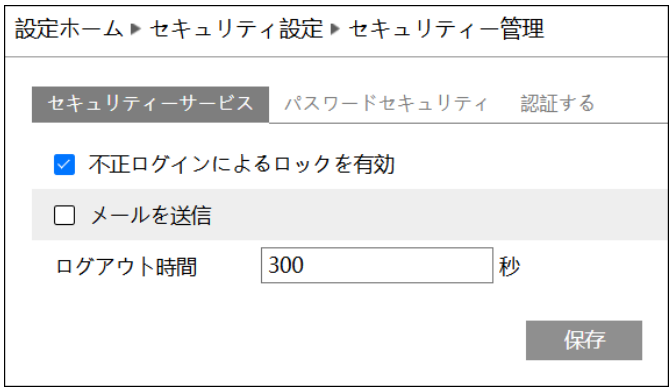
③ [保存]をクリックして保存します。

4.6.4　セキュリティ管理

不正ログインを検出した時の対応を設定します。

➢　セキュリティサービス

[セキュリティサービス]タブを開き、不正ログインによるロック解除を防ぐことができます。

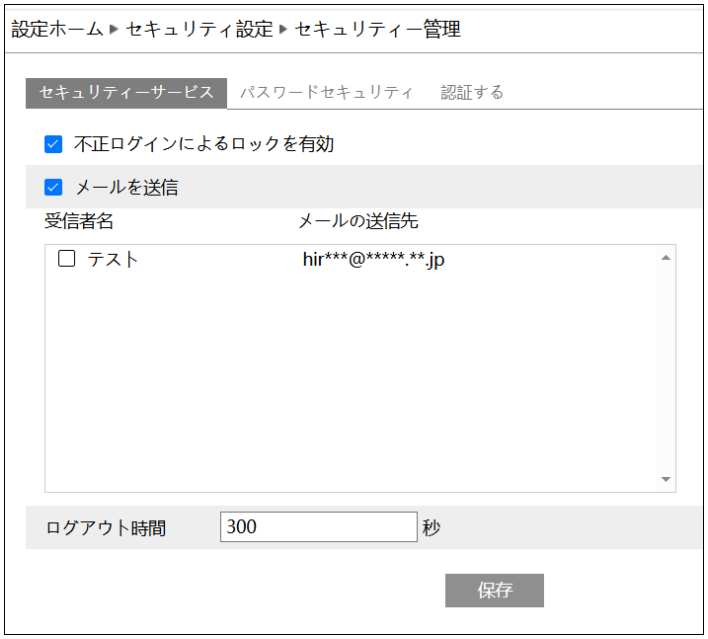


[不正ログインによるロックを有効]にチェックを入れると、ログイン試行に 6 回失敗するとロックされます。

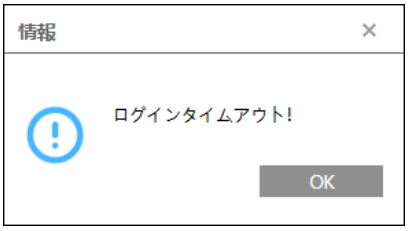
ロックから **30 分後**または**カメラの再起動**によって、カメラは再度ログインすることができます。

[メールを送信」にチェックを入れると、通知をメールで受け取れます。送信先をチェックして選択します。

メールの送信先の設定は、「4.5.11 **Email**」で登録します。

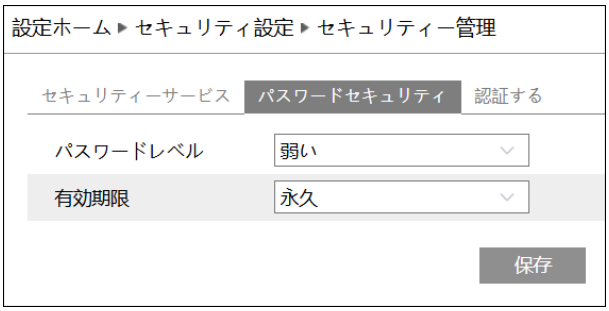


[ログアウト時間]で設定した時間（設定範囲：30～3600 秒（初期値 300 秒））が経過すると（Web ブラウザなどで設定時間操作されない場合）、自動的にログアウトされます。次に操作するまで画面はそのままですが、操作しようとすると、タイムアウトメッセージをポップアウトで表示して、ログインウィンドウに移動しますので、再度ログインしてください。



➢ パスワードセキュリティ

[パスワードセキュリティ]タブを開き、パスワードのレベルと有効期限を設定します。



パスワードレベルは、パスワード変更で利用できる文字の種類と長さを設定します。
弱い　　：「英字の大文字」「英字の小文字」「数字」「記号」から 1 文字以上
中　　：「英字の大文字」「英字の小文字」「数字」「記号」から 2 種類以上を組合わせて 9 文字以上
強い　　：「英字の大文字」「英字の小文字」「数字」「記号」の全種類を組合わせて 9 文字以上

有効期限：30 日、60 日、180 日、365 日、永久から選択します。
　　期限が切れるとパスワードの変更画面がポップアップします。

➢ 認証する

RTSP および API でアクセスする時の、認証方法を設定します。

認証方法は、”Basic”と”Digest”から選択します。



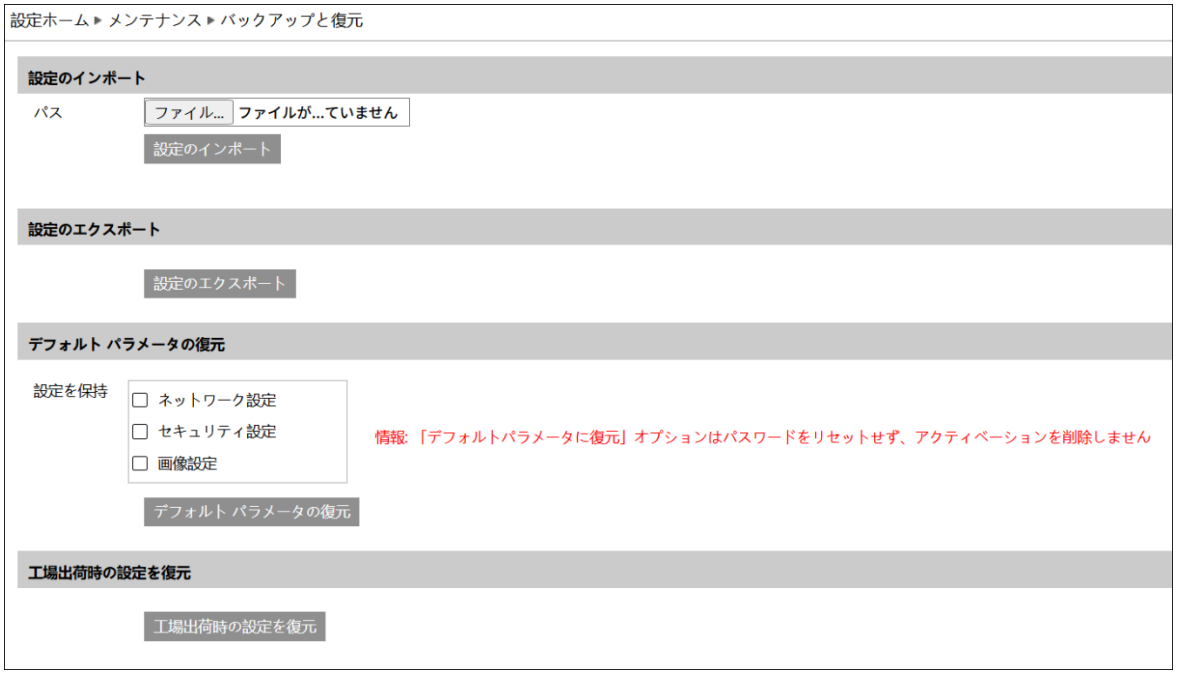
4.7 メンテナンス

バックアップと復元、再起動、アップグレード、操作ログ、シリアル出力、メンテナンス情報などのサブメニューがあります。



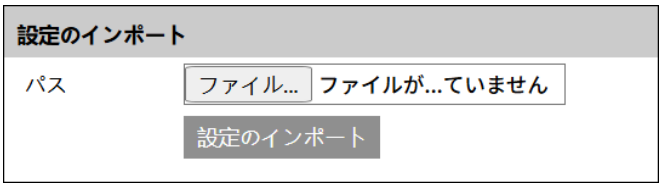
4.7.1 バックアップと復元

カメラの設定情報のインポート（復元）とエクスポート（バックアップ）、パラメータの復元、工場出荷時への復元を行います。



➢ 設定のインポート（復元）

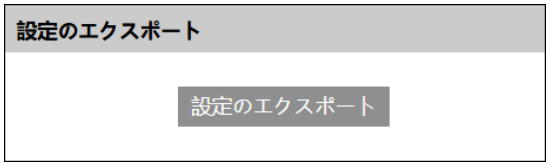
「ファイルの選択」をクリックして、バックアップファイルを選択します。[設定のインポート]をクリックして、設定を復元します。



注意：設定ファイルは同じバージョンのカメラからエクスポートしたファイルを使用します。

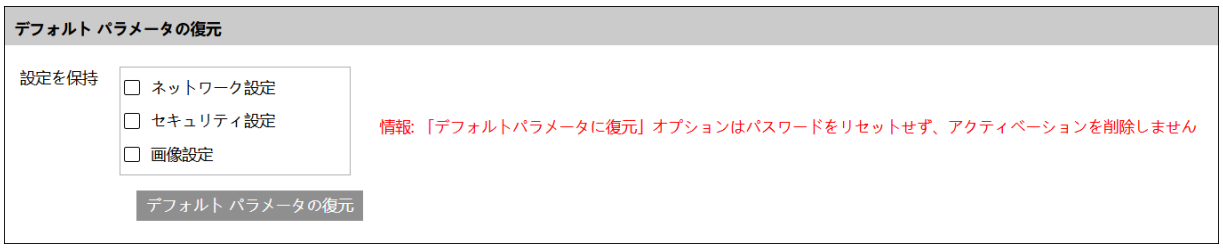
➢ 設定のエクスポート（バックアップ）

[設定のエクスポート]をクリックして、設定をバックアップします。



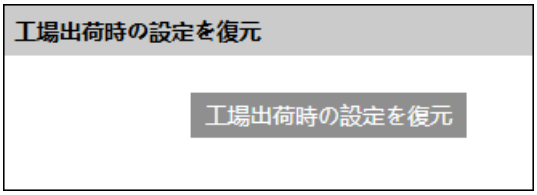
➢ デフォルトパラメータの復元

「設定を保持」で選択した設定項目は、初期化されず、現在の設定を保持します。



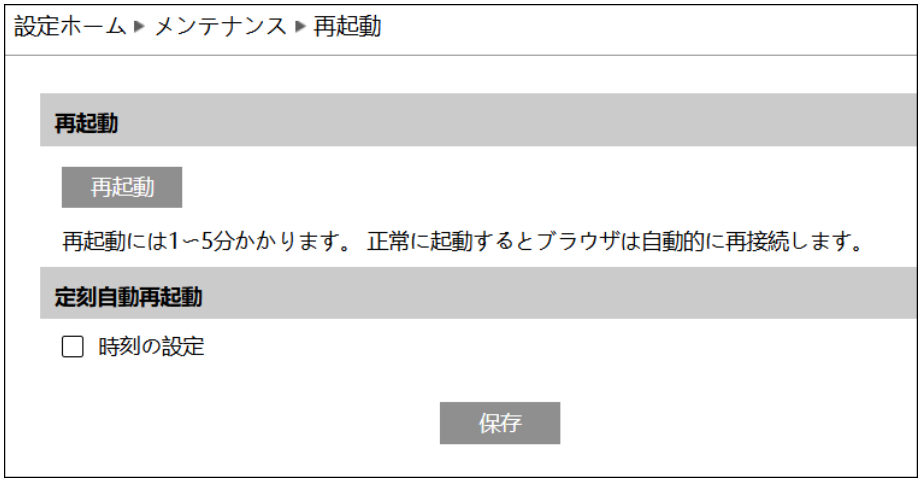
➢ 工場出荷時の設定を復元

[工場出荷時の設定を復元]をクリックして、設定を初期状態に戻します。



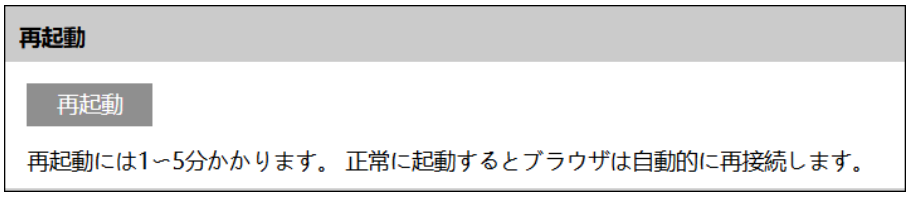
4.7.2 再起動

カメラの再起動を行います。



➢ 再起動

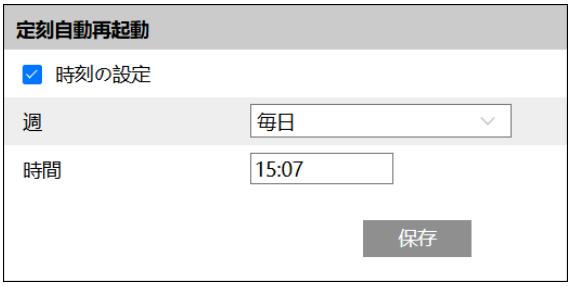
[再起動]をクリックすると、パスワード入力画面がポップアップします。パスワードを入力するとカメラは再起動を行います。再起動には 1～5 分かかります。正常に完了すると、自動的に再接続、ログイン画面に戻ります。



➢ 定刻自動再起動

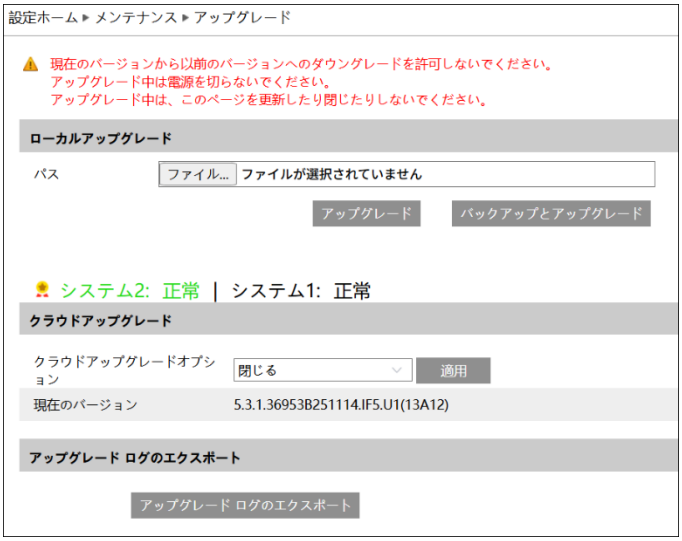
定期的に再起動を行います。

[時刻の設定]にチェックを入れると、自動的な再起動が有効になります。毎日または週に一度、決まった時間を指定します。



4.7.3 アップグレード

カメラのソフトウェアを更新します。



ソフトウェアのアップグレード方法

① 「ファイルの選択」をクリックして、アップグレードファイルを選択します。

② [アップグレード]または[バックアップとアップグレード]をクリックして、ソフトウェアのアップグレードを開始します。正しいパスワードを入力するとアップグレードを開始します。[バックアップとアップグレード]を選択すると、設定ファイルをローカル（PC）にバックアップした後にアップグレード処理を実行します。

③ アップグレード終了後、カメラは自動的に再起動します。

※ 現在のバージョンから古いバージョンへ戻さないでください。

※ アップグレード中はブラウザを更新・閉じたり、カメラをネットワークから切断したりしないでください。システム障害の原因になります。アップグレード後、10～15 分間は再度アップグレードしないでください。

※ アップグレード中は電源を切らないでください。

※ アップグレード中は監視などの機能は動作しません。

※ アップグレードのリスクを減らすため、本機では 2 つのシステムを採用しています。1 つのシステムが正常にアップグレードすると、もう 1 つのシステムが自動的に同期します。アップグレード中に停電や、そのほかの理由で 1 つのシステムに障害が発生した場合でも、もう 1 つのシステムには影響を受けず、カメラは正常に動作します。システムが同期するのに 15 分程度かかります。

※ アップグレードでエラーが発生する場合は、メーカーでアップグレードログを解析することで改善を行います。

4.7.4 操作ログ

ログの種類を選択、開始時間と終了時間を指定、[検索]をクリックすると、ログが表示されます。



<u>ログの取得方法</u>

① 第一区分、第二区分より、取得するログの種類を選択します。

② 開始時間と終了時間を設定し、検索するログの時間帯を指定します。

③ [検索]をクリックすると、指定時間内のログを表示します。

④ [エクスポート]をクリックして、ログをエクスポート・保存することができます。（eventLog.txt ファイルが生成されます。）

4.7.5　シリアル出力（未サポート）

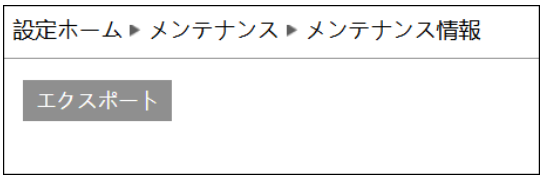
開発エンジニアが必要とするシステムデータを記録および収集するために使用されます。

※※ シリアル出力は有効にしないでください。 ※※



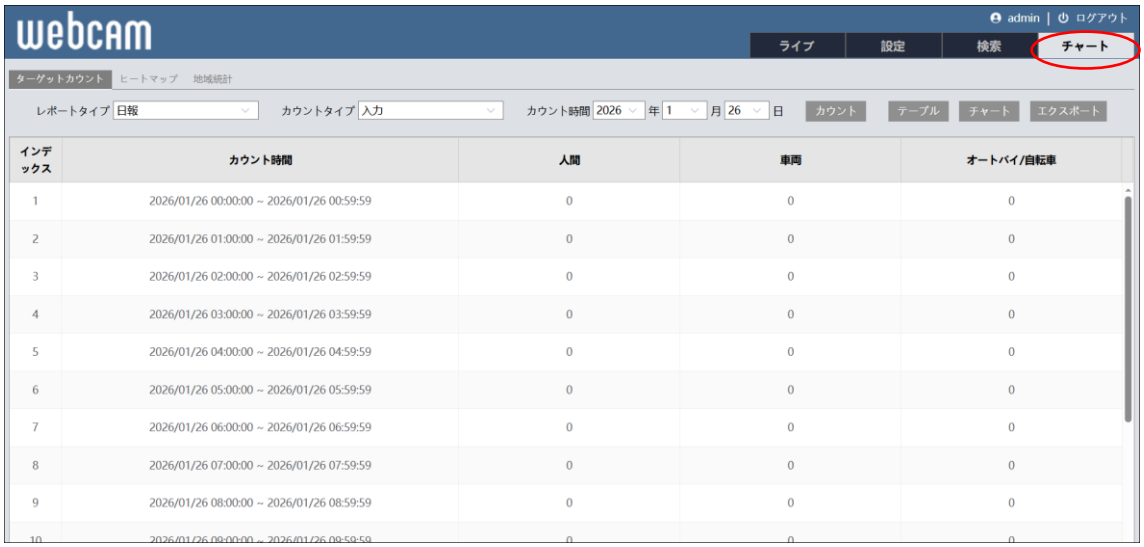
4.7.6　メンテナンス情報

デバイスの障害原因を分析するための、基本的なシステム情報、ソフトウェアのバージョン情報、設定ファイル、操作ログ、実行ログ、およびアップグレードログ情報などをエクスポートします。



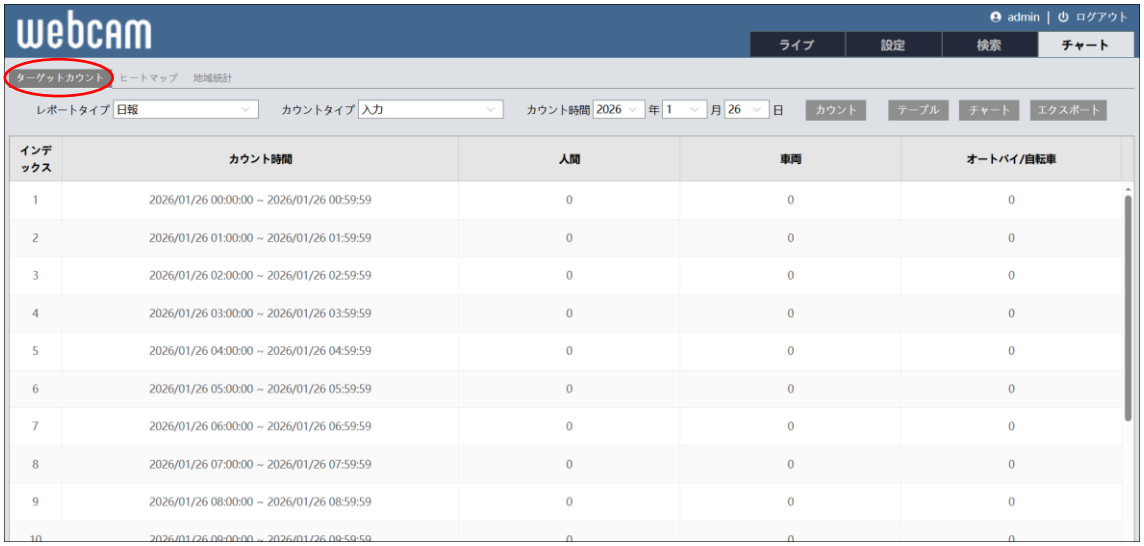
6. チャート

右上の[**チャート**]タブを開きます。



5.1 ターゲットカウント（ライン通過カウント）

左上のタブからの[ターゲットカウント]タブを選択します。



表示	説明
レポートタイプ	レポートする単位を設定します。 日報:1 日を時間単位で表示 週報:1 週間を曜日単位で表示 月報:1 月を日単位で表示 年報:1 年を月単位で表示
カウントタイプ	“入力（入る）”と”置き去り（出る）”を選択します。
カウント時間	ターゲットカウントの開始日時を設定します。
カウント	設定したレポートタイプやカウントタイプ、日時で再計算します。
テーブル	表形式で表示します。
チャート	図形式で表示します。
エクスポート	カウントの結果を出力します。

図の表示方法

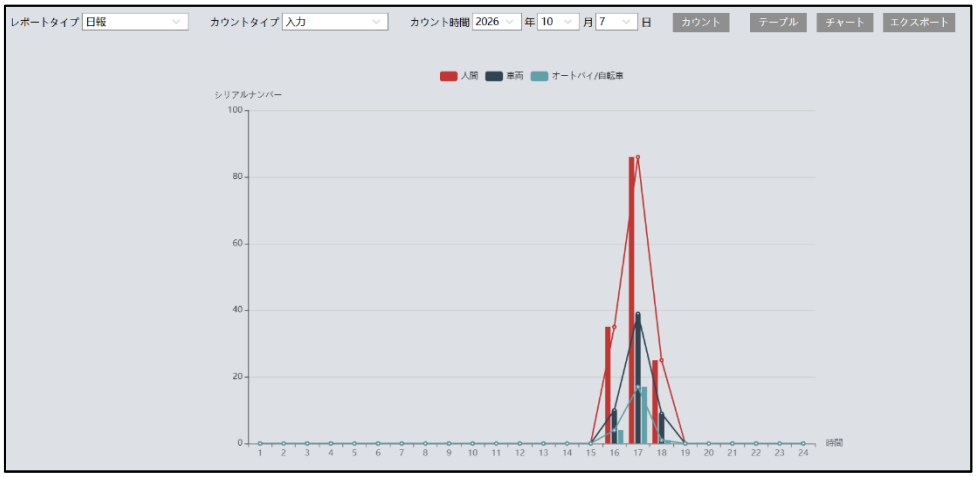
① [レポートタイプ]を選択します。

② [カウントタイプ]を選択します。

③ [カウント時間]で、カウントを開始する日時を設定します。

④ [カウント]ボタンをクリックして計算します。

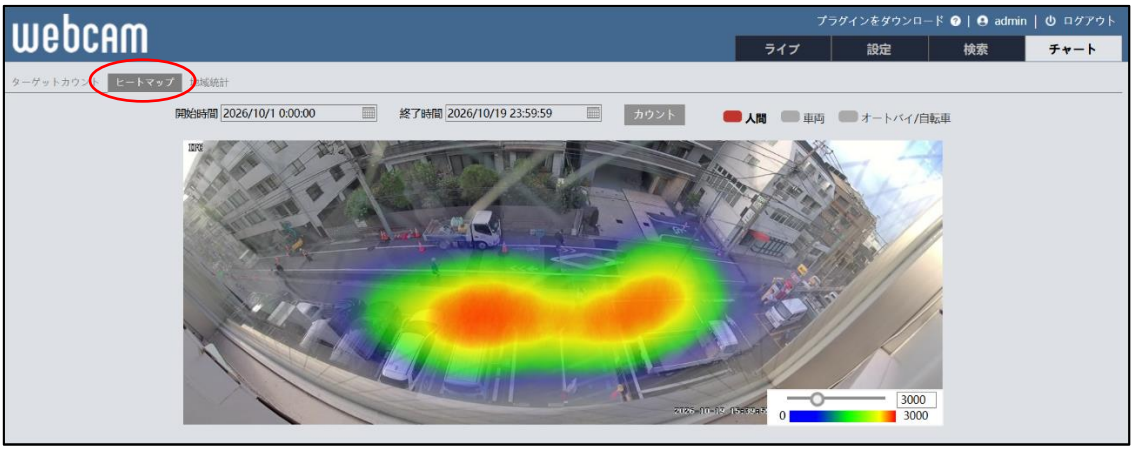
⑤ [テーブル]または[チャート]をクリックすると表または図を表示します。

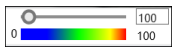


図の上部の[人間]、[車両]、[オートバイ/自転車]をクリックすることで表示・非表示を変更できます。

5.2 ヒートマップ

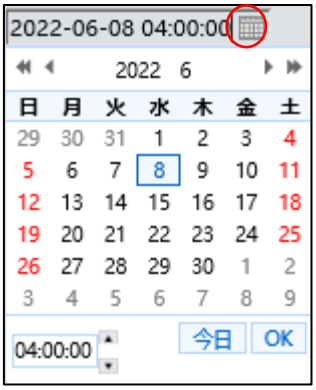
左上のタブから[ヒートマップ]タブを選択します。ターゲット（人間/車両/オートバイ・自転車）の分布が色付きで表示されます。分布数が高い場所は赤で、低い場所は青で表示されます。



表示	説明
開始時間	ヒートマップ表示の開始時間を設定します。
終了時間	ヒートマップ表示の終了時間を設定します。
カウント	クリックすると開始～終了時間のターゲットの分布を計算します。
種別	カウント完了後に、人間、車両、オートバイ・自転車を選択して表示を切り替えます。
感度 	検出最大値（赤色）の設定を変更します。

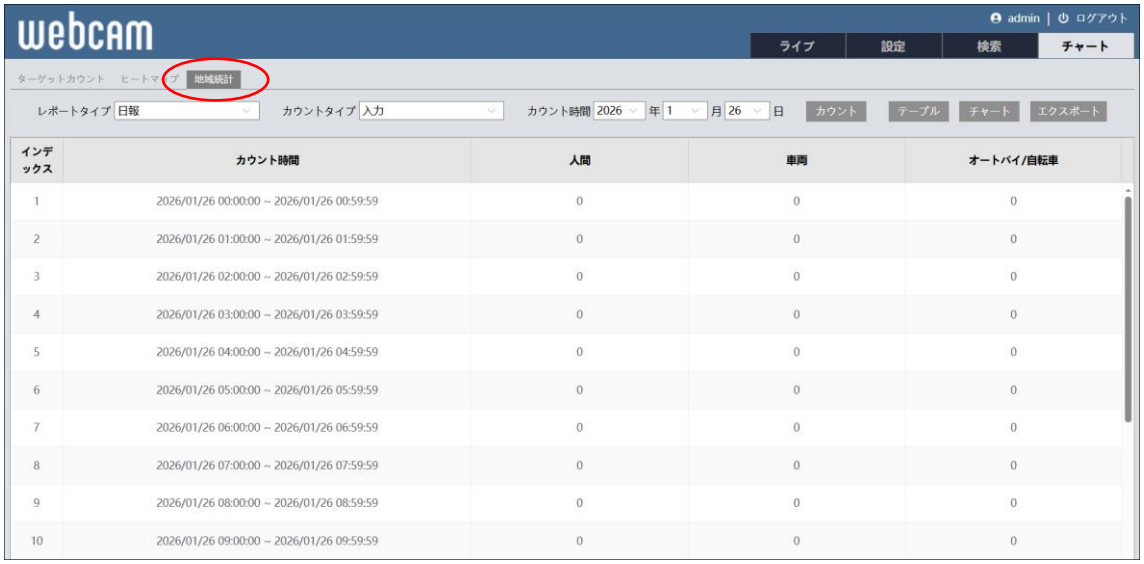
操作方法

① [開始時間]を設定します。
② [終了時間]を設定します。
③ [カウント]をクリックして、再計算及び画面表示を変更します。
④ [人間]、[車両]、[オートバイ/自転車]をクリックすると、各項目のヒートマップを選択できます。
⑤ 右下の[感度]のスライダを左右に動かす。または数値を手動で入力して赤色表示の数を調整します。



5.3 地域統計（エリア内滞留カウント）

左上のタブから[地域統計]タブを選択します。



表示	説明
レポートタイプ	レポートする単位を設定します。 日報:1 日を時間単位で表示 週報:1 週間を曜日単位で表示 月報:1 月を日単位で表示 年報:1 年を月単位で表示
カウントタイプ	“入力（入る）”と”置き去り（出る）”を選択できます。
カウント時間	地域統計の開始日時を設定します。
カウント	設定したレポートタイプやカウントタイプ、日時で再計算します。
テーブル	表形式で表示します。
チャート	図形式で表示します。
エクスポート	カウントの結果を出力します。

図の表示方法

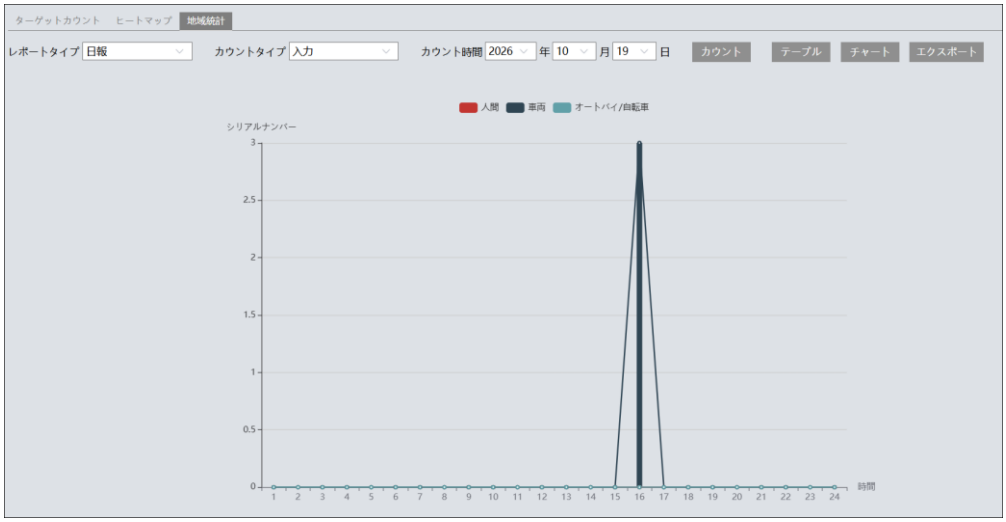
① [レポートタイプ]を選択します。

② [カウントタイプ]を選択します。

③ [カウント時間]で、カウントを開始する日時を設定します。

④ [カウント]ボタンをクリックして計算します。

⑤ [テーブル]または[チャート]をクリックすると表または図を表示します。

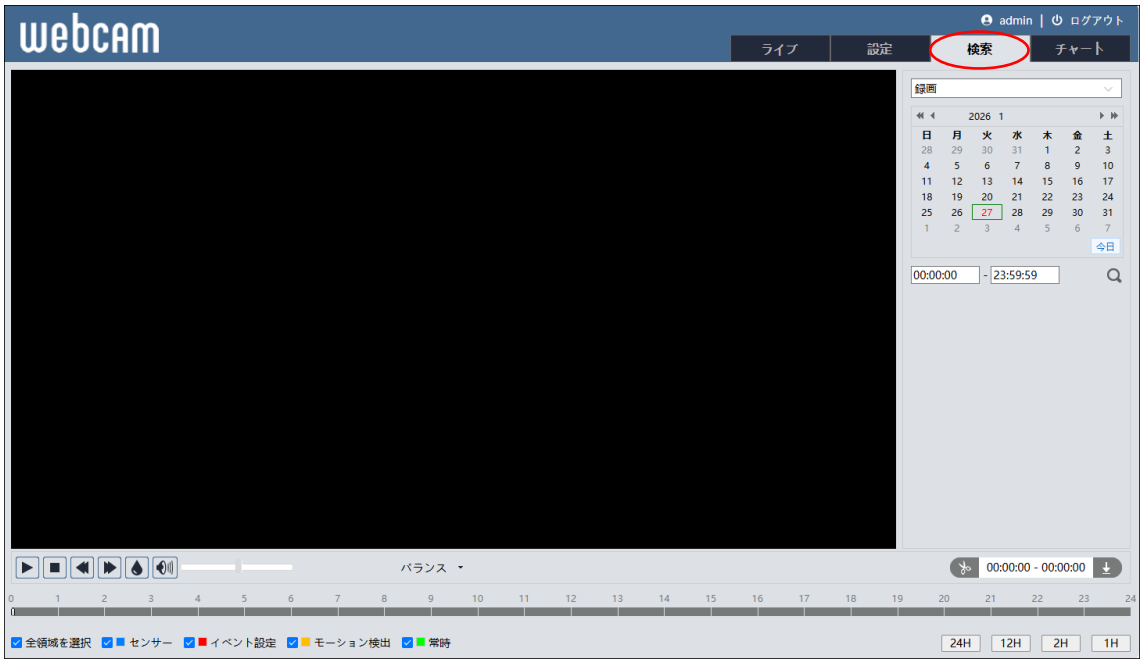


図の上部の[人間]、[車両]、[オートバイ/自転車]をクリックすることで表示・非表示を変更できます。

7. 検索

右上の[**検索**]タブを開きます。

ここでは、カメラ本体に取付けた SD カードに保存されている録画と写真を表示できます。



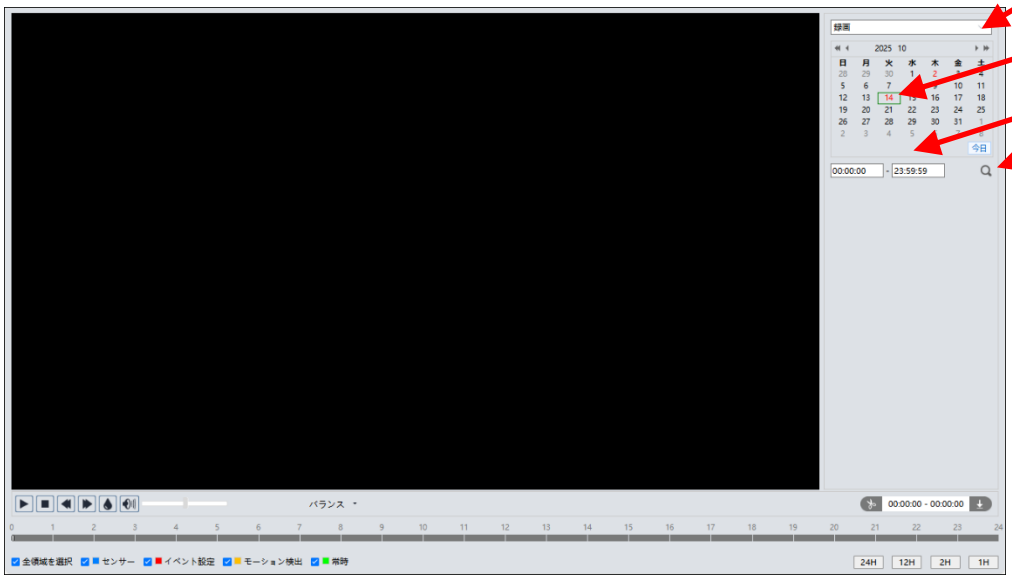
注意：Windows の仕様により Microsoft Edge と Google Chrome はプラグインが正常にインストールできないことがあります。

2026 年 10 月 19 日時点、Microsoft Edge と Google Chrome は SD カードに保存した録画や静止画の再生はできますがダウンロードができません。Mozilla Firefox は SD カードに保存した録画や静止画の再生、ダウンロードができます。

6.1 録画検索

6.1.1 SD カード録画（動画）

SD カードに録画されているビデオは、ここで再生することができます。

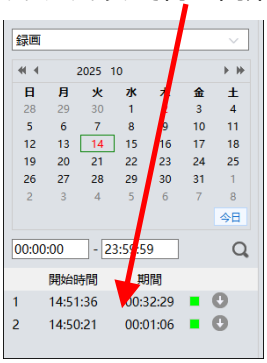


録画検索画面のアイコンを説明します。

アイコン	説明	アイコン	説明
▶ ⏸	再生/一時停止ボタン	■	停止ボタン
◀◀	スピードダウン	▶▶	スピードアップ
💧	電子透かし表示	🔊	スピーカ ON/OFF

検索方法

ダブルクリックで再生開始



検索後に表示する録画ファイルリスト

① 右上のドロップダウンメニューから、”録画”を選択します。

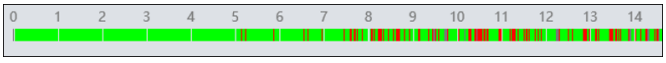
② 検索したい日を設定します。
※録画データがある日はカレンダーの数字が赤色になっています

③ 開始時間と終了時間を選択します。

④ 🔍をクリックして、録画ファイルを検索します。

⑤ 検索後に表示する録画ファイルリスト内のファイルをダブルクリックすると再生を開始します。

⑥ タイムテーブルは 24H / 12H / 2H / 1H 形式で表示できます。
センサー(青)、イベント設定(赤)、モーション検出(橙)、常時録画(緑)で色分けされて表示します。



ビデオクリップとダウンロード

① タイムテーブル上をクリックして、開始時間を選択します。

②  をクリックすると青色 に変わり、開始時間が設定されます。

③ 終了時間も①②と同様に行います。

④  をクリックして、PC にビデオファイルをダウンロードします。

⑤ ダウンロード中は、以下のような画面が表示されます。

設定：PC の保存ディレクトリを指定 / パス：保存フォルダを開く

キャンセル：ダウンロードの中止 / ON：ビデオを再生

リストクリア：ダウンロードリストの削除 / OFF：ダウンロード画面を閉じる

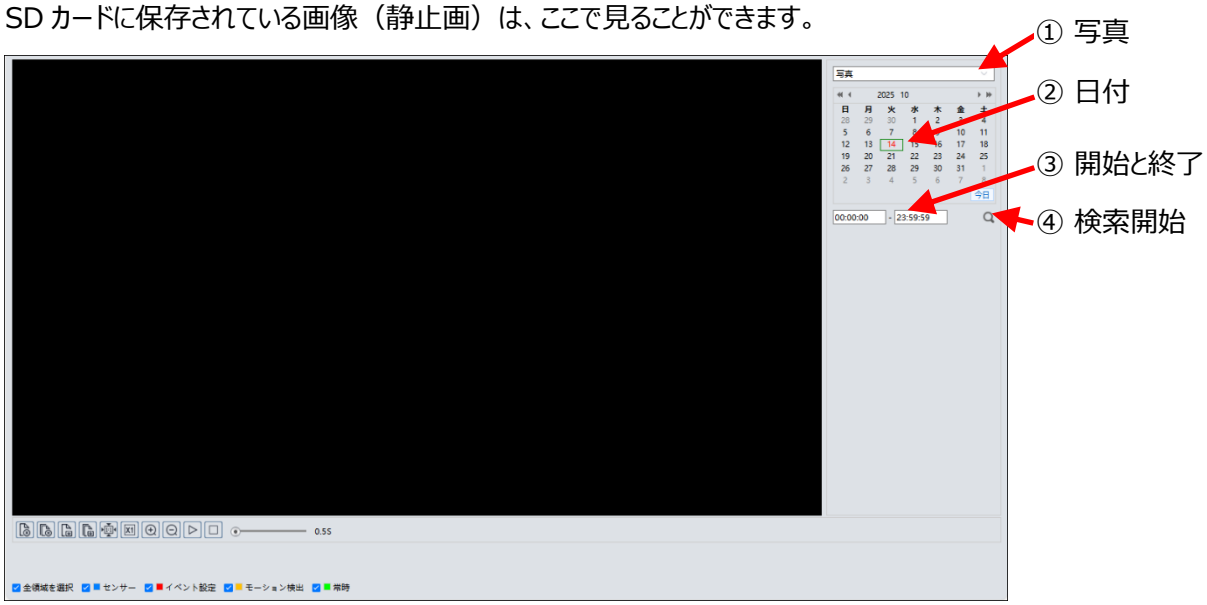


※ ファイル横の  で、イベントごとにダウンロードすることもできます。

6.2画像検索

6.2.1　SD カード画像（静止画）

SD カードに保存されている画像（静止画）は、ここで見ることができます。



画像検索画面のアイコンを説明します。

アイコン	説明	アイコン	説明
	現在の画像を閉じる		すべての画像を閉じる
	現在の画像を保存		すべての画像を保存
	画面サイズに画像を調節する		実際の画像サイズ
	ズームイン/ズームアウト		スライドショー再生/一時停止
	スライドショー停止	0.5S	スライドショーの再生速度

検索方法

① 右上のドロップダウンメニューから、”写真”を選択します。

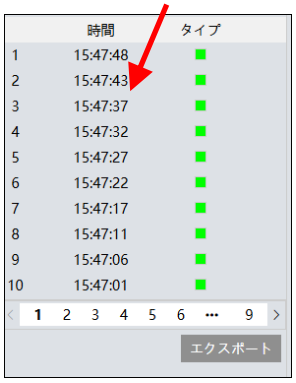
② 検索したい日を設定します。
※画像データがある日はカレンダーの数字が赤色になっています。

③ 開始時間と終了時間を選択します。

④ をクリックして、画像ファイルを検索します。

⑤ 検索後に表示する画像ファイルリスト内をダブルクリックして、保存された画像を表示します。

ダブルクリックで画像を表示



検索後に表示する画像ファイルリスト

8. 製品仕様

●HIC-SE852UW

製品名	**HIC-SE852UW**
形状	タレット
カメラ部	
撮像素子	1 / 2.7” 5MP CMOS SENSOR x 2 個
最低被写体照度	Color：0.0032Lux@F1.6 AGC:ON / IR ON 時:0Lux
赤外線 LED	実装、照射距離＝30m
白 LED	実装、照射距離＝20m
S / N 比	52dB 以上（AGC OFF 時）
レンズ	2.8mm@F1.6 固定焦点レンズ（画角 水平 180°、垂直 66°）
DAY & NIGHT	自動 / 昼間 / 夜 / スケジュール
照明モード	白色 / 赤外線 / スマート
露出調整	自動 / マニュアル（シャッター・ゲイン・絞り）
シャッター速度	自動（1 / 3～1 / 100,000）及びフリッカレス
ホワイトバランス	自動 / 屋内 / 屋外 / マニュアル
DNR（ノイズ除去）	OFF / ON（LEVEL 0～255）
WDR 機能	120dB OFF / ON（LEVEL 低、中、高）
逆光補正(BLC/HLC)	OFF / BLC（エリア：上 / 下 / 左 / 右 / センター）/ HLC
画質調整	明度、コントラスト、色相、彩度、シャープネス
画像鮮明化	自動 / マニュアル
その他の機能	ROI（8 エリア）、プライバシーマスク（4 エリア）、OSD（タイトル表示 / 時刻表示）、SD カード録画
スマート機能	
基本	モーション検知、異常検出（ネットワーク接続、IP 競合、SD カードエラー）
顔検出	最大 15 人 / 秒
スマート検出	物体出現・消失、ライン越え、エリア侵入・退出、ライン通過カウント、エリア内滞留カウント、エリア内活動、ヒートマップ、徘徊検知、違法駐車検知
属性分析（メタデータ）	人間：性別、年齢層、検出方向、帽子、眼鏡、リュック、ショルダーバッグ、長袖/半袖、トップの色、ボトムの色、パンツ丈、スカート、マスク 車　：色、形状
アラーム連係	SD カード録画、SD カード静止画保存、アラーム接点出力、FTP アップロード、E メール通知、ローカル録画、ローカル静止画保存

<table>
<tr><td colspan="2">警告・警報</td><td colspan="5">ブザー音または警告音声、レコーダや Web / CMS / VMS / モバイルアプリからの送話、高輝度赤色 / 青色 LED の点滅</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">DORI</td><td>レンズの焦点距離</td><td>D：検出</td><td>O：観察</td><td>R：認識</td><td>I：識別</td></tr>
<tr><td>2.8mm</td><td>60m</td><td>24m</td><td>12m</td><td>6m</td></tr>
<tr><td colspan="7">ネットワーク部</td></tr>
<tr><td colspan="2">画像圧縮方式</td><td colspan="5">H.265+ / H.265 / H.264+ / H.264 / MJPEG</td></tr>
<tr><td colspan="2">音声圧縮方式</td><td colspan="5">G.711A / μ</td></tr>
<tr><td colspan="2">インタフェース規格</td><td colspan="5">ONVIF Profile （G / M / S / T）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">画像サイズ</td><td>第 1 ストリーム</td><td colspan="5">4640x1760 / 3632x1632 / 3200x1200 / 2304x864</td></tr>
<tr><td>第 2 ストリーム</td><td colspan="5">2048×768 / 1600x608 / 1200×448</td></tr>
<tr><td>第 3 ストリーム</td><td colspan="5">1200×448 / 960×368 / 640x240</td></tr>
<tr><td colspan="2">フレームレート</td><td colspan="5">1～30fps（60Hz）、1～25fps（50Hz）</td></tr>
<tr><td colspan="2">ビットレート制御</td><td colspan="5">CBR / VBR</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="3">ビットレート設定範囲</td><td colspan="2">4640x1760
3632x1632
3200x1200
2304x864</td><td colspan="3">64kbps ~ 10,240kbps :H.264
64kbps ~ 10,240kbps :H.265</td></tr>
<tr><td colspan="2">2048x768
1600x608
1200x448(第 2st)</td><td colspan="3">64kbps ~ 4,096kbps :H.264
64kbps ~ 4,096kbps :H.265</td></tr>
<tr><td colspan="2">1200x448(第 3st)
960x368
640x240</td><td colspan="3">64kbps ~ 2,048kbps :H.264
64kbps ~ 2,048kbps :H.265</td></tr>
<tr><td colspan="2">プロトコル</td><td colspan="5">UDP, IPv4, IPv6, DHCP, NTP, RTSP, RTP, RTCP, RTMP, ICMP, IGMP, FTP, PPPoE, DDNS, SMTP, SNMP, 802.1x, UPnP, HTTP, HTTPs, QoS, P2P</td></tr>
<tr><td colspan="2">同時アクセス数</td><td colspan="5">10</td></tr>
<tr><td colspan="2">その他機能</td><td colspan="5">FTP スナップショット、E-mail 送信、FTP 転送、P2P 接続、オンラインユーザ表示、IP アドレスフィルタ、パスワード保護、不正ログインロック、Microsoft Edge / Google Chrome / Mozilla Firefox 接続、CMS / VMS 接続、モバイルアプリ接続</td></tr>
<tr><td colspan="7">外部インタフェース</td></tr>
<tr><td colspan="2">音声</td><td colspan="5">入力：1 系統（外部 LINE 入力 または 内蔵 MIC）
出力：1 系統（外部 LINE 出力 または 内蔵スピーカ）</td></tr>
</table>

アラーム IN / OUT	入力：1 系統 / 出力：1 系統 ※無電圧接点制御 接点容量：AC125V 1A 以下、DC24V 1A 以下 最小電流：10mA 最小電圧：DC5V
SD カードスロット	Micro SD / SDHC / SDXC（最大 256GB サポート）
イーサネット	RJ-45（10 / 100Base-TX）
電源入力コネクタ	DC +12V（φ2.1mm 標準 DC ジャック）
一般	
電源	DC12V（±10%） / PoE IEEE802.3af
消費電力（Typ.）	IR LED OFF / 白色 LED OFF = 3.72W（DC12V / 310mA） 白色 LED ON = 4.2W（DC12V / 350mA） IR LED ON = 5.64W（DC12V / 470mA）
動作温度	-30～+60℃
動作湿度	0%RH～95%RH（結露なきこと）
寸法	111.5（φ） x (H)102.2 x (D)129.1mm（突起部含まず）
規格・認証	VCCI Class A、RoHS10 物質
防塵・防水性能	IP66
耐衝撃構造	未対応
重量（Typ.）	720 g
製品保証期間	1 年間

9. 困ったときには

本製品の使用中に何らかのトラブルが発生したときの対処方法について説明いたします。

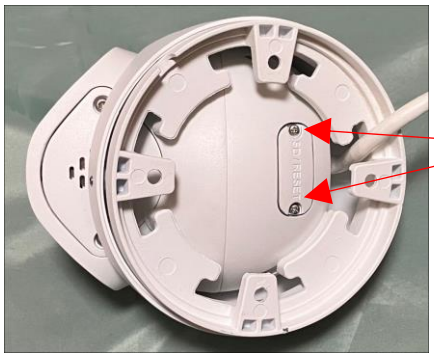
◆パスワードを忘れたときの対処方法

- リセットボタンを操作して初期化する。

※ デフォルト IP：192.168.226.201 / ユーザ名：admin / パスワード：123456

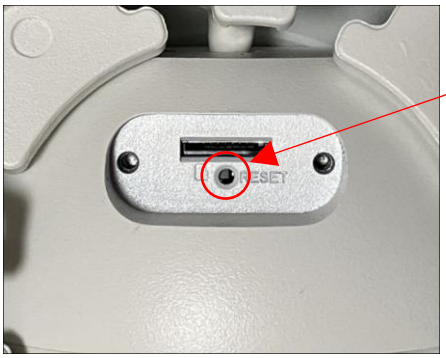
カメラのリセットボタンを押して工場出荷状態に戻す方法（HIC-SE852UW の場合）

① ドライバでカバーを外す。



プラスドライバで外す（2 か所）
ドライバのサイズ 1 番

② リセットスイッチを 10 秒以上長押しする。



細い棒で 10 秒以上長押しする
※強く押しすぎないよう注意

③ カメラが再起動して初期値に戻ります。

④ カバーを元通りに取付けます。※ゴムパッキンを挟まないよう注意してカバーを取付けます。

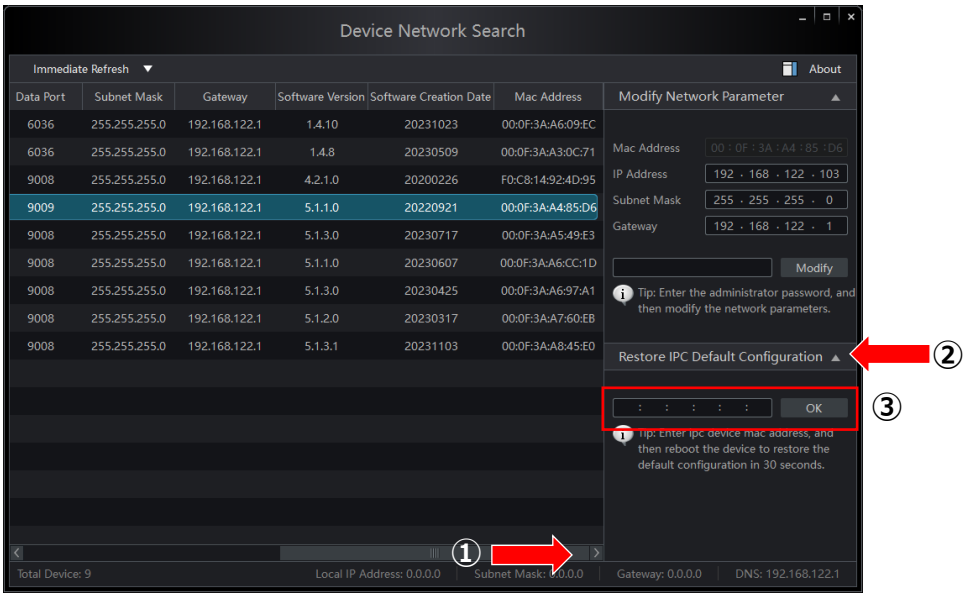
- IP Tool で初期化する。

① 下段のスクロールバーを右に操作して Mac アドレスを表示させます。

② Restore IPC Default Configuration▼をクリックして、Mac アドレス入力 BOX を表示します。

③ Mac アドレスを入力して OK をクリックします。

④ OK をクリックしたら、30 秒以内に電源を OFF→ON します。



◆本機から YouTube Live 配信設定手順

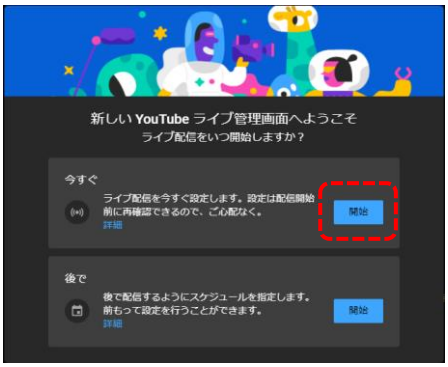
（１） YouTube を開いて Google アカウントでログインします。



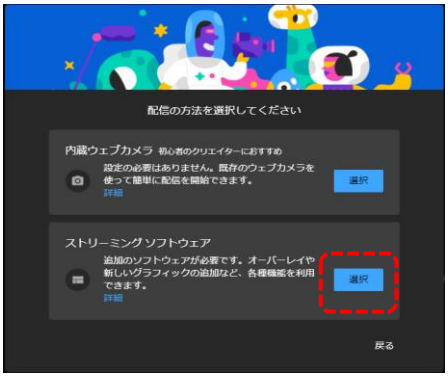
（２） ＋ 作成 をクリックして、“ライブ配信を開始”をクリックします。 ※チャンネルの確認をまだ行っていない場合は、画面の指示に沿ってチャンネルの確認を完了させます。ライブ配信が最初に有効になるまで、最大 24 時間かかるときがあります。



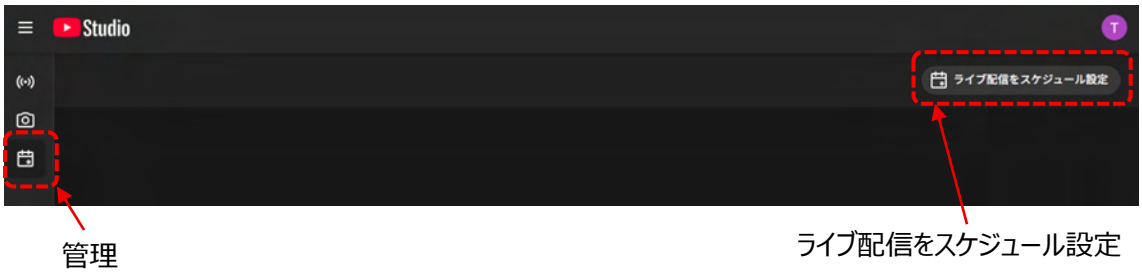
（３）「新しい YouTube ライブ管理画面へようこそ」が表示されたら、今すぐ「開始」をクリックします。



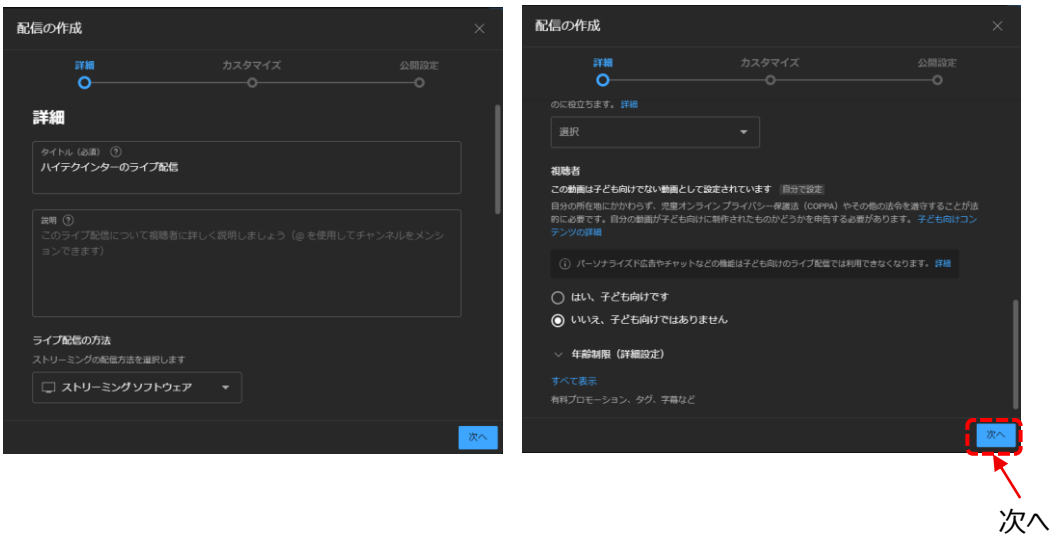
（４）「配信方法を選択してください」が表示されたら、「ストリーミングソフトウェア」を選択します。



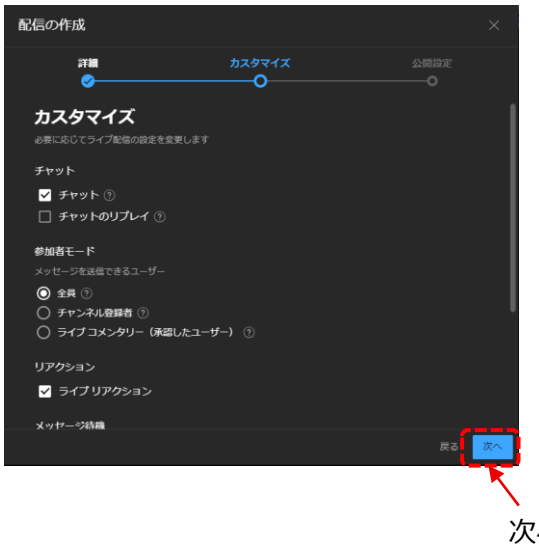
（５） YouTube Studio の画面が開くので、「管理」をクリックした後、「ライブ配信をスケジュール設定」をクリックして、ライブ配信のスケジュールを設定します。新規作成をクリックします。



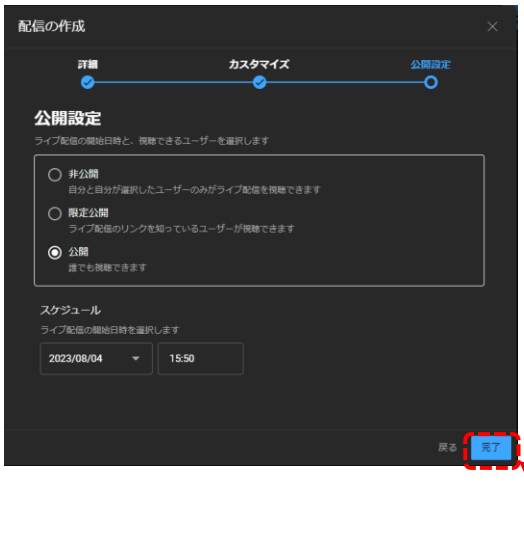
（６） 詳細を設定します。配信のタイトルを入力します（必須）。下にスクロールして「視聴者」を設定します。 その他の項目は必要に応じて設定し、「次へ」をクリックします。



（７） カスタマイズを設定します。設定が完了したら「次へ」をクリックします。

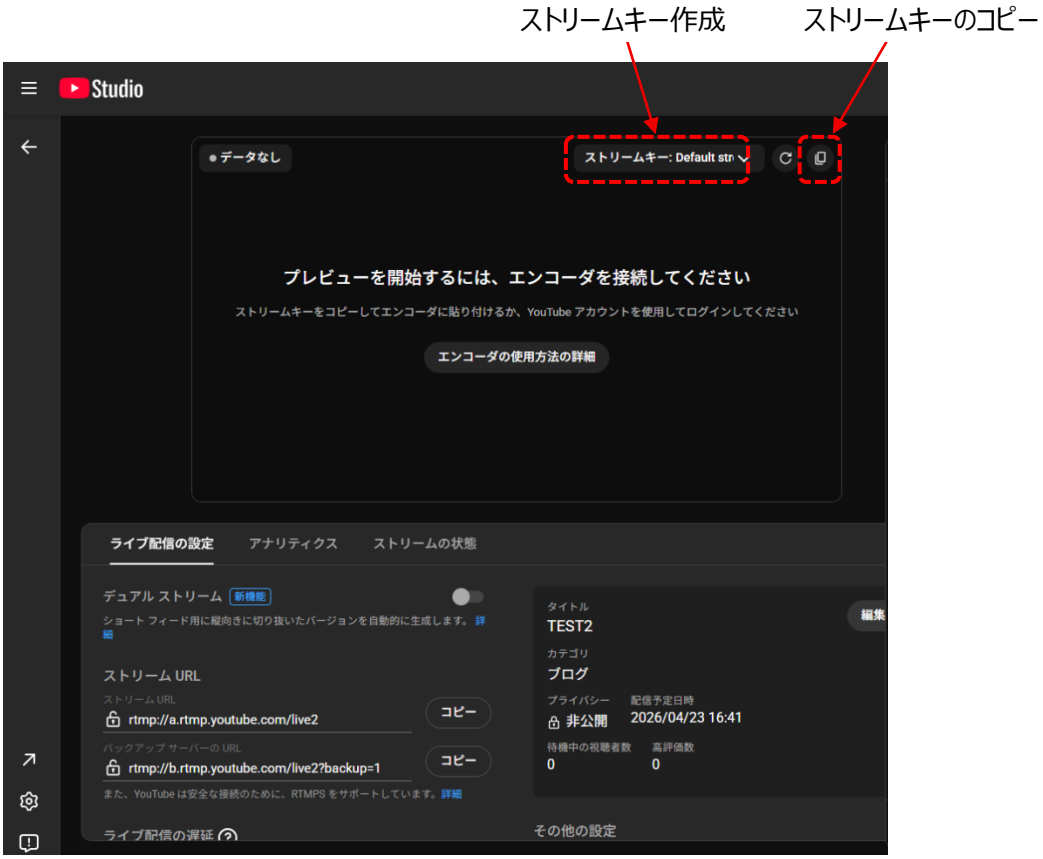


（８）　公開設定を設定します。設定が完了したら「完了」をクリックします。

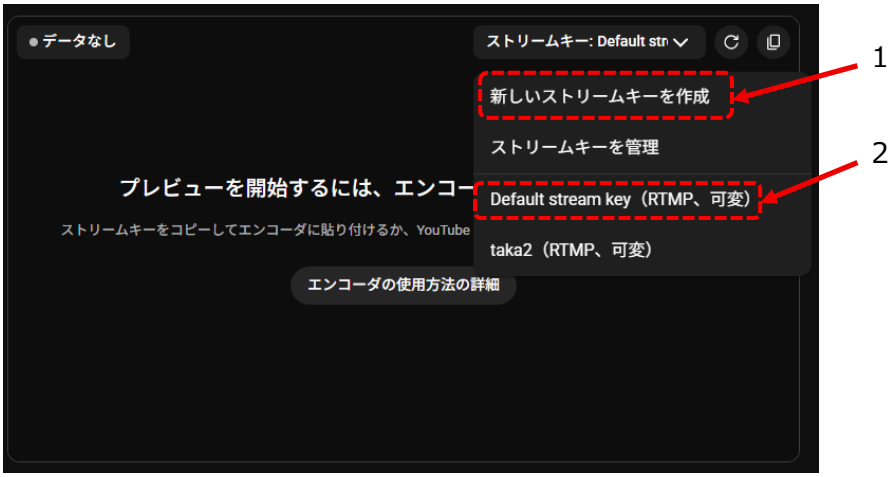


（９）　エンコーダ配信の画面で、ストリーム URL とストリームキーをコピーします。

ストリームキーはデフォルトキーを使用するか、オリジナルのキーを新規に作成することができます。セキュリティ対策として、オリジナルキーを作成することを推奨します。



（１０）オリジナルキーを作成するときは「1」をクリックします。デフォルトキーのままで良いときは「2」をクリックします。

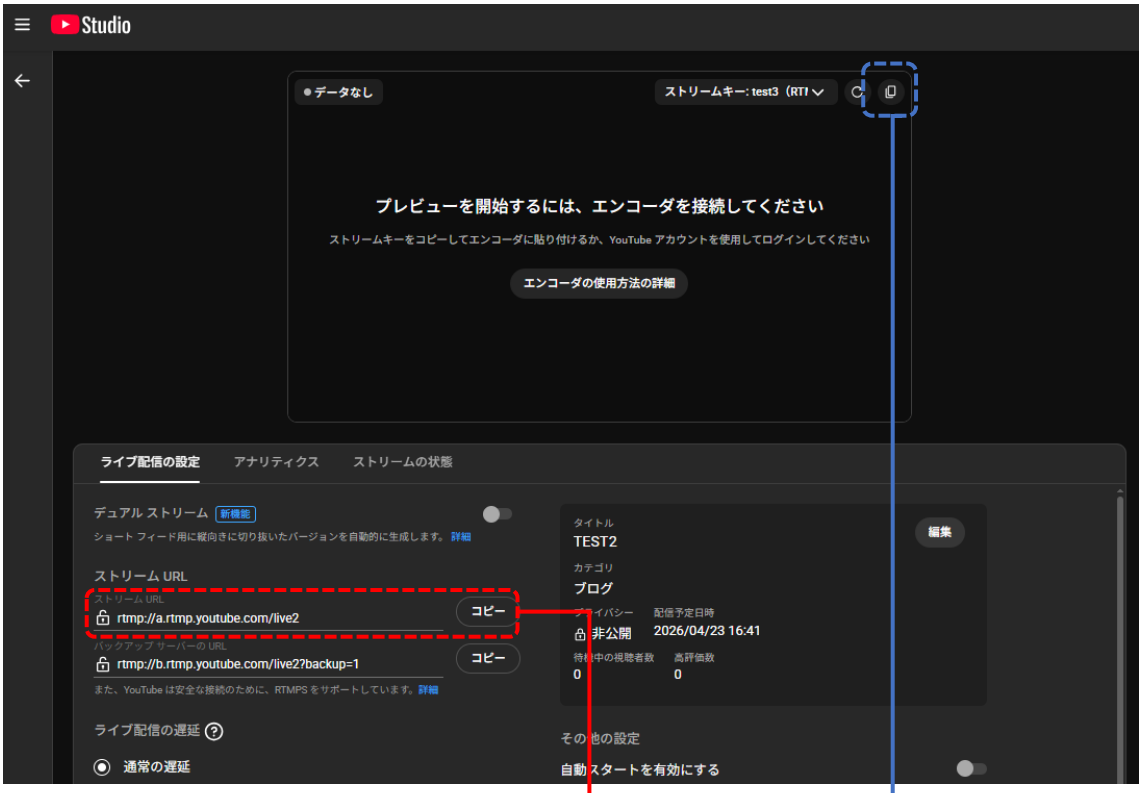


（１１） 「新しいストリームキーを作成」をクリックすると以下が表示されます。

「名前」を入力したら「作成」をクリックします。「作成」をクリックするとカスタムキーが作成されます。



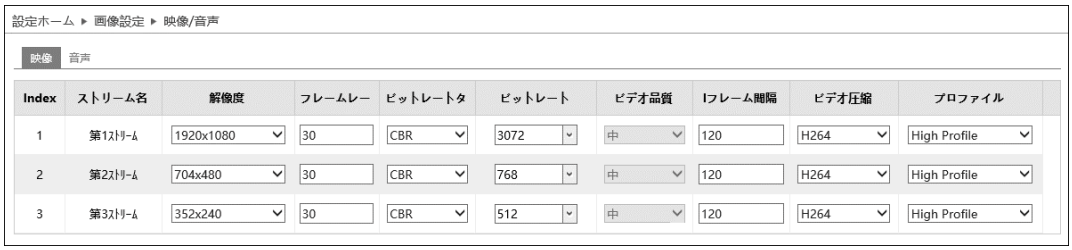
（１２） ストリームキーとストリーム URL をコピーしてメモ帳などに記録します。



rtmp://a.rtmp.youtube.com/live2/abcd-efgh-ijkl-mnop-qrst
後ほど使用しますので、ストリーム URL とストリームキーは/で区切って、
メモ帳などに記録します。

（１３）カメラに YouTube 配信に使用するストリームを設定します。

ストリーム設定は「4.2.2 **映像/音声**」で設定します。通信回線の速度に応じて、最適な設定を行います。ビデオ圧縮は必ず、「H.264」を設定する必要があります。



（１４）カメラのネットワーク設定（RTMP）に YouTube Studio でメモしたストリーム URL とストリームキーを設定して保存します。

[編集]をクリックしてから有効にチェックを入れ、各項目を設定します。



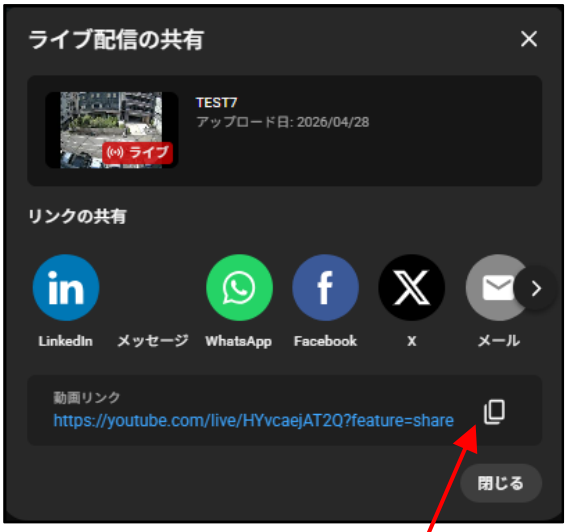
保存した後に「更新」をクリックします。「接続完了」の表示になれば YouTube との接続は完了です。

（１５）カメラからの RTMP 接続が正常に行われている場合、ライブ配信が開始され、以下のような画面となります。ライブ配信を終了したい場合は、画面右上の **“ライブ配信を終了”** ボタンをクリックします。





ボタンをクリックすると、動画リンクを取得出来ます。



ライブ配信の設定にある編集ボタンをクリックすることで、動画のタイトル、概要欄の編集、また、公開範囲の設定等が行えます。



動画リンクをコピー

・限定公開（リンクを知っている人だけが見れる）
・非公開
・公開（誰でも見られる）
が選択出来ます。

◆本体の電源が入らない

以下の点を確認してください。

- 電源コンセントには、電源が供給されているか。
- 電源には、適切な電圧が供給されているか。
- 正しいポートに、電圧が供給されているか。

◆RJ-45 ポートでリンクが確立しない

以下の点を確認してください。

- 接続先の機器の電源は入っているか。
- 各コネクタとケーブルが正しく接続されているか。

◆ブラウザ経由でデバイスを接続できない

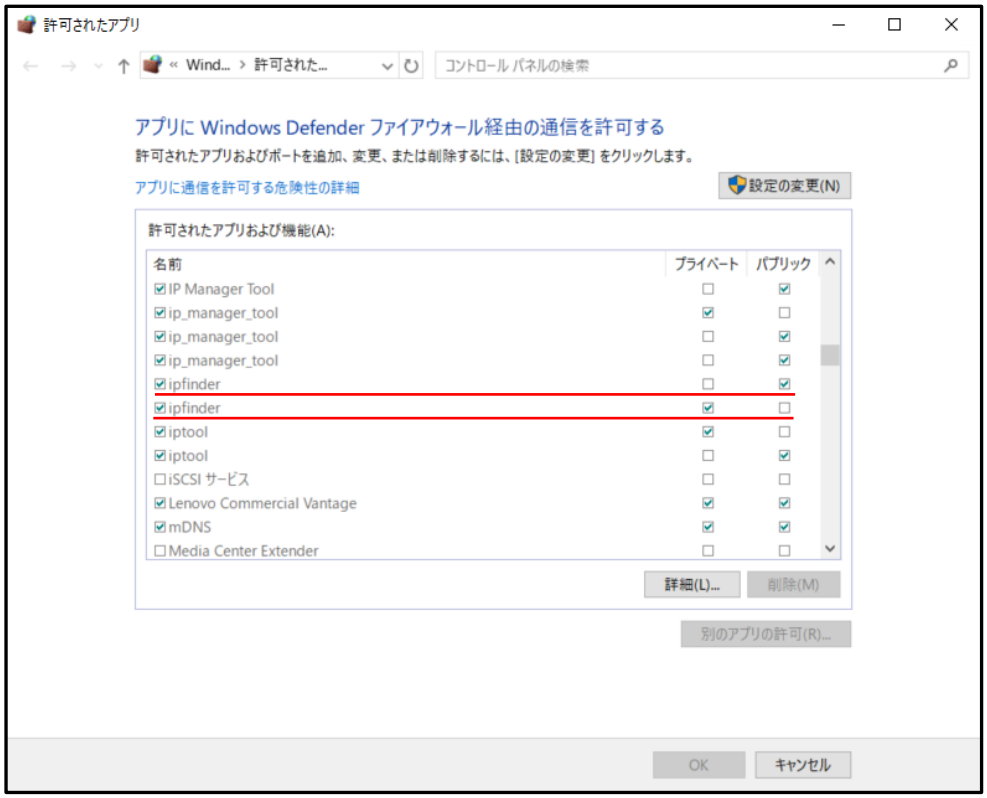
以下の点を確認してください。

- ネットワークが正しく接続されていることを確認してください。
- IP が利用できない可能性(IP の競合など)があります。有効な IP にリセットしてください。
- Web ポート番号の設定を変更した、或いは変更された。 管理者に連絡して、正しいポート番号を取得してください。

※ 上記の 3 つの理由以外の場合、IP-Tool でデフォルト設定に戻します。
デフォルト IP：192.168.226.201 / サブネットマスク：255.255.255.0

◆IP-Tool でデバイスを見つけられない

- コンピュータのウイルス対策ソフトウェアが原因である可能性があります。終了して、デバイスを再度検索してください。
- スタート→設定→更新とセキュリティ→Windows セキュリティ→ファイアウォールとネットワーク保護→ファイアウォールによるアプリケーションの許可、に移動し IP-Tool がプライベート、パブリックの両方で許可されているか確認してください。
  許可されていない場合は、「設定の変更」をクリックして許可してください。



◆プラグインをインストールしたが Edge の IE 互換モードで映像を表示できない

- C++ (MSVC) ランタイム ライブラリがインストールされていない場合、プラグインが正常に動作しません。
  IP Tool をインストールすると、必要な C++ (MSVC) ランタイム ライブラリがインストールされます。

◆プラグインをアンインストールしたい

- プラグインをアンインストールしたい、或いは、一度アンインストールして再インストールしたい場合は、スタート→設定→アプリ→アプリと機能、に移動してアンインストールします。
  対象のアプリは、NetAPCamera、NetAIIPCamera、NetAIHotIPCamera、などです。

◆音が聞こえない

- マイクなどの音声出力デバイスが正しく接続されていることを確認してください。
- 音声出力デバイスの音声出力レベルを確認してください。
- 設定メニューの、画像設定→映像/音声で音声が有効になっているか確認してください。
- 設定メニューの、画像設定→映像/音声で、音声出力音量を調整してください。

10. 製品保証

◆ 故障かなと思われた場合には、弊社カスタマサポートまでご連絡ください。

1) 修理を依頼される前に今一度、この取扱説明書をご確認ください。

2) 本製品の保証期間内の自然故障につきましては無償修理させて頂きます

3) 故障の内容により、修理ではなく同等品との交換にさせて頂く事があります。

4) 弊社への送料はお客様の負担とさせて頂きますのでご了承ください。

初期不良保証期間：

ご購入日より**3ヶ月間** (弊社での状態確認作業後、交換機器発送による対応)

製品保証期間：

《本体》ご購入日より**1 年間**(お預かりによる修理、または交換対応)

◆ 保証期間内であっても、以下の場合は有償修理とさせて頂きます。
(修理できない場合もあります)

1) 使用上の誤り、お客様による修理や改造による故障、損傷

2) 自然災害、公害、異常電圧その他外部に起因する故障、損傷

3) 本製品に水漏れ・結露などによる腐食が発見された場合

◆ 保証期間を過ぎますと有償修理となりますのでご注意ください。

◆ 一部の機器は、設定を本体内に記録する機能を有しております。これらの機器は修理時に設定を初期化しますので、お客様が行った設定内容は失われます。恐れ入りますが、修理をご依頼頂く前に、設定内容をお客様にてお控えください。

◆ 本製品に起因する損害や機会の損失については補償致しません。

◆ 修理期間中における代替品の貸し出しは、基本的に行っておりません。別途、有償サポート契約にて対応させて頂いております。有償サポートにつきましてはお買い上げの販売店にご相談ください。

◆ 本製品の保証は日本国内での使用においてのみ有効です。

製品に関するご質問･お問い合わせ先

ハイテクインター株式会社　カスタマサポート
受付時間：　平日（土日祝日、年末年始、当社休業日を除く）　9:00～17:00
TEL：　0570-060030
問合せフォーム：
https://hytec.co.jp/contact/technical_support_form.html

Copyright © 2026
HYTEC INTER Co., Ltd.